山梨県韮崎市

Sakaiminami SITE Ⅳ

坂井南遺跡Ⅳ

藤井町北下条字大原2381番地の1地点

工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

韮崎市教育委員会
財団法人山梨文化財研究所
東京エレクトロンAT株式会社

山梨県韮崎市

Sakaiminami SITE Ⅳ

坂井南遺跡Ⅳ

藤井町北下条字大原2381番地の1地点

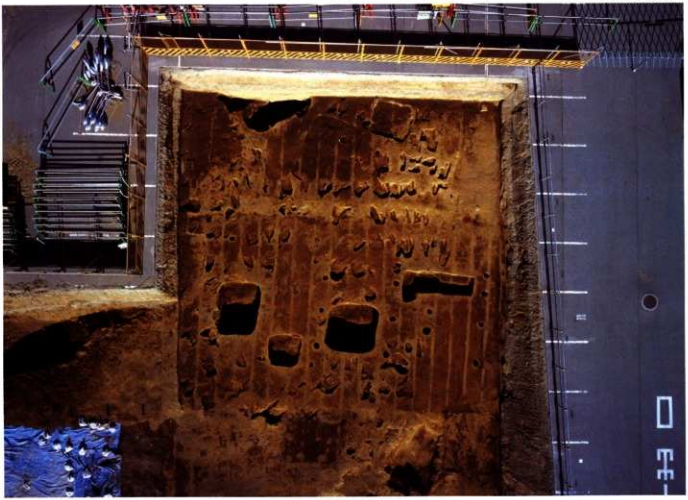
工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007

韮崎市教育委員会
財団法人山梨文化財研究所
東京エレクトロンAT株式会社

1　A区全体図

2　B区全体図



1　B区北側全体図

2　12号溝

例　言

1．本書は、山梨県韮崎市藤井町北下条字大原2381番地の1外に所在する、坂井南遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、工場建設工事に先立って実施されたもので、東京エレクトロンＡＴ株式会社の委託を受けた財団法人山梨文化財研究所が、発掘調査および整理作業にあたった。

3．本書の執筆・編集は宮澤公雄が行った。

4．発掘調査および整理作業において一部の業務を以下の機関に委託した。
基準点・航空測量　フジテクノ株式会社

5．本書に関わる記録図面・写真・出土遺物等は、韮崎市教育委員会が保管している。

6．本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位から多大なるご指導・ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である。
韮崎市教育委員会、関間俊明、佐々木満、中山誠二、室伏徹、山下孝司

7．参考文献は、執筆者順に第4章末にまとめて記載した。

凡　例

1．遺跡全体におけるX・Y座標は、世界測地系平面直角座標第Ⅷ系のX＝－30,610.000、Y＝－5,860.000（北緯35度43分27秒、東経138度26分07秒）を基点（X＝0、Y＝0）とした座標値である。なお、各遺構平面図中に示す方位は、すべて座標北を示している。
　なお、真北方向角は0度2分16秒となる。

2．遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。
　遺　構
　　竪穴住居　―　1/20、1/40
　　竪穴状遺構　―　1/40
　　掘立柱建物　―　1/40
　　溝　―　1/20、1/40、1/60、1/120
　　土　坑　―　1/20
　　ピット　―　1/20
　遺　物
　　土　器　―　1/3、1/6
　　石・土・金属製品　―　1/2

3．遺構図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。
　炭化物　石　焼土

4．遺構図版中の遺物分布図のマークは以下の通りである。ただし、マークの向きは北位を基準としたものである。
　●土師器（壺・甕系）　○土師器（高坏・器台系）　△土師器（坏・鉢）　▲土師器（甑）
　✱土師質土器　◯須恵器　⬟灰釉陶器　⧗陶器　▽磁器　■弥生土器　□縄文土器　✖石製品
　米金属製品　□瓦　✲不明土器

5．遺物図版中で使用したスクリーントーンの凡例は、以下の通りである。
　赤彩土器

6．遺構同・一図版中の標高は、原則として統一しているが、一部異なるものもあり明記してある。

7．遺構図版中および土器観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務所監修　1990『新版　標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄）による。

8．本書で用いた地図は、韮崎市発行の韮崎市管内図（1:10,000および1:2,500）である。

目　次

例　言
凡　例
第１章　序　説 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
　第３節　調査の方法 …… 4
　第４節　遺跡概要 …… 4
　第５節　基本層序 …… 5

第２章　遺跡の立地と環境 …… 6
　第１節　遺跡の地理的位置 …… 6
　第２節　遺跡の歴史的環境 …… 6

第３章　遺構と遺物 …… 11
　第１節　竪穴住居跡 …… 11
　第２節　竪穴状遺構 …… 12
　第３節　掘立柱建物跡 …… 13
　第４節　土坑・ピット …… 13
　第５節　溝　跡 …… 14

第４章　まとめ …… 22
　第１節　古墳時代前期の集落について …… 22
　第２節　中世の遺構について …… 23

参考文献 …… 25

おわりに …… 26

表目次

第１表　土坑・ピット一覧表 …… 11
第２表　出土遺物観察表（土器） …… 12
第３表　出土遺物観察表（金属製品） …… 13

図版目次

第１図　Ａ区遺跡全体図 …… 2
第２図　Ｂ区遺跡全体図 …… 3
第３図　坂井南遺跡調査区位置図 …… 5
第４図　遺跡基本土層 …… 6
第５図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 8
第６図　１号住居、18・19号土坑平面図 …… 27
第７図　２号住居・炉平面図 …… 28
第８図　３号住居平面図 …… 29・30
第９図　３号住居炉平面図・遺物分布図（１） …… 31・32
第10図　３号住居遺物分布図（２） …… 33・34
第11図　４号住居平面図 …… 35
第12図　１号竪穴状遺構平面図 …… 36
第13図　２号竪穴状遺構平面図 …… 37
第14図　３号竪穴状遺構平面図 …… 38
第15図　１号掘立柱建物平面図 …… 39・40
第16図　土坑・ピット平面図（１） …… 41
第17図　土坑・ピット平面図（２） …… 42
第18図　土坑・ピット平面図（３） …… 43
第19図　土坑・ピット平面図（４） …… 44
第20図　土坑・ピット平面図（５） …… 45
第21図　土坑・ピット平面図（６） …… 46
第22図　土坑・ピット平面図（７） …… 47
第23図　土坑・ピット平面図（８） …… 48
第24図　土坑・ピット平面図（９） …… 49
第25図　土坑・ピット平面図（10） …… 50
第26図　土坑・ピット平面図（11） …… 51
第27図　土坑・ピット平面図（12） …… 52
第28図　土坑・ピット平面図（13） …… 53
第29図　土坑・ピット平面図（14） …… 54
第30図　土坑・ピット平面図（15） …… 55
第31図　土坑・ピット平面図（16） …… 56
第32図　土坑・ピット平面図（17） …… 57
第33図　土坑・ピット平面図（18） …… 58
第34図　土坑・ピット平面図（19） …… 59
第35図　土坑・ピット平面図（20） …… 60

第36図　土坑・ピット平面図（21）…… 61
第37図　土坑・ピット平面図（22）…… 62
第38図　土坑・ピット平面図（23）…… 63
第39図　土坑・ピット平面図（24）…… 64
第40図　1・2号溝平面図 …… 65
第41図　3号溝平面図 …… 66
第42図　10号土坑・4号溝平面図 …… 67
第43図　1～4号溝セクション図 …… 68
第44図　5・6号溝平面図 …… 69
第45図　7号溝平面図 …… 70
第46図　8・9・10号溝平面図 …… 71
第47図　11号溝平面図 …… 72
第48図　11号溝遺物分布図 …… 73
第49図　12号溝平面図（1） …… 74
第50図　12号溝平面図（2） …… 75
第51図　12号溝セクション図 …… 76
第52図　13号溝平面図 …… 77
第53図　13号溝遺物分布図 …… 78
第54図　15号溝平面図 …… 79
第55図　出土遺物（1） …… 80
第56図　出土遺物（2） …… 81
第57図　出土遺物（3） …… 82

写真図版目次

巻頭1　1　A区全体図
　　2　B区全体図
巻頭2　1　B区北側全体図
　　2　12号溝
図版1　1　1号住居
　　2　同遺物出土状況（1）
　　3　同（2）
　　4　2号住居
　　5　同遺物出土状況（1）
　　6　同（2）
　　7　同（3）
　　8　同炉
図版2　1　3号住居
　　2　同遺物出土状況（1）
　　3　同（2）
　　4　同（3）
　　5　4号住居
　　6　同遺物出土状況（1）
　　7　同（2）
　　8　1号竪穴状遺構
図版3　1　2号竪穴状遺構
　　2　3号竪穴状遺構
　　3　同遺物出土状況
　　4　1号掘立柱建物
　　5　1号土坑
　　6　2号土坑
　　7　3・4号土坑
　　8　5号土坑
図版4　1　6号土坑
　　2　7号土坑
　　3　8号土坑
　　4　9号土坑
　　5　10号土坑
　　6　15号土坑
　　7　16号土坑
　　8　17号土坑
図版5　1　20号土坑
　　2　21・22号土坑
　　3　27・28号土坑
　　4　30号土坑
　　5　32号土坑
　　6　33号土坑
　　7　34号土坑
　　8　36号土坑
図版6　1　1・2号ピット
　　2　6号ピット
　　3　88・93～99号ピット
　　4　94～98号ピット
　　5　138～142号ピット
　　6　1・2号溝
　　7　3～5号溝
　　8　7号溝
図版7　1　8・9号溝
　　2　11号溝
　　3　12号溝（1）
　　4　同（2）
　　5　同（3）
　　6　同（4）
　　7　同セクション（1）
　　8　同（2）
図版8　1　13号溝
　　2　15号溝
　　3　A区調査風景
　　4　B区北側調査風景（1）
　　5　同（2）
　　6　B区南側調査風景
　　7　12号溝調査風景（1）
　　8　同（2）
図版9　出土遺物（1）
図版10　出土遺物（2）
図版11　出土遺物（3）

第1章　序　説

第1節　調査に至る経緯

茅崎市藤井町は、塩川によって形成された平坦地と河岸段丘上の台地とからなる。平坦地は水田地帯となっているが、近年急速な宅地化が進行している。対して通称七里岩台地と呼ばれるこの河岸段丘上は、宅地化がそれほど進行しておらず、広大な畑地として利用されており、果樹栽培ならびに根菜類の栽培が盛んに行われている。

東京エレクトロンＡＴ株式会社は、敷地内に新たな工場を建設する計画であったが、敷地内は弥生時代末から古墳時代前期の集落と墓地からなる周知の坂井南遺跡内にあり、今回の工場建設予定地にも遺構が存在することが想定された。

この計画を受け、茅崎市教育委員会では2005年7月に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居跡と思われる遺構などが確認されたため、発掘調査が必要であると判断した。

2005年8月に茅崎市教育委員会および事業主体である東京エレクトロンより財団法人山梨文化財研究所に対し、坂井南遺跡の発掘調査の依頼があり三者で協議した結果、協定ならびに委託契約を結んで発掘調査および整理作業にあたることとした。

その後、工場建設計画にいくつかの変更がなされたために、発掘調査に着手したのは同年10月11日からである。

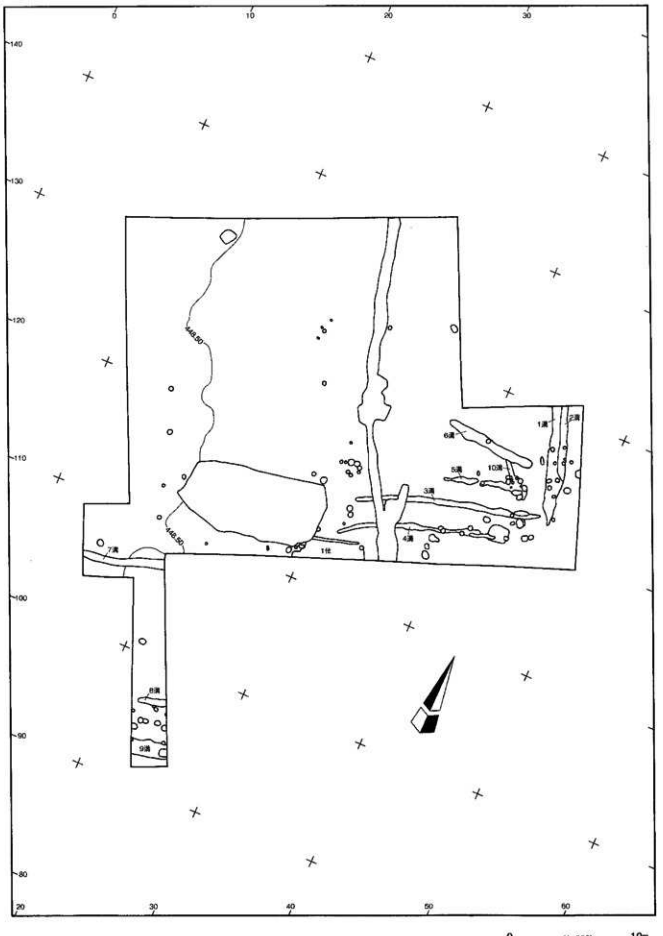
工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を東京エレクトロンＡＴ株式会社、茅崎市教育委員会、財団法人山梨文化財研究所の間において締結し、東京エレクトロンＡＴ株式会社、財団法人山梨文化財研究所の間において、委託契約を締結し事業にあたった。

調査体制

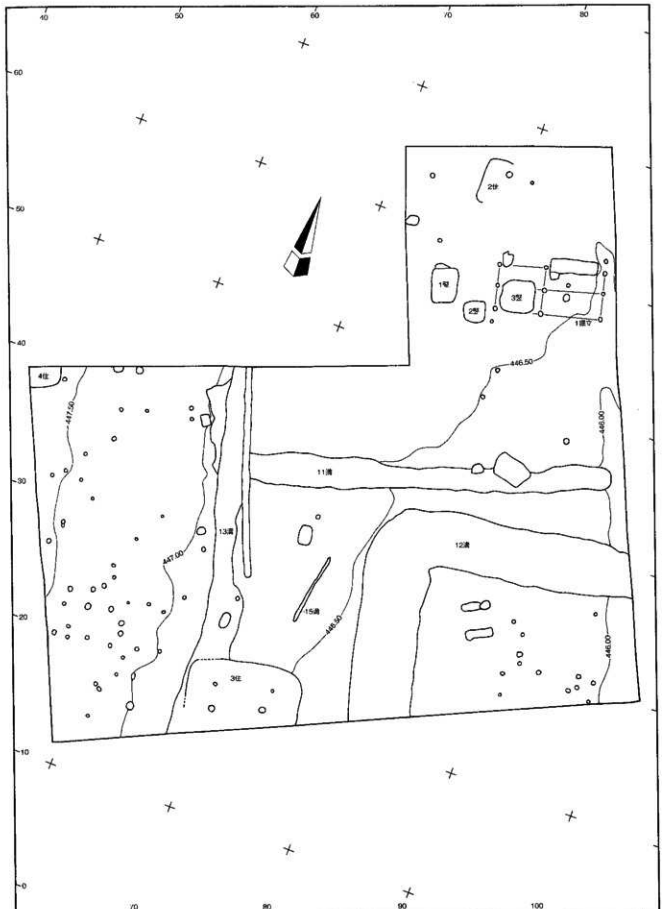
調査主体	財団法人山梨文化財研究所
調査担当者	宮澤公雄　財団法人山梨文化財研究所
〃（非常勤）	平野　修　財団法人山梨文化財研究所
調査員	鈴木　稔　財団法人山梨文化財研究所
発掘調査参加者	飯室恵子、岩下和枝、岩下保夫、奥原幸子、草間やよい、草間良雄、窪田信一、輿水和彦、小菅春江、五味ゆき子、清水裕子、内藤陽子、中川博子、中川美治、萩原忠、原野ゆかり、平嶋純一、平嶋弘子、藤原和美、守屋敏子、八巻きよ子、梶原薫、斉藤ひろみ
整理作業参加者	小沢恵津子、梶原薫、斉藤ひろみ、杉田陽子、須田泰美、竜沢みち子、田中真紀美、手塚由美、手塚理恵、原野ゆかり、柳本千恵子

第2節　調査経過

2005年	10月11日	Ａ区表土剥ぎ開始
	10月31日	Ａ区遺構測量開始
	11月8日	１号住居調査終了
	11月15日	Ａ区航空写真測量、Ａ区調査終了
	11月17日	Ｂ区北東部分表土剥ぎ開始
	11月22日	遺構確認作業開始
	11月24日	竪穴状遺構調査開始


0
10
20
30
140
130
120
110
100
90
80
20
30
40
50
60
448.50
448.50
1溝
2溝
3溝
4溝
5溝
6溝
7溝
8溝
9溝
10溝
1住
0
(1:300)
10m

第１図　Ａ区遺跡全体図



第２図　Ｂ区遺跡全体図

12月２日　B区南側表土剥ぎ開始
12月12日　杭打ち作業
12月15日　12号溝調査開始
12月16日　A区拡張部表土剥ぎ、調査開始
12月20日　A区拡張部、B区北東部航空写真測量
12月27日　12号溝調査終了

2006年　１月13日　３号住居調査開始
２月３日　B区航空写真測量
２月７日　現地作業終了

第３節　調査の方法

調査区設定の後、重機により表土を除去し、引き続き人力による遺構確認作業を行った。確認された遺構は、構築年代の新しいものから順次調査を行ったが、一部新旧関係が不明な重複した遺構については同時に調査を行い、土層観察により新旧関係の決定を行った。

出土した遺物は遺構内のものについてはすべて、遺構外出土のものについても原位置が明らかなものは光波測量機器を用いて個別に取り上げを行い、遺物微細図はデジタルカメラによる測量を実施した。遺構図の図化は、光波測量器による測量とデジタルカメラによる測量を併用した。

測量に用いた機器およびシステムは以下の通りである。

光波測量機器　TOPCON　GPSⅢ
コンピュータ　SHARP　コベルニクス
取り上げ・図化システム　株式会社コンピュータ・システム製　SITEⅣ
デジタルカメラ図化システム　株式会社コンピュータ・システム製　SITE3D

工場建設予定地のうち中間部分は、工場新設と駐車場整備のため坂井南遺跡の第３次調査として、韮崎市教育委員会によって1985年に発掘調査が実施されており、調査対象地区から除外した。調査区が２ヶ所に分かれたため、便宜上北側に調査区をA区、南側の調査区をB区とし、発掘調査にあたった。

また、工場建設の工期にあわせ、北側のA区を優先して調査することとした。

重機による表土剥ぎ終了後、調査区全体を被うように国土座標にあわせて南北方向をX軸、東西方向をY軸とするメッシュをかけ、南西隅を基点とした。世界測地系座標X＝－30,610.000ｍ、Y＝－5,860.000ｍを原点（X＝0、Y＝0）とし、調査区内に５ｍメッシュの杭打ちを行った。

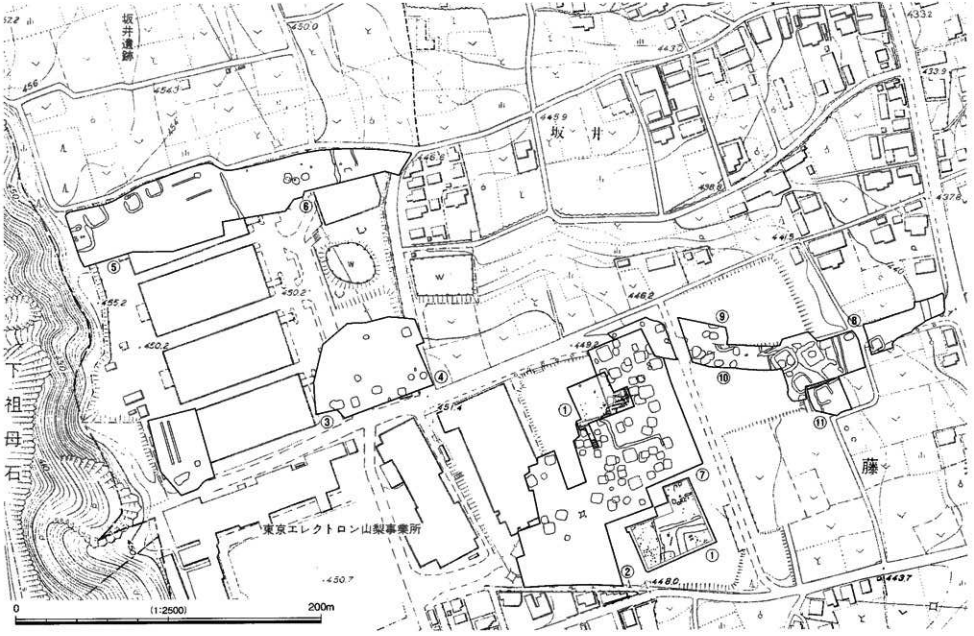
また、調査では、光波測量器による遺物の取り上げを行ったため、東西、南北とも１ｍのグリッドとして両軸とも整数を用いて表現した。

第４節　遺跡概要

本遺跡は、釜無川と塩川に挟まれた、通称「七里岩台地」と呼ばれる河岸段丘上に位置し、現在は果樹園や畑地が営まれている地域にある。

坂井南遺跡は遺跡範囲が広く、東西400ｍ、南北400ｍほどとされており、東京エレクトロンＡＴ株式会社ならびにその前身である株式会社テルメックの工場建設や進入道路建設および個人住宅建設などに伴ってこれまでに７回におよぶ発掘調査が実施されている。

第１次調査地点は、本調査区の東隣に位置し、1982年に東京エレクトロンの前身である株式会社テルメッ



第３図　坂井南遺跡調査区位置図

クの特別高圧受電設備建設地ならびに周辺地区の3,600㎡が発掘調査されている。調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居跡7軒、特殊遺構1棟、掘立柱建物跡3棟などが発見された（第3図②）。

第2次調査は、翌1983年工場建設に伴ってA地区からD地区に分け、発掘調査を実施している。A地区では古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、配石遺構1基を検出（同③）。B地区では古墳時代前期の竪穴住居跡8軒、平安時代の竪穴住居跡2軒、土坑2基を検出（同④）。C地区では縄文時代中期の竪穴住居跡1軒、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、平安時代の竪穴住居跡5軒、土坑6基、溝状遺構2基を発見（同⑤）。D地区では古墳時代前期の方形周溝墓4基を発見している（同⑥）。

第3次調査地点は、第1次調査地点の東隣に位置し、本調査区とも接している。1984年に工場新設と駐車場整備に伴って発掘調査が実施された。調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居跡56軒、土坑2基、溝状遺構1条、中世の集石土坑2基などが検出された（同⑦）。

第4～6次調査は、本調査区の東側に位置する地点を進入道路新設に先立って発掘調査している。第4次調査は、1992年に実施され、古墳時代前期の竪穴住居跡7軒、方形周溝墓5基、溝状遺構4条などが発見された（同⑧）。第5次調査は、第4次調査地点の北西側において翌93年に実施され、古墳時代前期の竪穴住居跡3軒が発見された（同⑨）。第6次調査は、第5次調査地点の南、第4次調査地点の西側において1995年に実施され、古墳時代前期の竪穴住居跡13軒、方形周溝墓2基などが調査されている（同⑩）。

その間、1994年には第4次調査地点の南側において、個人住宅建設に伴い発掘調査が実施され、方形周溝墓1基と、第4次調査で調査された方形周溝墓の一辺が調査され、坂井南（大原）遺跡として報告されている（同⑪）。

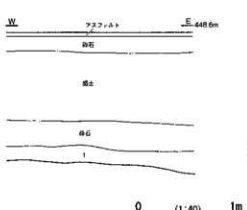
今回の発掘調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居跡4軒、中世館跡の一部と思われる溝、中世の竪穴状遺構3棟、掘立柱建物跡1棟、溝13条、土坑36基、ピット148基などが発見された（同①）。

第5節　基本層序

本遺跡は、河岸段丘上に位置しており、地形は南東に緩やかに傾斜する。段丘上のため、本来は表土および耕作土直下が遺構確認面となる。

調査地点は現在、工場の駐車場として平坦に整備されているため、調査地点によって表土から遺構確認面までの深さは異なっており、0.2ｍから２ｍを超える地点もあった。

北側のA区では、アスファルト敷設のための砕石直下が遺構確認面となっている。南側のB区は、２度にわたる駐車場造成工事により、砕石を含む盛土層が２層にわたって確認された。下層の砕石下の暗褐色土層が旧地表面の耕作土となっており、耕作土直下が遺構確認面となる。地山は褐色から暗褐色のローム層で、遺構の確認は比較的容易であった。



基本土層（B区）
1層　暗褐色土層（10YR3/4)炭化物・赤褐色粒をわずかに含む。粘性・しまりともに欠ける。

第４図　遺跡基本土層

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の地理的位置

本遺跡の所在する韮崎市は、山梨県の北西部、甲府盆地の北西部に位置している。東西にやや長い市域は、河川の開析などによって複雑な地形を呈しており、大きく３地域に分けることができる。

市域の東側は、茅ヶ岳の南西麓地域にあたり、緩やかな南西斜面を利用して果樹栽培を中心とした農業が行われている。市域の西側は、南アルプス連峰、巨摩山地が連なり、市域を貫流する釜無川右岸の河岸段丘上に展開する地域である。

市域の中央部は、釜無川と塩川が南北に貫流している。八ヶ岳山麓から延びる韮崎岩屑流で構成された台地が、この両河川によって浸食された韮崎台地と塩川の氾濫原にあたる低地とからなる。韮崎台地は、侵食によるほぼ垂直に切り立った断崖が形成されており、その長さから七里岩と呼ばれている。低地の氾濫原は、完新世段丘の形成によって藤井平と呼ばれる肥沃な穀倉地帯が形成されており、「藤井五千石」などともいわれている。

『甲斐国志』古跡部第十には、

穴山ヨリ南小田川・駒井・坂井・中条・下条・韮崎等ノ数村ヲ里人ハ藤井庄五千石ト云其田斉ユニ名アリ
慶長古高六千百余石後又千五六百石ヲ増ス西ハ片山新府ノ台、東ハ塩川ヲ帯ビ北ハ桐樹川ヲ界ヒトシ藤井巣ヲ穿ツ水利自在ヲ得テ以時水田トシ冬陸田トナス且諸村ノ末ニ居リ余水聚来ルヲ以テ田地殊ニ肥饒ナリ

と記されており、当時から著名な穀倉地帯であったことがわかる。

一方、河岸段丘上は、古くから畑地として利用されており、古くは養蚕、現在では果樹および根菜類の栽培が盛んとなっている。段丘上は岩屑流による流れ山地形となっており、起伏に富んでいる。流れ山地形による窪地は、湧水地・湿地となり、周辺に遺跡が立地する例が多い。また、流れ山地形の岩塊は中世の城館や烽火台などとしても利用されている。

本遺跡は、河岸段丘上の中央、標高 447 m付近に立地している。

周辺では現在も畑地が多くを占め、大規模な耕作が行われている。

第２節　遺跡の歴史的環境

七里岩台地上には、縄文時代から中世にかけての多くの遺跡が分布しており、とりわけ縄文時代の遺跡は学史に残る著名な遺跡も分布している。

本地域は、畑地としての土地利用が主体であるため数多くの発掘調査が行われているわけではないが、学術調査や工場建設、道路整備、個人住宅建設などに伴って発掘調査が実施され、本地域における遺跡のあり方が解明されつつある。

縄文時代の遺跡としては、著名な坂井遺跡（第５図 40）がある。坂井遺跡は、大正 14 年の土器の発見を契機として、志村滝蔵氏らによって昭和 31 年まで発掘調査が実施されたもので、山梨県内の発掘調査の先駆けとなった調査である。この調査によって出土した縄文時代中期を中心とした出土品は、坂井考古館に保管展示されている。宿尻遺跡（同２）は、２度にわたる発掘調査が実施され、中期初頭から後期前半の住居跡などが調査されている。そのほか、縄文時代の遺跡として、伊藤窯第２遺跡（同７）、中条上野１遺跡、中条上野第２遺跡、坂井天神前遺跡（同 35）などが知られる。

台地上における弥生時代の遺跡としては、穴山小学校遺跡（宿尻遺跡と同一の遺跡）、伊藤窯遺跡（同８）、坂井遺跡などが知られるが、遺跡のあり方としては希薄である。低位段丘面の「藤井平」にはこの時期の遺跡が濃密に分布している。宮ノ前遺跡（同 62）、上横屋遺跡（同 81）、下横屋遺跡（同 82）、後田堂ノ前遺跡（同 76）、後田第２遺跡（77）などが知られている。宮ノ前遺跡の微高地縁辺部の埋没旧河道からは、弥生時代

第５図　遺跡の位置と周辺の遺跡

前期中葉から後葉に並行する水田跡が発見されており、東日本でも最古の水田跡とされている。上横屋遺跡においても後期の住居跡などが調査されている。上横屋遺跡の南側に隣接する下横屋遺跡からは、後期の住居跡やガラス小玉を副葬した土器棺墓などが発見されている。

古墳時代の遺跡は、台地上では本遺跡をはじめとして前期の遺跡が顕著にみられる。宿尻遺跡では、前期の竪穴住居跡が3軒調査されている。宿尻第2遺跡では、前期の竪穴住居跡39軒、掘立柱建物跡16棟などが調査され、坂井南遺跡に匹敵するような大規模集落遺跡である可能性がある。伊藤窪第2遺跡でも竪穴住居跡2軒が調査されている。台地上における後期の遺跡はほとんど知られておらず、低位段丘上で多くの遺跡が調査されている。

坂井南遺跡東側の低位段丘上の三宮地遺跡（同73）の範囲に立地する火雨塚古墳（同72）は、墳丘は削平されているが横穴式石室の一部が残っている。かつてはその他にも古墳が点在していたとも言われ、群集墳を形成していたことも考えられる。後期の集落としては、坂井堂ノ前遺跡（同71）2軒、上横屋遺跡22軒、後田堂ノ前遺跡4軒、後田第2遺跡6軒などが発掘調査されている。中でも上横屋遺跡は、3次にわたる発掘調査を実施しており、第1次調査では竪穴住居跡15軒、古墳時代以降の掘立柱建物跡3棟などが発見され、1号住居跡およびその周辺から金環2点、隣接する1号土坑からは青銅製鋲などが出土している。第2次調査では、古墳時代後期の竪穴住居跡7軒が発見され、そのうち10号住居跡からは、専用轡が2点出土するなどしており、後期の鍛冶遺構を伴う施設が調査されている。

台地上における奈良・平安時代の遺跡は希薄であり、古墳時代後期に始まる低位段丘への集落域の移行は、奈良・平安時代においてもその傾向は変化がない。その中にあって、本遺跡の第2次調査C区において、平安時代の竪穴住居跡5軒が調査されている。

「藤井平」における奈良・平安時代の遺跡は濃密で、宮ノ前遺跡、堂ノ前遺跡（同69）、後田堂ノ前遺跡、坂井堂ノ前遺跡、後田第2遺跡、三宮地遺跡、中田小学校遺跡（同53）などが発掘調査されており、平坦面全域に集落遺跡が広がりをみせるようになる。そのうち宮ノ前遺跡では、竪穴住居跡400軒以上、掘立柱建物跡50棟以上が発見されており、正倉と思われる大型倉庫も検出されている。出土遺物にも円面硯や三彩陶器などがあり、巨麻郡衙の一部ないし隣接する遺跡だと考えられている。その北側に隣接する宮ノ前第2遺跡（同61）では、四面庇付の寺院跡と考えられる建物から瓦塔などが検出されている。

数々の発掘調査によって、この藤井平の地が弥生時代以降、水田経営を生業としながら、連綿と集落を営んできたことが理解され、巨麻郡の中において重要な役割を果たしてきた地域であることが明らかとなっている。

中世になると台地上も活況を呈するようになり、当該期の遺跡も数多く知られている。新府城跡（同26）は、1575（天正3）年、長篠の戦で織田・徳川連合軍に敗れた武田勝頼が、領国支配強化のため、甲府の躑躅ヶ崎館からこの地へ城を移したものである。築城は1582（天正10）年から開始され、年末には勝頼が躑躅ヶ崎館から新府城へ移住している。新府城は国指定史跡として、現在も整備が進められている。新府城から北西へ2kmの距離にある能見城跡は、『甲斐国志』巻之四十七古跡部第十に「新府中ノ塁……穴山ハ外郭ノ内ナリ能見城ト云ウ狐山高爽ニシテ四望開ケ看楼ヲ置ベシ……某西北ヨリ東ノ方黒駒ノ内ヘ係リ旧塁アリ」とあり新府城の外郭とされる。能見城（同3）および能見城防禦は、武田勝頼によって造られたものか、徳川家康によって構築されたものかは明らかではない。その他、堂ヶ坂の砦、重久の烽火台などが知られている。また、新府城築城に際しては、穴山の伊藤窪、次第窪、石水に家臣団屋敷を配したといわれ、現在でも屋敷跡と思われる土塁が残されている。本遺跡の第1次調査において、16世紀代の集石土坑2基が調査されている。

藤井平においても中世以降の遺跡が立地しており、松雲寺墓跡（同51）、水上氏屋敷跡（同52）、駒井氏屋敷（同66）、北下條塁址（同74）、蔵之前祭址、殿山屋敷跡（同80）などの屋敷跡ないし伝承地が数多く知られる。

遺跡一覧（番号は第４図に対応）

1 坂井南遺跡
2 宿尻遺跡
3 能見城跡
4 夏目石水遺跡
5 石水遺跡
6 南原遺跡
7 伊藤窯第２遺跡
8 伊藤窯遺跡
9 中本田遺跡
10 蓮田遺跡
11 中道遺跡
12 下木戸遺跡
13 伊藤窯第３遺跡
14 石水稲倉遺跡
15 中田山道遺跡
16 山道第２遺跡
17 山道遺跡
18 旧新府中学校跡
19 藤塚遺跡
20 藤塚長林遺跡
21 隠岐殿遺跡
22 田向遺跡
23 姥石堤
24 蒜島堤
25 上祖母石高砂堤
26 新府城跡
27 城山遺跡
28 丸山墓址
29 上野丸山遺跡
30 中条上野古道遺跡
31 長林遺跡
32 駒井上野遺跡
33 駒井天神前遺跡
34 駒井天神前第２遺跡
35 坂井天神前遺跡
36 西御門第２遺跡
37 西御門遺跡
38 西御門第３遺跡
39 駒井天神前第３遺跡
40 坂井遺跡
41 坂井丸山遺跡
42 坂井南大原遺跡
43 堂坂上遺跡
44 岩上滝坂遺跡
45 御崎原新田堤
46 青木下河原堤
47 竹原田遺跡
48 青木南田遺跡
49 青木原遺跡
50 塩川下河原堤防
51 松雲寺墓跡
52 水上氏屋敷跡
53 中田中條宿遺跡
54 水上氏屋敷跡第２
55 中田小学校遺跡
56 金山遺跡
57 中田中條前田遺跡
58 立口遺跡
59 立岩遺跡
60 下木戸第２遺跡
61 宮ノ前第２遺跡
62 宮ノ前遺跡
63 北後田遺跡
64 宮ノ前第３遺跡
65 宮ノ前第５遺跡
66 駒井氏屋敷跡
67 駒井砂宮神遺跡
68 宮ノ前第４遺跡
69 堂ノ前遺跡
70 後田遺跡
71 坂井堂ノ前遺跡
72 火雨塚古墳
73 三宮地遺跡
74 北下條墓址
75 北下條後田遺跡
76 後田堂ノ前遺跡
77 後田第２遺跡
78 榎田遺跡
79 北下條殿田遺跡
80 殿田屋敷跡
81 上横屋遺跡
82 下横屋遺跡
83 山影遺跡
84 三光寺墓址

第３章　遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡

１号住居

遺構の概要（第６図）

A区の南端、X＝113、Y＝32グリッドを中心に位置する。南側は調査区外に延び、西側壁を18・19号土坑に切られる。北偶には４号溝があり、東西に延びている。住居は方形プランを呈し、主軸をN－19°－Wにとる。規模は、東西4.66 m、南北現存長1.8 mを測り、住居の残存状況は悪く、深さは0.1 mほどしかない。北偶壁は残らず、0.2 m幅ほどの周溝が巡っている。

炉、柱穴などの付属施設は確認できなかった。

遺物出土状況（第６図）

古墳時代前期に属すると土師器が15点ほど出土しているが、いずれも小破片で図示できるようなものはない。

２号住居

遺構の概要（第７図）

B区の北東隅付近、X＝65、Y＝78グリッドを中心に位置する。東側に85号ピット、南側に竪穴状遺構部がある。遺構の残存状況は悪く、東側過半は削平されている。隅丸方形プランを呈し、主軸をN－3°－Eにとる。規模は、南北3.56 m、東西現存長1.9 m、深さ0.04 mほどを測る。床面は炉の付近に硬化面が一部みられた。炉は、住居の北側の中央付近に設けられており、東西0.4 m、南北0.44 m、深さ0.1 mほどとほぼ円形の皿状を呈している。炉の南西側には礫と土師器の胴部破片を用いて、枕石としていた。

遺物出土状況（第７図）

遺構の残存状況が悪かったため、出土遺物もそれほど多くはなかった。土師器の高坏、甕などが出土している。住居の中央付近より出土している不明鉄製品は、後世の混入品と思われる。

出土遺物（第55図）

第55図１は、土師器甕の口縁部資料。内外面ともハケ調整が施されている。同２は、炉の枕石として転用されていた壺胴下半部資料。同３は高坏で坏身下半部に稜を有する。脚は急激に開き、円孔を３ヶ所に穿つ。第57図21は板状の不明鉄製品。破断部に円孔の痕跡が確認できる。

３号住居

遺構の概要（第８・９図）

B区の南端、X＝20、Y＝72グリッドを中心に位置する。南側は調査区外に延び、住居の西壁付近を13号溝によって切られている。隅丸方形のプランを呈し、主軸をN－10°－Wにとる。規模は、東西9.04 m、南北現存長5.7 mほど、深さ0.38 mを測る、大形の竪穴住居である。径0.2～0.3 m、深さ0.5～0.7 mほどの柱穴を北側にもつが、南側は調査区外にあたるものと思われ確認できなかった。柱穴の内側には、東西に炉を配置している。西側の炉は、東西0.46 m、南北0.5 m、深さ0.2 mほどの皿状を呈する。東側の炉は、東西0.57 m、南北0.45 m、深さ0.25 mほどを測る楕円プランを呈する。いずれの炉も枕石などの施設は確認できなかった。また、東側炉の上面には暗褐色土の堆積がみられ、炉を廃棄した際に埋められたものとも考えられるが、両炉並存の可能性も否定は出来ない。

遺物出土状況（第９・10図）

遺構の残存状況が良好であったため、多くの遺物が出土している。とくに北側の壁寄り付近と北東隅付近にまとまりがみられた。

出土遺物（第55・56図）

第55図4・15は鉢。同5は有孔鉢。同6～8、11～14は壺で、頸部から大きく開く二重口縁のものもみられる。同9・10は小型壺。10は急激に屈曲する胴部をもつ。同16～18は台付甕の資料。有刻口縁のものとS字口縁のものがみられる。第56図1～7は高坏であるが、1は椀形、2はわずかに稜を有する坏身をもつ。5は外面に赤彩を施す。

4号住居

遺構の概要（第11図）

B区の北西隅、X＝38、Y＝49グリッドを中心に位置する。西、北側とも調査区外に延びており、南東隅部分がわずかに調査できたのみである。調査範囲が狭いため正確な平面プランは不明であるが、隅丸方形を呈するものと思われ、主軸をN－20°－Wにとる。規模は、現存長で東西2.45m、南北1.7m、深さは0.58mを測る。

遺物出土状況（第11図）

土師器が40点ほど出土しているが、いずれも小破片のものである。その中で1点のみ北西の調査区境において、小型壺が出土している。

出土遺物（第56図）

第56図8は、小型甕。外面全体をハケによって整形している。

第2節　竪穴状遺構

1号竪穴状遺構

遺構の概要（第12図）

B区の北東、X＝55、Y＝76グリッドを中心に位置する。南東には2号竪穴状遺構が隣接する。南北に長い長方形を呈し、主軸をN－16°－Wにとる。規模は、東西2.2m、南北2.68m、深さは0.84mほどを測る。底面はほぼ平坦で、硬化面はみられなかった。柱穴などの付属施設も確認できなかった。

遺物出土状況（第12図）

覆土中より古墳時代前期に属する土師器が20点足らず出土している。いずれも本遺構に伴うものではなく、流れ込んだものと考えられる。

2号竪穴状遺構

遺構の概要（第13図）

B区の北東、X＝54、Y＝79グリッドを中心に位置する。北西には1号竪穴状遺構、北東には3号竪穴状遺構、1号掘立柱建物跡が隣接する。南東隅がやや窪んだ不整形であるが、隅丸方形基調で主軸をN－17°－Wにとる。規模は、東西1.68m、南北1.66m、深さ0.4mを測る。西・南の壁面は直線的に立ち上がっているが、東・北側の壁面は緩やかに立ち上がる。北壁の東側には、地山掘り残しのステップ状の施設が検出された。底面はほぼ平坦である。柱穴などの施設は確認されていない。

遺物出土状況（第13図）

1号竪穴状遺構同様、古墳時代前期の土師器小破片がほとんどで10点ほど出土しているが、1点のみ陶器小破片がみられた。

出土遺物（第56図）

第56図9は灰釉陶器丸皿の口縁部破片資料と思われる。

3号竪穴状遺構

遺構の概要（第14図）

B区の北東、X＝56、Y＝82グリッドを中心に位置する。1号掘立柱建物跡と重複関係にあるが、柱穴

の直接の切り合い関係がないために、新旧関係は不明である。南西には2号竪穴状遺構が隣接する。隅丸方形の平面形態を呈し、主軸をN－16°－Wにとる。東西2.6m、南北2.5m、深さ0.73mを測る。底面はほぼ平坦であるが、東壁に接して南北1.2m、東西0.95m、深さ0.06mほどの不整円形の皿状の落ち込みが確認されたが、性格は不明。

遺物出土状況（第14図）

古墳時代前期の土師器を中心に30点ほどが出土している。多くは、覆土上層中から出土したものであるが、底面より0.1mほどの所から、灰釉陶器が出土している。

出土遺物（第56図）

第56図10は、灰釉陶器丸皿で、見込み部には印花文が施される。高台は低く小さい付高台で、全面に施釉されている。欠損部に漆継ぎの痕跡が残る。同11は陶器碗類の口縁部資料であるが、後世の混入の可能性が高いものである。

第3節　掘立柱建物跡

1号掘立柱建物

遺構の概要（第15図）

B区の北東、X＝58、Y＝84グリッドを中心に位置する。3号竪穴状遺構、21・22号土坑と重複関係にあるが、直接的な切り合い関係がないため、新旧関係については不明。南西には2号竪穴状遺構が隣接する。本遺構の東側は調査区外となり、柱穴列がさらに東へ延びるかどうかについては不明である。現状で、東西8.3m、南北3.6mの2間×2間の建物跡で、主軸をN－75°－Eにとる。柱穴の径は0.3～0.4mほどである。9本の柱穴列のうち、P2、5、8および北西隅のP3以外の柱穴は、深さが0.3～0.6mほどとなり、深さ0.1～0.25mほどの中央柱穴列の掘り方とは異なる。

柱穴間隔は1.8mを単位として、南北方向の梁間は1単位とし、東西方向の桁行は西側が2単位の3.6m、東側が4.6～4.8mと2.5単位に近い数値を示す。ただし、正確な2.5単位とはならないために、東側の柱穴列は、別の掘立柱建物の柱穴列である可能性もあるが、調査では明らかにすることは出来なかった。

遺物出土状況（第15図）

P4より土師器が1点出土しているが、本遺構の年代を示すものではないと考えられる。

第4節　土坑・ピット

本遺跡からは、36基の土坑と1号掘立柱建物跡と認定された柱穴列を除き、148基のピットが発見されている。土坑とピットの区分は、径50cmほどを境界として大きいものを土坑、小さいものをピットとした。ただし、厳密に区分したものではない。個々の遺構データについては、第1表にまとめたのでそちらを参照されたい。

土　坑

遺構の概要（第1表・第6・16～39図）

土坑は、A・B区に散在する状況であるが、A区南東およびB区南東付近に集中する状況がみられる。しかし、A区北東側、B区北側および南側では希薄となっている。

土坑からの出土遺物は、古墳時代前期の土師器がほとんどを占める。時代を特定できるような遺物の出土状況を示すものはごくわずかな遺構だけである。

1号土坑からは覆土上層からではあるが、土師器甕の大型破片が出土している。21号土坑は東西3.7m、南北1.06mを測る大形の土坑であるが、覆土中層より同時期の陶器皿がまとまって出土していることから、

遺構の時期が特定できる例である。

出土遺物（第56図）

第56図12は、1号土坑出土の土師器甕。外面全体をハケによって調整している。同14～16は21号土坑出土の鉄釉陶器稜皿である。いずれも高台幅の広い削り込み高台で、体部下半は直線的に立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。鉄釉によって全面施釉されている。

ピット

遺構の概要（第1表・第16～39図）

ピットは土坑とは異なり、いくつかのまとまりをもった分布傾向を示す。A区南東および南西、B区南東、西側付近に集中して分布する状況がみられる。北東側、B区北側および南側ででは希薄となっている。ピット群のうちB区北東隅付近に分布する一群が掘立柱建物跡1棟ないし2棟として確認できた以外は、掘立柱建物跡の柱穴列を示すような規則的な配置例もみられない。

ピットからの出土遺物もそれほど多くはなく、遺構の時代を特定できるような出土状況を示す例もほとんどなかった。その中で66号ピットからは、土師器壺の胴上半部が逆位で出土しており、大形の破片であることから遺構が古墳時代前期のものであるといえる。

出土遺物（第56図）

第56図19は、66号ピット出土の土師器壺の胴上半部資料。外面は丁寧にヘラナデしており、全体に赤色塗彩している。同20は100号ピット出土の灰釉陶器丸皿の口縁部資料である。

第5節　溝　跡

1号溝

遺構の概要（第40・43図）

A区東端、X＝125、Y＝45グリッドを中心に位置する。東に1、2号土坑、西に9号土坑がある。2号溝としたものとは並行して重複しているが、土層断面観察からは新旧関係を判断することは出来ず、同一の遺構の可能性もある。北側は調査区外に延びている。主軸をN－17°－Wにとり、現存長9.4m、幅1.3m、深さ0.15～0.2mほどを測る。断面は、浅い皿状を呈する。

遺物出土状況（第40図）

古墳時代前期の土師器が10点ほど散在的に出土しているが、溝の開削時期を断定できるような資料は出土していない。

2号溝

遺構の概要（第40・43図）

A区の東端、X＝127、Y＝45グリッドを中心に位置する。1号溝と重複する。1号溝同様、北側は調査区外へと延びる。主軸をN－22°－Wにとり、現存長5.9m、幅0.6～0.8m、深さ0.17mほどを測る。

遺物出土状況（第40図）

溝北側の調査区境付近から縄文土器、土師器がそれぞれ2点出土しているが、溝の開削時期を断定できるような資料ではない。

3号溝

遺構の概要（第41・43図）

A区南東隅付近、X＝120、Y＝39グリッドを中心に位置する。南側には4号溝が、北側には5号溝が平行して走る。東端で3号土坑に切られる。主軸をN－75°－Eにとり、長さ9.74m、幅0.19～0.31m、深さ0.06～0.18mを測る。溝底部は、やや浅い皿状を呈している。

遺物出土状況（第41図）

古墳時代前期の土師器が4点出土しているが、ほとんどが小破片であり、図示できるようなものはない。

4号溝

遺構の概要（第42・43図）

A区南東隅付近、X＝117、Y＝38グリッドを中心に位置する。北側には3号溝が並行する。主軸をN－72°－Eにとり、長さ8.36m、幅0.12～0.37m、深さ0.05m前後を測る。5・7・8号ピットと重複し、いずれも切られる。東端では7号土坑と重複するが、新旧関係は不明。溝断面は浅い皿状を呈する。

遺物出土状況（第42図）

溝の東端付近から、土師器が2点出土しているが、小破片であり図示できるものはない。

5号溝

遺構の概要（第44図）

A区の南東隅、X＝122、Y＝40グリッドを中心に位置する。南側に平行して3号溝がある。溝は浅く中ほどで途切れ、東側は14号土坑に切られる。主軸をN－75°－Eにとり、現存長西側2.7m、幅0.4m、深さ0.05m、東側現存長2.36m、幅0.32m、深さ0.06mほどを測る。溝断面は、浅い皿状を呈する。

遺物出土状況（第44図）

土師器の小破片が1点出土したのみであり、図示できるものではない。

6号溝

遺構の概要（第44図）

A区東端、X＝125、Y＝40グリッドを中心に位置する。中央付近で33号ピットを切る。また、東側では10号溝と隣接する。主軸をN－83°－Wにとる。長さ7.46m、幅0.7m、深さ0.1mほどを測る。断面は、底面が平坦で箱型を呈する。

遺物出土状況（第44図）

土師器小破片が2点出土しているが、いずれも小破片であり図示できるものはない。

7号溝

遺構の概要（第45図）

A区の南西、X＝105、Y＝17グリッドを中心に位置する。北西に29号土坑があり、東西とも調査区外に延びる。本遺構は、当初7号溝として調査を完了したが、その後西側への調査区拡張に伴って再調査を実施した。その際7号溝はすでに削平されていたため、14号溝として調査を行ったが、本報告では統一し7号溝として報告する。主軸をN－75°－Eにとり、現存長6.5m、幅0.56～0.66m、深さ0.48～0.6mほどを測る。断面は、底面がやや弧状を呈し、U字型となる。

遺物出土状況（第45図）

東側、調査区境付近において、土師器、陶磁器が出土している。

出土遺物（第57図）

第57図1は、磁器染付端反碗である。外面には菊弁と唐草の文様、内側口縁部に連鎖文を描く。焼継の痕跡が残る。

8号溝

遺構の概要（第46図）

A区南西隅付近、X＝96、Y＝24グリッドを中心に位置する。西側は調査区外に延びる。61号ピットと重複し、切られる。主軸をN－75°－Eにとり、現存長2.22m、幅0.84m、深さ0.14mほどを測る。

遺物出土状況（第46図）

土師器の甕が3点出土しているが、ほとんどが小破片であり図示できるようなものはなく、開削時期を示す

ものでもない。

9号溝

遺構の概要（第46図）

A区南西隅、X＝93、Y＝25グリッドを中心に位置する。東西とも調査区外に延びる。16号土坑、78号ピットと重複し、78号ピットに切られる。主軸をN－79°－Eにとり、現存長2.88m、幅1.42m、深さ0.15mほどを測る。中央部分が一段深く掘られている。

遺物出土状況（第46図）

土師器の壺、甕などが3点、鉢が1点出土している。

出土遺物（第57図）

第57図2は、土師器鉢である。底径は小さく、口縁は直線的に大きく外反する。

10号溝

遺構の概要（第46図）

A区東端付近、X＝124、Y＝42グリッドを中心に位置する。南側は14号土坑に切られ、北側には6号溝が隣接する。主軸をN－40°－Wにとり、現存長1.36m、幅0.4m、深さ0.06mほどを測る。出土遺物はなかった。

11号溝

遺構の概要（第47図）

B区中央付近から東、X＝41、Y＝80グリッドを中心に位置する。西側は13号溝と重複している。13号溝との重複地点は撹乱が南北に入っているため、新旧関係については不明である。南側には12号溝がある。主軸をN－72°－Eにとり、現存長28.65m、幅は西側2.65m、東側1.55m、深さ西側で0.33m、東側で0.15mと、西側へ向かって深くなっている。

遺物出土状況（第48図）

土師器が90点ほど、陶磁器も20点ほど出土している。陶磁器は溝西側に多く分布している。土師器はすべて古墳時代前期のもので、いずれも小破片である。

出土遺物（第57図）

第57図3は陶器皿。同4は鉄釉天目茶碗。同5は擂鉢。同6～10は肥前系の磁器碗。6は染付の雨降り文を口縁部に有する。10は筒型碗で外面には矢羽文がみられる。同24は棒状の鉄製品。端部が環状に曲げられているが、性格不明。

12号溝

遺構の概要（第49～51図）

B区の南東隅、X＝36、Y＝82グリッドを中心に位置する。東側および南側は調査区外となり、溝は調査区外に延びている。溝の南側には26～28号土坑やピット群が点在する。

西側の溝の現存長14.15m、幅南側で4.92m、深さ1.45m、コーナー部の幅4.95m、深さ1.1m、北側の溝の現存長17.6m、幅東側で3.45m、深さ1.55mを測る。溝はX＝35、Y＝81グリッド付近で直角に曲がる。溝断面は底面の幅が狭くV字形に立ち上がる、いわゆる薬研堀になる。土層断面観察からは、溝の内側方向から埋没したことが伺える。また、溝底部の土層状況から、空堀であったものと思われる。

本来、直角に曲がる平面形態や溝の断面形態から、館跡に伴う薬研堀であると思われるが、調査出来た範囲が狭く、内郭部分の調査が出来ていないことなどから、溝として調査し、報告することとした。

覆土から出土遺物はまったく発見されなかった。

13号溝

遺構の概要（第52図）

B区の中央よりやや西側、X＝30、Y＝67グリッドを中心に位置する。南北とも調査区外へ延びる。北側では11号溝と重複するが、新旧関係は明らかではない。南側では3号住居を切る。主軸をN－12°－Wにとり、現存長29.15 m、幅中央付近で1.65 m、南側で2.55 m、深さ北側で0.22 m、南側で0.42 mほどを測り、南へ向かって深くなっている。

遺物出土状況（第53図）

弥生土器の甕ないし壺を中心に10数点が出土しているが、ほとんどが小破片であり、図示できるようなものはない。

出土遺物（第57図）

第57図11、12は土師器壺、高坏。同13は陶器碗、同14、15は肥前系磁器碗。15は肥前系の陶器碗で、外面には二重網目文、内面には一重網目文を有する。同16は蓋付碗。同17、18は土師質の火鉢、焙烙である。同29は寛永通宝破片。

15号溝

遺構の概要（第54図）

B区の中央よりやや南側、X＝29、Y＝75グリッドを中心に位置する。東側には15号溝、西側には13号溝が隣接している。主軸をN－10°－Eにとり、長さ5.72 m、幅南側で0.26 m、北側で0.19 m、深さ南側で0.09 m、北側で0.06 mほどを測る。

遺物出土状況（第54図）

弥生土器の甕ないし壺の小破片が1点出土しているのみである。

第1表　土坑・ピット一覧表

( )の中の数値は残存値　[ ]は復元値　単位:m

遺構名	グリッド	形態	上端 長径×短径	下端 長径×短径	深さ	主軸	出土遺物	備考
1号土坑	126−47	不整楕円	0.66×	0.48×−	0.21	N−18°−W	土師:3点	東半調査区外
2号土坑	124−47	不整円	0.54×0.50	0.30×0.30	0.45	N−67°−E		
3号土坑	121−44	不整	1.14×0.60	0.96×0.32	0.14	N−72°−E		
4号土坑	120−44	不整楕円	0.76×0.56	0.40×0.23	0.38	N−[illegible]−W	土師:3点	
5号土坑	120−42	不整楕円	0.58×0.43	0.20×0.16	0.16	N−7[illegible]−E		
6号土坑	117−39	不整楕円	×0.56	0.49×0.41	0.13	N−85°−E		12号ピットを切る
7号土坑	119−43	隅丸長方	1.58×1.31	1.53×1.24	0.03	N−86°−E	土師:1点	
8号土坑	115−39	不整楕円	0.68×0.54	0.51×0.32	0.18	N−84°−W		
9号土坑	125−44	不整楕円	0.66×0.30	0.59×0.26	0.05	N−27°−W		
10号土坑	118−42	不整		−	−	−		4号溝と重複
11号土坑	122−43	不整楕円	0.79×0.43	0.69×0.33	0.12	N−66°−E	土師:2点	12号土坑を切る
12号土坑	122−44	不整	0.38×0.43	0.51×0.38	0.05	N−12°−E	土師:1点	11号土坑に切られる
13号土坑	123−44	不整	0.86×	0.77×−	0.07	−		
14号土坑	123−43	不整	−×0.94	×0.86	0.09	−		
15号土坑	133−34	楕円	0.67×0.45	0.50×0.31	0.13	N−49°−W		
16号土坑	93−26	不整楕円	×0.64	0.52×0.42	0.32	N−86°−W	土師:7点	東側一部調査区外
17号土坑	132−14	隅丸長方	1.11×0.96	1.01×0.88	0.10	N−33°−E		
18号土坑	112−30	不整楕円	−×0.58	−×0.52	0.07	N−29°−W	土師:1点	1号住居・19号土坑を切り南半調査区外
19号土坑	111−29	不整楕円	−	−	0.05			18号土坑に切られ南半調査区外
20号土坑	94−23	不整楕円	−×0.44	−×0.28	0.13	N−77°−E		西一部調査区外
21号土坑	60−65	長方	3.70×1.06	3.58×0.96	0.43	N−74°−E	土師:11点　須恵:5点	
22号土坑	59−64	不整円	0.69×0.60	0.52×0.46	0.66	N−67°−E		
23号土坑	59−72	不整長方	(10.6)×0.66	(10.0)×0.36	0.08	N−67°−E	土師:11点　須恵:1点	西側一部調査区外
24号土坑	59−80	不整	0.98×0.77	0.67×0.64	0.31	N−10°−W		
25号土坑	57−76	不整	0.99×(0.31)	0.89×(0.30)	0.27	N−72°−E		1号竪穴状遺構に切られる
26号土坑	31−58	隅丸長方	2.14×0.63	2.09×0.57	0.08	N−62°−E	土師:1点　須恵:1点	
27号土坑	33−68	不整楕円	0.78×0.64	0.70×0.53	0.07	N−46°−E		28号土坑を切る
28号土坑	32−67	不整長方	(1.12)×0.69	(1.38)×0.53	0.04	N−64°−E	土師:1点	27号土坑に切られる
29号土坑	106−15	不整楕円	0.56×0.49	0.48×0.44	0.05	N−79°−W		
30号土坑	39−62	長方	0.93×0.76	0.86×0.43	0.10	N−32°−W		
31号土坑	31−65	不整	0.76×0.56	0.19×0.16	0.44	N−47°−E		
32号土坑	25−69	不整楕円	1.25×0.68	1.19×0.61	0.13	N−7°−E		
33号土坑	16−64	楕円	0.61×0.57	0.53×0.47	0.05	N−31°−W		
34号土坑	33−73	不整台形	1.30×1.02	1.40×0.77	0.05	N−7°−W		
35号土坑	40−54	不整方形	0.75×−	0.49×	0.29	N−70°−E		北半調査区外
36号土坑	41−56	不整楕円	0.63×0.55	0.41×0.38	0.15	N−5°−E	土師:3点	
1号ピット	120−46	不整円	0.38×0.35	0.22×0.21	0.09			
2号ピット	119−45	不整楕円	0.52×0.43	0.44×0.34	0.05			
3号ピット	123−46	不整円	0.34×0.33	0.26×0.22	0.25		土師:1点	
4号ピット	126−46	不整楕円	0.28×0.26	0.09×0.09	0.09			
5号ピット	118−41	不整円	0.41×0.38	0.25×0.23	0.08			
6号ピット	118−40	不整円	0.35×0.33	0.19×0.16	0.10			
7号ピット	117−39	不整楕円	0.42×0.34	0.25×0.23	0.10			8号ピットを切る
8号ピット	118−39	不整	0.46×0.32	0.18×0.16	0.14			7号ピットに切られる
9号ピット	126−46	不整円	0.21×0.19	0.09×0.08	0.08			
10号ピット	127−45	不整楕円	0.29×0.23	0.19×0.14	0.13			
11号ピット	126−46	不整円	0.23×0.22	0.12×0.12	0.10			
12号ピット	117−39	不整楕円	(0.30)×0.29	(0.21)×0.14	0.13			6号土坑に切られる
13号ピット	127−44	円	[0.32]×0.31	0.17×0.16	0.26			
14号ピット	126−45	不整楕円	0.28×0.25	0.19×0.16	0.04			
15号ピット	123−46	不整楕円	0.29×0.22	0.23×0.15	0.10			
16号ピット	122−47	円	0.27×0.26	0.16×0.13	0.30			
17号ピット	120−44	不整楕円	0.37×0.26	0.22×0.11	0.09			
18号ピット	121−44	不整楕円	0.30×0.28	0.20×0.19	0.36			
19号ピット	122−40	不整楕円	0.33×0.30	0.19×0.18	0.23		土師:2点	
20号ピット	123−40	楕円	0.22×0.20	0.13×0.11	0.10			
21号ピット	123−40	不整円	0.13×(0.12)	(0.09)×0.08	0.03			
22号ピット	116−38	不整楕円	0.46×0.37	0.24×0.18	0.10			
23号ピット	124−44	楕円	0.32×0.27	0.24×0.21	0.12			
24号ピット	124−45	楕円	0.34×0.31	0.26×0.23	0.15			
25号ピット	123−44	不整楕円	0.51×0.38	0.26×0.27	0.45			
26号ピット	123−43	不整楕円	0.44×0.38	0.29×0.22	0.11			
27号ピット	123−43	不整円	0.19×0.18	0.08×0.05	0.07			
28号ピット	123−42	円	0.21×0.21	0.12×0.12	0.15			
29号ピット	123−42	隅丸方	0.18×0.17	0.12×0.11	0.13			
30号ピット	123−43	不整円	0.21×0.21	0.11×0.09	0.23			
31号ピット	123−42	不整楕円	0.41×0.36	0.26×0.23	0.33			
32号ピット	123−43	円	0.15×0.14	0.07×0.06	0.12			
33号ピット	125−40	不整楕円	0.37×0.30	0.12×0.09	0.07			
34号ピット	131−29	不整楕円	0.33×0.27	0.21×0.20	0.19			
35号ピット	115−33	円	0.16×0.14	0.10×0.10	0.13			
36号ピット	116−32	不整楕円	0.42×0.37	0.21×0.18	0.28			
37号ピット	116−32	隅丸方	0.45×0.43	0.32×0.29	0.49		土師:1点	
38号ピット	119−31	不整楕円	0.33×0.30	0.10×0.11	0.13			
39号ピット	119−30	円	0.27×0.27	0.19×0.16	0.24		土師:2点	
40号ピット	119−31	楕円	0.21×0.19	0.13×0.12	0.10			
41号ピット	119−31	不整楕円	0.40×0.33	0.10×0.09	0.18			
42号ピット	120−31	不整楕円	0.48×0.4[illegible]	0.20×0.19	0.19			43号ピットを切る
43号ピット	120−30	不整	0.58×0.45	0.25×0.26	0.17			42号ピットに切られる
44号ピット	119−30	不整円	0.21×0.20	0.11×0.10	0.19			
45号ピット	119−30	不整楕円	0.24×0.20	0.10×0.08	0.16			
46号ピット	121−30	不整円	0.21×0.20	0.12×0.06	0.06			
47号ピット	117−29	不整楕円	0.56×0.50	0.35×0.24	0.13			
48号ピット	118−28	不整円	0.33×0.33	0.14×0.12	0.16			
49号ピット	125−26	不整円	0.29×0.27	0.17×0.16	0.15			
50号ピット	128−24	楕円	0.21×0.17	0.16×0.10	0.06			
51号ピット	128−24	不整楕円	0.31×0.28	0.24×0.23	0.08			
52号ピット	129−24	円	0.17×0.16	0.08×0.08	0.10			
53号ピット	129−25	不整楕円	0.18×0.13	0.12×0.09	0.06			
54号ピット	121−18	不整円	0.27×0.27	0.17×0.17	0.08			
55号ピット	119−15	不整楕円	0.39×0.36	0.27×0.27	0.14			
56号ピット	116−16	楕円	0.45×0.42	0.33×0.32	0.18			
57号ピット	114−34	不整円	0.34×0.32	0.14×0.13	0.16			
58号ピット	112−17	不整円	0.24×0.24	0.15×0.15	0.09			
59号ピット	110−18	楕円	0.31×0.28	0.20×0.17	0.10			
60号ピット	100−21	不整楕円	0.56×0.41	0.37×0.32	0.32		土器:1点	

遺構名	グリッド	形態	上端 長径×短径	下端 長径×短径	深さ	主軸	出土遺物	備考
61号ピット	96－24	不整楕円	0.24×0.20	0.21×0.14	0.06			
62号ピット	96－24	楕円	0.30×0.24	0.24×0.18	0.07			
63号ピット	96－23	不整楕円	0.40×0.35	0.34×0.28	0.09			
64号ピット	95－23	不整円	0.43×(0.36)	0.34×(0.31)	0.12			
65号ピット	95－24	不整楕円	0.43×0.39	0.33×0.29	0.25			
66号ピット	96－26	不整楕円	0.52×0.42	0.38×0.33	0.16		土師：2点	東側一部調査区外
67号ピット	94－25	楕円	0.30×0.25	0.19×0.19	0.35			
68号ピット	113－30	不整楕円	0.33×(0.24)	0.18×(0.17)	0.10			カクランに切られる
69号ピット	112－29	不整楕円	0.26×0.21	0.16×0.14	0.07			70号ピットに切られる
70号ピット	112－29	不整円	0.23×0.21	0.16×0.15	0.09			69・71号ピットを切る
71号ピット	112－29	不整楕円	0.24×(0.13)	[0.23]×0.16	0.05			70号ピットに切られる
72号ピット	112－29	円	0.22×0.22	0.10×0.09	0.08			
73号ピット	111－28	不整楕円	0.48×0.38	0.21×0.20	0.18			
74号ピット	111－27	不整楕円	0.19×0.15	0.09×0.08	0.06			
75号ピット	111－27	楕円	0.18×0.15	0.09×0.09	0.04			
76号ピット	96－22	楕円	0.24×0.21	0.17×0.15	0.23			
77号ピット	96－25	不整	0.20×－	0.14×－	0.32			東半調査区外
78号ピット	93－23	不整	0.25×－	0.19×－	0.28			西半調査区外
79号ピット	62－73	楕円	0.36×0.31	0.28×0.21	0.06			
80号ピット	59－75	円	0.29×0.29	0.14×0.14	0.14			
81号ピット	54－81	不整円	0.22×0.21	0.11×0.10	0.21			
82号ピット	55－86	不整楕円	0.45×0.41	0.40×0.32	0.16			
83号ピット	59－86	円	0.31×0.29	0.12×0.11	0.15			
84号ピット	61－88	不整円	0.32×0.28	0.15×0.09	0.17			
85号ピット	65－80	不整円	0.26×0.23	0.20×0.19	0.20			
86号ピット	61－82	楕円	0.35×0.30	0.27×0.25	0.02			
87号ピット	35－96	円	0.27×0.26	0.15×0.13	0.22			
88号ピット	28－91	不整楕円	0.34×0.27	0.27×0.16	0.17			
89号ピット	29－93	不整楕円	0.34×0.31	0.27×0.23	0.09			
90号ピット	29－92	不整円	0.27×0.25	0.20×0.16	0.08			
91号ピット	30－91	楕円	0.44×0.40	0.31×0.26	0.19			
92号ピット	32－91	楕円	0.30×0.27	0.17×0.17	0.03			
93号ピット	32－90	不整円	0.29×0.28	0.15×0.12	0.49			
94号ピット	28－98	不整円	0.29×0.28	0.16×0.15	0.10			
95号ピット	29－98	楕円	0.42×0.34	0.32×0.20	0.10			
96号ピット	29－97	不整楕円	0.35×0.32	0.24×0.22	0.09			
97号ピット	30－96	不整円	0.39×0.38	0.30×0.28	0.04			
98号ピット	30－96	円	0.32×0.31	0.24×0.19	0.09			
99号ピット	27－91	不整円	0.24×0.23	0.16×0.13	0.09			
100号ピット	39－61	不整長方	0.29×0.25	0.18×0.11	0.09		土師：2点　灰釉：1点	
101号ピット	40－61	隅丸長方形	0.33×0.30	0.17×0.15	0.19			
102号ピット	27－69	不整楕円	0.32×0.26	0.23×0.18	0.11			
103号ピット	47－80	楕円	0.43×0.30	0.38×0.20	0.10			
104号ピット	48－82	不整楕円	0.33×0.28	0.29×0.23	0.04			
105号ピット	14－61	不整楕円	0.26×0.22	0.12×0.11	0.10			
106号ピット	16－61	楕円	0.32×0.27	0.20×0.18	0.10			
107号ピット	17－61	円	0.28×0.25	0.19×0.17	0.07			
108号ピット	18－62	不整楕円	0.24×0.20	0.14×0.13	0.16			
109号ピット	18－63	不整楕円	0.60×0.30	0.47×0.23	0.07			
110号ピット	19－62	不整円	0.25×0.23	0.17×0.16	0.04			
111号ピット	21－65	不整円	0.26×0.25	0.11×0.09	0.16			
112号ピット	20－63	円	0.31×0.30	0.26×0.20	0.07			
113号ピット	20－61	楕円	0.29×0.25	0.14×0.10	0.07			
114号ピット	21－61	不整円	0.39×0.37	0.30×0.23	0.06			
115号ピット	20－59	不整円	0.33×0.33	0.26×0.18	0.13			
116号ピット	19－57	楕円	0.27×0.23	0.20×0.18	0.08			
117号ピット	19－56	不整楕円	0.41×0.34	0.24×0.15	0.15			
118号ピット	20－57	不整楕円	0.27×0.23	0.20×0.15	0.07			
119号ピット	22－56	円	0.31×0.30	0.14×0.11	0.16			
120号ピット	22－58	不整円	0.43×0.42	0.36×0.26	0.11			
121号ピット	23－60	不整楕円	0.40×0.35	0.31×0.28	0.11			
122号ピット	22－61	不整円	0.42×0.37	0.28×0.20	0.12			
123号ピット	23－61	楕円	0.37×0.32	0.17×0.13	0.08			
124号ピット	24－63	不整円	0.25×0.25	0.20×0.20	0.07			
125号ピット	24－64	不整円	0.30×0.28	0.21×0.18	0.09			
126号ピット	25－65	楕円	0.29×0.25	0.20×0.18	0.07			
127号ピット	23－56	不整円	042.×0.41	0.19×0.16	0.20			
128号ピット	24－58	楕円	0.40×0.37	0.33×0.32	0.08			
129号ピット	24－59	不整円	0.32×0.32	0.24×0.24	0.10			
130号ピット	25－59	不整円	0.30×0.26	0.06×0.05	0.25			
131号ピット	26－59	楕円	0.29×0.22	0.20×0.17	0.04			
132号ピット	26－54	不整円	0.35×0.35	0.20×0.12	0.11		土師：1点	
133号ピット	27－54	不整円	0.25×0.25	0.16×0.14	0.10			
134号ピット	28－54	不整円	0.32×0.31	0.24×0.20	0.13			
135号ピット	28－60	不整円	0.19×0.19	0.15×0.14	0.08			
136号ピット	31－61	楕円	0.22×0.19	0.16×0.14	0.10			
137号ピット	29－65	不整円	0.34×0.33	0.19×0.17	0.09			
138号ピット	30－66	不整円	0.22×0.21	0.15×0.13	0.11			
139号ピット	31－62	不整楕円	0.25×0.24	0.21×0.18	0.04			
140号ピット	32－62	楕円	0.27×0.25	0.20×0.17	0.06			
141号ピット	31－54	不整円	0.25×0.23	0.16×0.16	0.05			
142号ピット	33－54	不整円	0.26×0.26	0.17×0.11	0.07			
143号ピット	35－56	楕円	0.34×0.30	0.25×0.22	0.11			
144号ピット	38－56	楕円	0.31×0.28	0.16×0.14	0.13			
145号ピット	38－58	不整円	0.25×0.24	0.12×0.10	0.11			
146号ピット	38－51	楕円	0.34×0.26	0.28×0.17	0.08			
147号ピット	35－73	不整円	0.33×0.32	0.26×0.22	0.10			
148号ピット	33－72	不整円	0.27×0.26	0.09×0.09	0.38			

第２表　出土遺物観察表（土器）

1．法量[　]は復元実測値、（　）は現存値である。
2．残存率は、図示されたうちのもの／個体全体のうちのものを示す。また、これらの数値は5割によるものである。

遺構名	図版番号	種類	器形	法量(cm) 口径	底径	器高	整形 内面	外面	底部	色調	胎土	含有物	焼成	残存率	産地	時代	備考
2号住居	56-1	土師	甕	[13.6]	-	(8.6)	ハケメ、ナデ	ハケメ	—	にぶい褐(7.5YR5/4)	密	赤・黒色粒子、雲母	良	50/-			
2号住居	56-2	土師	甕	-	-	-	ハケメ、ナデ	ハケメ	—	にぶい黄褐(10YR4/3)	密	白・赤・黒色粒子、雲母	良	30/-			
2号住居	55-3	土師	高坏	[14.0]	[15.2]	8.2	ナデ	ナデ、ハケメ、ケズリ	ナデ、ハケメ	にぶい褐(7.5YR5/3)	密	白・赤・黒色粒子、雲母	良	60/60			
3号住居	55-4	土師	鉢	[12.0]	-	(5.2)	ハケメ	ハケメ	—	にぶい黄橙(10YR6/4)	やや粗	白・黒色粒子、雲母	ややあまい	90/-			
3号住居	55-5	土師	甑	-	4.2	(4.2)	ハケメ	ハケメ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	60/			
3号住居	55-6	土師	壺	[20.6]	-	(7.2)	ハケメ、ナデ、ミガキ	ハケ、ミガキ		にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・赤・黒色粒子、雲母	良	60/-			
3号住居	55-7	土師	盌	[16.0]	-	(5.5)	ミガキ	ミガキ	—	にぶい黄橙(10YR6/3)	密	白・黒色粒子、雲母	良	15/-			
3号住居	55-8	土師	甕	-	-	(7.4)	ナデ、ミガキ、ハケメ	ミガキ	—	暗灰黄(2.5Y5/2)	密	白・黒色粒子、雲母	良	70/			
3号住居	55-9	土師	小型壺	-	3.6	(3.3)	ナデ	ナデ	ヘラケズリ	にぶい黄褐(10YR5/3)	密	白・黒色粒子、雲母	良	50/-			
3号住居	55-10	土師	小型壺	-	3.2	[4.6]	ナデ	ミガキ	ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	緻密	黒色粒子、雲母	良	70/-			
3号住居	55-11	土師	壺	-	[6.4]	(7.5)	ハケメ	ハケメ、ナデ	ケズリ	にぶい黄橙(10YR6/4)	やや粗	白・黒色粒子、雲母	良	40/-			
3号住居	55-12	土師	小型壺	-	[4.3]	(2.0)	ナデ	ハケメ、ヘラケズリ	ヘラケズリ	にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒色粒子、雲母	良	50/-			
3号住居	55-13	土師	壺か	-	17.5	(4.3)	ナデ	ナデ、ハケメ、ミガキ	ナデ	にぶい褐(10YR5/4)	密	白・赤・黒色粒子	ややもろい	80/-			
3号住居	55-14	土師	盌		[7.4]	(3.8)	ハケメ	ハケメ	ケズリ	橙(7.5YR6/6)	密	白・赤・黒色粒子、雲母	良	60/-			
3号住居	55-15	土師	盌	[19.0]	-	(5.4)	ミガキ	ミガキ	—	にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・赤・黒色粒子、雲母	良	10/			
3号住居	55-16	土師	甕	[15.0]	-	(11.0)	ハケメ	ハケメ	—	灰黄褐(10YR4/2)	密	白・黒色粒子、雲母	やや良	60/			
3号住居	55-17	土師	小型壺	[7.0]		(4.2)	ナデ	ナデ、ハケメ	—	にぶい黄褐(10YR5/3)	密	白・赤・黒色粒子	良	30/-			
3号住居	55-18	土師	台付甕		[7.8]	(4.5)	ナデ	ハケメ、ナデ	—	にぶい黄褐(10YR5/3)	密	白・黒色粒子、雲母	良	100/			
3号住居	56-1	土師	高坏	[13.0]		(5.2)	ミガキ	ミガキ	ナデ	橙(5YR6/6)	緻密	白・黒色粒子	良	70/-			
3号住居	56-2	土師	高坏	[14.0]		(4.1)	ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙(10YR7/4～6/4)	密	白・黒色粒子、雲母	ややもろい	50/-			
3号住居	56-3	土師	高坏	-	17.8]	(3.0)	ハケメ	ミガキ		にぶい黄褐(10YR5/3)	密	白・黒色粒子、雲母	良	60/-			
3号住居	56-4	土師	器台	-	[8.0]	(3.5)	ナデ	ミガキ		にぶい黄褐(10YR5/3)	密	白・黒色粒子、雲母	ややあまい	40/-			
3号住居	56-5	土師	高坏	-	[8.0]	(4.3)	ナデ	ハケメ、ナデ	ナデ	橙(7.5YR7/6)	密	白・赤・黒色粒子	良	50/-			赤彩土器
3号住居	56-6	土師	高坏か器台	-		(4.1)	ナデ	ミガキ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	密	白・赤・黒色粒子、雲母	良	90/-			
3号住居	56-7	土師	高坏か		[18.0]	(1.0)	ナデ	ナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒色粒子	良	10/			
4号住居	56-8	土師	小型壺	[4.4]	3.0	6.2	ナデ	ハケメ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	密	白・黒色粒子、雲母	良	90/90			
2号竪穴状遺構	56-9	陶器	皿	[12.4]	-	(1.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	—	灰白(N8/0)釉-淡黄(5Y8/3)	密		良	10/-	瀬戸・美濃		灰釉丸皿　貫入
3号竪穴状遺構	56-10	陶器	皿	[9.2]	6.2	2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	灰白(10YR8/2)釉-灰黄(2.5Y7/2)	密		良	90/90	瀬戸・美濃	16C中	灰釉丸皿　貫入　輪花(外反皿)　摩滅ぎ　大窯2期
3号竪穴状遺構	56-11	陶器	鉢	[8.0]	-	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	—	浅黄橙(10YR8/3)釉-淡黄(2.5Y8/3)	密		良	10/-			
1号土坑	56-12	土師	甕	[16.0]	-	(11.6)	ハケ、ナデ	ナデ、ハケメ	—	橙(7.5YR6/6)	密	白・赤・黒色粒子、雲母	良	25/			
12号土坑	56-13	土師	小型甕	10.0]	-	(3.1)	ナデ	ナデ	—	にぶい黄橙(10YR7/3)	やや粗	白・赤・黒色粒子	良	10/			
21号土坑	56-14	陶器	皿	[10.0]	[5.0]	2.1	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り、ヘラケズリ	浅黄橙(10YR8/3)釉-灰褐(5YR4/2)	密	黒色粒子	良	40/40	瀬戸・美濃	16C中	鉄釉　削り出し高台　大窯2期
21号土坑	56-15	陶器	皿		6.0	(0.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	浅黄橙(10YR8/3)釉 暗褐(7.5YR3/3)	密	黒色粒子	良	50/	瀬戸・美濃	16C中	鉄釉　削り出し高台　輪禿(内面)　大窯2期
21号土坑	56-16	陶器	皿	[11.0]	[7.1]	2.1	ロクロナデ	ロクロナデ		浅黄橙(10YR8/3)釉-褐(7.5YR4/3)	密	白・黒色粒子	良	10/10	瀬戸・美濃	16C中	鉄釉　削り出し高台　大窯2期
21号土坑	56-17	土師	坏		[5.0]	(1.4)	ナデ	ロクロナデ	回転糸切り	浅黄橙(10YR8/3)	密	黒色粒子、雲母	良	20/			
36号土坑	56-18	土師	壺	-	-	(5.7)	ヘラナデ	ミガキ	—	にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・赤・黒色粒子	良	10/-			内外面赤彩
68号ピット	56-19	土師	壺	[14.6]	-	(10.2)	ナデ、ミガキ	ハケメ、ミガキ	—	にぶい褐(7.5YR5/4)	やや密	白・黒色粒子、雲母	ややあまい	60/-			外面赤彩顔料痕あり
100号ピット	56-20	陶器	碗	[9.0]	-	(1.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	—	灰白(5Y8/1)	密	黒色粒子	良	10/-	瀬戸・美濃		灰釉
7号溝	57-1	磁器	碗	[10.0]	[5.8]	(5.0)	—	—	—	灰白(7.5Y8/1)釉-白/灰白色(N9.5 334)	密	黒色粒子	良	10/-	肥前	19C前	端反碗
9号溝	57-2	土師	鉢	10.0	4.0	3.6	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	密	白・赤・黒色粒子	良	完形			
11号溝	57-3	陶器	碗	[11.0]	-	(2.1)	—	ロクロナデ	—	外：にぶい黄橙(10YR7/2) 内：オリーブ灰(2.5GY6/1)	密		良	10/-	瀬戸・美濃		
11号溝	57-4	陶器	碗	[10.0		(3.5)	—	—		にぶい黄橙(10YR7/2)釉-黒褐(10YR3/2)	密	白色粒子	良	10/-	瀬戸・美濃		鉄釉

遺構名	図版番号	種類	法量 長さ・径(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	重量(g)	備考
2号住居	57-21	小刀	3.7	0.7	0.2	3.4	
11号墳	57-24	棒状鉄製品	12.8	0.6	0.6	21.5	
13号墳	57-22	鉄鏃三	1.2	1.2	1.1	8.6	
13号墳	57-29	古銭	(1.8)	(1.8)		1.0	元豊通寶か
グリッド	57-19	鉄鏃	4.8	1.0	2.5	43.2	
グリッド	57-20	鉄鏃	3.6	1.0	1.6	15.6	
グリッド	57-23	棒状鉄製品	5.2	0.4	0.4	1.9	
グリッド	57-25	棒状鉄製品	3.0	0.4	0.3	1.2	
グリッド	57-26	棒状鉄製品	3.7	0.3	0.5	1.7	
グリッド	57-27	棒状鉄製品	2.1	0.4	0.3	0.8	
グリッド	57-28	不明	5.3	1.9	0.9	20.0	
グリッド	57-30	古銭	2.3			2.1	寛永通寶

第３表　出土遺物観察表（金属製品）

法量(　)は既存値である。

第４章　まとめ

第１節　古墳時代前期の集落について

坂井南遺跡は、方形周溝墓を伴う山梨県内でも有数の古墳時代前期の大規模集落遺跡として広く知られている。今回の発掘調査は、これまでの発掘調査で数多くの竪穴住居跡を検出した隣接地における調査であることから、数多くの住居跡が検出されるものと考えていたが、予想に反して４軒の竪穴住居跡が発見されたのみであった。

遺跡は、八ヶ岳の山体崩壊期の韮崎岩屑流と呼ばれる火砕流によって形成された、通称七里岩と呼ばれる台地上に立地している。七里岩は西側を釜無川、東側を塩川によって侵食された狭長な崖を呈する。遺跡の西側は釜無川の侵食によって断崖となり、北側には東へ向かう沢が入り込んでおり、南東へ向かって緩やかに張り出した尾根状地形となっている。古墳時代前期の集落群は、その尾根の頂部付近から先端にかけて広く展開している。

今回発掘調査を実施したＡ区は、南側に竪穴住居の痕跡が確認されたのみであるが、Ａ区の東から南にかけては、第１・３次調査によって数多くの竪穴住居跡が発見されている。また、第２次調査のＢ区では古墳時代前期の竪穴住居跡が８軒、Ｃ区においても１軒発見されており、尾根の最頂部付近までの広範囲にわたって集落が展開していたものと考えられる。

以上のよう状況から、Ａ区からも数多くの住居跡が発見されるものと思われたが、調査の結果、当該期の遺構のみならず、そのほかの時期の遺構もほとんど確認されなかった。Ａ区のうち北側は、尾根頂部に立地することから遺構確認面がアスファルト下の砕石直下であった。もともと尾根頂部にあたり、耕作等によって遺構が削平を受け、消失してしまった可能性を否定は出来ない。

一方Ｂ区は、遺跡内において最も住居群が濃密に分布する第３次調査地点の南側隣接地のため当該期の遺構が数多く発見されると思われたが、こちらの調査区でも３軒を発見したのみである。３軒の竪穴住居跡のうち２軒は、調査区の北側において発見されたもので、第３次調査で発見された集落と一体のものであることは明らかである。Ｂ区の東側から南側にかけては中世の遺構群が主体となり、古墳時代前期の遺構・遺物はほとんど検出されていない。

以上のような今回の発掘調査結果から、Ｂ区北側が坂井南遺跡における古墳時代前期集落の南端にあたるものと考えられ、古墳時代前期の集落は南東に傾斜する尾根上を中心に展開し、方形周溝墓群が尾根先端ならびに集落域より沢を挟んで北側に離れた地点に墳墓が発見されたことになる。

坂井南遺跡では、長らく集落と北側の周溝墓群のみが知られ、集落と墓域が谷を挟んで立地するような位置関係にあると理解されてきた。ところが、第４次から第６次調査ならびに隣接する個人住宅建設において集落東側の地点から方形周溝墓群が発見されたことにより、これまで墓域とされてきた方形周溝墓群は別の集落を墓域である可能性が出てきた（伊藤 1997）。

ここで、両周溝墓群のあり方をみると、北側の方形周溝墓は４基が検出され、一部溝を共有するものの、主軸をほぼ同じくしており、造墓に当たって全画性が伺える。他の遺構は検出されておらず、住居群との重複関係もない。南側の方形周溝墓は８基が検出され、一部では周溝の共有もみられるが、主軸を同じくすることから切り合い関係にはない。こちらの周溝墓群においても計画的に造墓活動が行われたことが理解される。しかし、北側地区の周溝墓群とは異なり、竪穴住居群と重複関係にある。先の指摘の通りであるならば、集落域と墓域がそれぞれのまとまりをもちながらも隣接し、一部は重複した状況にあったものといえる。

北側の周溝墓群と南側の周溝墓群の時期差について、北側の周溝墓群は出土遺物をほとんどないため比較することは出来ないが、南側の周溝墓出土土器には坂井南遺跡出土土器の中でも古い様相を持つものもみられる。ただし、竪穴住居と重複関係にあることから、住居の土器が混入していることも考慮しなければならない。

この両地区の方形周溝墓群が、現在確認されている集落群の墳墓であるのかについては断定出来ず、不明

と言わざるを得ない。

甲府市上の平遺跡は、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての方形周溝墓が124基も確認された県下最大規模を誇る墳墓群である。遺跡は曾根丘陵上に立地するが、墳墓を営んだ人々の集落の全容は未解明である。方形周溝墓群は、8グループほどに分けることが出来、単位群ごとに変遷を辿ることが可能だとし、一集落が営んだものではなく、農業生産を単位とした共同体によって計画的に造営された共同墓地だとする(中山1987)。

以上みてきたように、坂井南遺跡の集落域と墓域の関係は、未解明な部分が多くあり、両周溝墓群が時間差をもって造営されたものなのか、そして同一の共同体によって営まれたものなのか、あるいは別の集団によって営まれたものなのかなど、今後検討しなければならない課題は多い。

第2節　中世の遺構について

坂井南遺跡のこれまでの発掘調査において、中世に属する遺構は非常に客体的なものであった。第3次調査では、調査区北東隅付近から集石土坑2基が検出されている。1号集石土坑は、東西2.9 m、南北2.1 m、深さ0.7 mの不整小判形の土坑である。土坑内には20cm前後の礫が多量に混入しており、底面から15cmほどのところより、焼土が50cmほどの範囲をもって検出されている。出土遺物としては水滴、硯がある。水滴は、大窯2期の前半とされ、16世紀第2四半世紀に比定されるものである。2号土坑は、1号土坑に隣接して構築されており、東西2.8 m、南北2.1 m、深さ0.6 mを測る。1号土坑同様、土坑内には礫が多量に混入していた。出土遺物としては、水輪がある。

同じく第3次調査区の中央付近から南側にかけて、溝状遺構が検出されている。溝は幅2 m前後、深さ1.8 mの断面がV字形を呈する溝で、クランク状に折れ曲がっている。溝内からは中近世の陶磁器片が出土していることから、中世段階の所産である可能性も否定は出来ないものの、古墳時代集落の住居群を区画する溝の可能性や近現代の耕作に伴う根切り溝の可能性もあり、中世の所産と断定するには問題がある。

第7次にあたる今回の発掘調査では、中世に属すると思われる遺構として、空堀跡（12号溝）、竪穴状遺構3棟、土坑などが発見された。出土遺物はわずかで、3号竪穴状遺構出土の丸皿、21号土坑出土の稜皿などが主な遺物である。これらは瀬戸・美濃産で、大窯2期後半段階に位置づけられ、16世紀中頃の所産と考えられる。その他の遺構では、遺構の時期を特定するような遺物は出土していないが、12号溝を除くこれらの遺構がB区東側にまとまって検出されていることから、ほぼ同様な時期と考えることも出来る。

12号溝として報告した薬研堀は、出土遺物が皆無であったために堀の開削年代を特定することは出来なかったが、薬研堀という堀断面形態を考慮するならば、中世段階の所産と考えるのが妥当と思われる。

堀は、幅5 m前後、深さ1.5 mほどの薬研堀で、遺構の北西に当たる方向には直角に屈曲する部分がある。堀の土層断面観察からは、空堀で堀の内側より埋没していたことが伺え、堆積土にはロームブロックがかなりの量が混入していた。このことから、掘り上げた土を堀の内側に土塁状に積み上げていたことが想定される。

では、本空堀はどのような性格を有していたのだろうか。坂井南遺跡が立地する七里岩台地上には、数多くの中世の遺跡が知られている。

本遺跡から、北西1 kmほどのところには、武田家最後の居城となった、新府城がある。新府城は、武田勝頼が鶴瓶ヶ崎館を廃して本格的な城郭として築いたもので、天正九年二月に築城を開始し、同年の十二月には入城をしている。『甲斐国志』巻四十七　古跡部第十には、「北ハ穴山村南ハ駒井村ノ界ニ跨ガリ諸士ノ宅迹等多ク存シタリ」などとあり、新府中の移転に伴って、穴山町から藤井町駒井にかけて家臣団屋敷も移転したという記述や家臣団屋敷の規模や位置などの記述がされている。

また、新府城の北側1.8kmのところには、能見城が立地する。能見城の性格は不明であるが、『甲斐国志』では新府城の外郭としている。城の北裾には七里岩台地上を横断するように1.5kmにわたって防塁が確認できる。この防塁をめぐっては、新府城防御のため築城に伴って武田氏によって構築されたもの、天正壬午

の戦いのために徳川氏によって築かれたもの、武田氏によって構築され徳川氏によって修築されたものなど諸説がある。詳細は明らかではないが、天正九（1581）～十（1582）年に構築され、使用されたという極めて限定された期間の所産であるという点では一致した見解となっている。

これらの、山城は台地上の岩屑流による流れ山地形の岩塊を利用して構築されている。また、さらに小さな岩塊は、篠火台などとしても利用されている。

新府城から出土する土器は、大窯の２期から３期のもので、16 世紀後半に比定される一群である。第３次調査１号集石土坑出土の水滴が大窯２期前半段階、今回の発掘調査で発見された３号竪穴状遺構出土の丸皿、21 号土坑出土の稜皿は大窯２期後半段階のものであり、新府城出土遺物よりやや古いかほぼ同時期のものであるといえる。

本空堀が、新府城に関連する遺構であることも考えられるが、新府城の搦手の堀や能見城防塁に伴う堀は箱堀となっており、本空堀のように薬研堀の形態をとるものは、現在のところ確認されていない。周辺地域で薬研堀が確認されているのは、北杜市小和田遺跡、同谷戸城、同教来石民部館跡などが知られる。これらのうち、小和田遺跡の薬研堀で囲まれた主体部分の掘立柱建物群は、15 世紀代を主体とする遺構群だとされる。また、谷戸城から出土した炭化物の放射性炭素分析では、14 世紀後半から 15 世紀前半の年代観が与えられており、16 世紀代に下るような例は知られていない。これらのことからすると、本遺跡から検出された薬研堀は、15 世紀代までには構築されていた可能性が高いものといえよう。堀の北側に位置する 16 世紀中頃と推定される竪穴状遺構群や集石土坑群および新府城や能見城とは、成立の時期が異なるものと推定されるのである。本空堀で区画された遺構群は、中世在地領主の居館などであった可能性が高いものといえよう。しかし、その規模、居住者については不明である。

なお、明治期の地籍図によって方形地割区画が確認できるかどうか検討したが、方形となるような地割は確認できなかった。

今回の発掘調査では、空堀の北西コーナー部を発掘調査出来たに過ぎず、堀の内側もおそらくかつて土塁が築かれていたと思われる部分しか確認できていない。幸い、郭内にあたる部分は、地中深く埋もれ保存されていることから、古墳時代前期集落と墳墓群との関係解明と同様、今後の調査・研究に期するところが大きい。

参考文献

伊藤正彦　1997「韮崎市の弥生時代後期から古墳時代前期の様相」『山梨県考古学協会誌』第８号　山梨県考古学協会
九州近世陶磁学会　2000『九州陶磁の編年』
中山誠二　1987「弥生時代終末期における上の平遺跡の集落構造」『研究紀要』４　山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
韮崎市教育委員会ほか　1984『坂井南遺跡』
1985『中田小学校遺跡』
1987『中本田遺跡　堂ノ前遺跡』
1988a『坂井南』
1988b『前田遺跡』
1989『後田遺跡
1990『北後田遺跡』
1991a『下横屋遺跡』
1991b『北下条遺跡』
1991c『宮ノ前第２遺跡　北堂地遺跡』
1992a『上本田遺跡』
1992b『宮ノ前遺跡』
1993a『宮ノ前第３遺跡』
1993b『山影遺跡』
1994『立石遺跡』
1995a『坂井南（大原）遺跡』
1995b『宮ノ前第４遺跡』
1996a『後田第２遺跡』
1996b『枇杷塚遺跡』
1996c『坂井堂ノ前遺跡』
1997a『後田堂ノ前遺跡』
1997b『坂井南遺跡Ⅲ』
1997c『宮ノ前５遺跡』
1998a『三宮地遺跡』
1998b『能見城跡』
1999a『下木戸第２遺跡』
1999b『上横屋遺跡』
1999c『史跡　新府城』　―環境整備事業にともなう発掘調査報告書Ⅰ―
2001a『下横屋第２遺跡』
2001b『史跡　新府城』　―環境整備事業にともなう発掘調査報告書Ⅰ―
2003a『下横屋遺跡Ⅲ』
2003b『下横屋遺跡Ⅳ』
2005『下横屋遺跡第５地点』
藤澤良祐　2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『財瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯
萩原三雄編　1991『定本　山梨県の城』　郷土出版社
山下孝司　1999『北下条墓址』『八ヶ岳考古』北巨摩市町村文化財担当者会
2001「能見城」『武田系城郭研究の最前線』　山梨県考古学協会
山梨県　1998『山梨県史』資料編１　原始・古代１　考古（遺跡）
山梨県　1999『山梨県史』資料編２　原始・古代２　考古（遺構・遺物）
山梨県　2004『山梨県史』資料編７　中世４　考古資料
山梨県教育委員会　1993『宿尻遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第81集

おわりに

坂井南遺跡は、峡北地域のみならず山梨県下においても有数な規模をもつ、古墳時代前期の集落遺跡である。

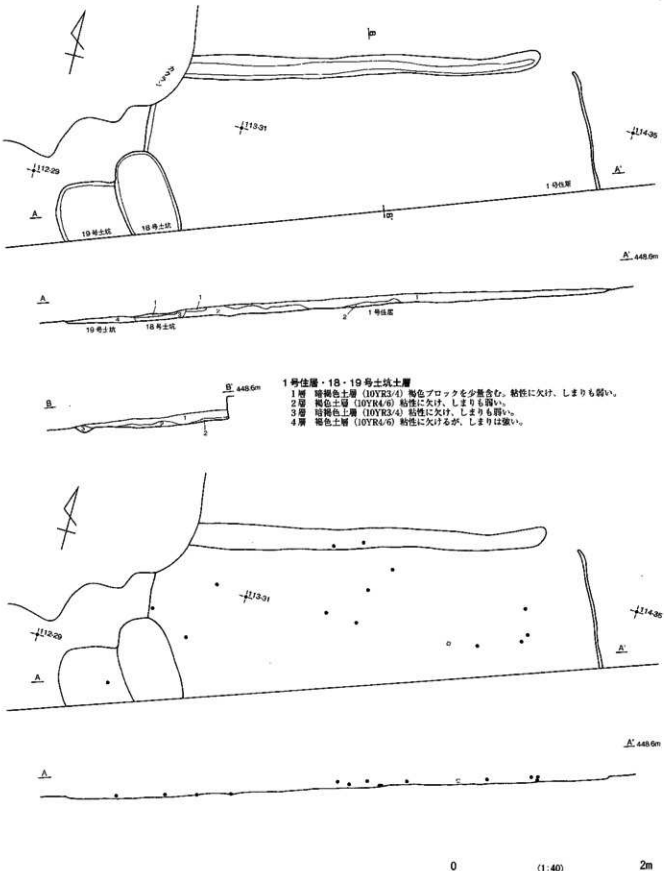
今回の発掘調査においても、当該期の集落が濃密に発見されるものと期待されたが、予想に反して4軒の竪穴住居を確認するにとどまった。しかし、調査結果により坂井南遺跡における古墳時代前期集落の範囲をある程度確定できたことは大きな成果となった。

一方、中世館跡の空堀と思われる遺構や当該期の竪穴状遺構が確認されるなど、予想外の発見もあった。

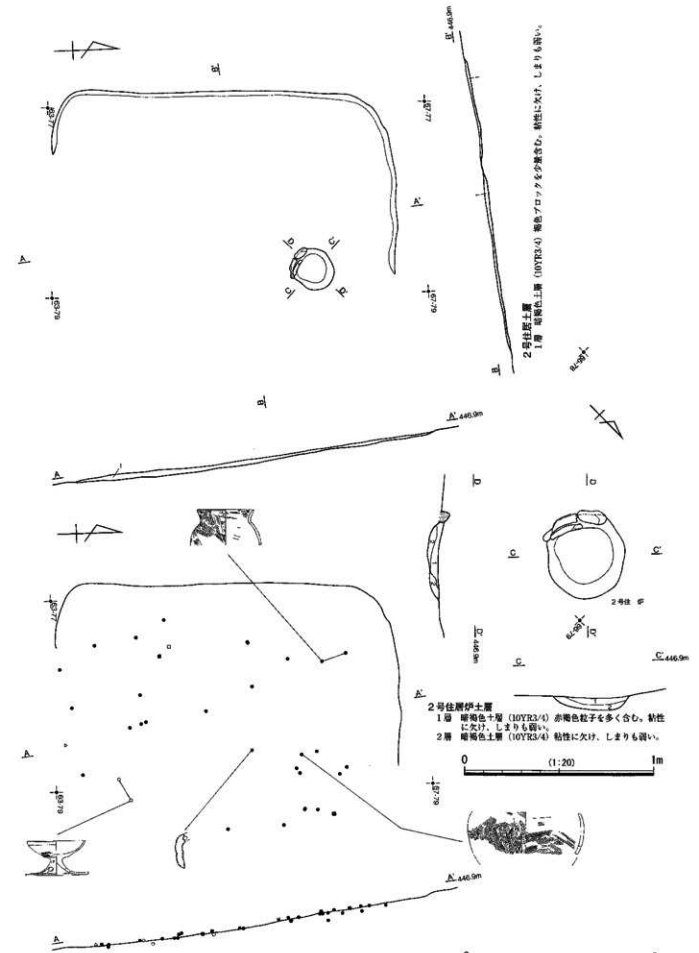
調査範囲が限定されていたために、堀の性格を特定するには至らなかったが、この発見により七里岩台地上の中世遺跡のあり方を考えるうえで、貴重な資料を提示することが出来たと思っている。

発掘調査は、10月下旬より開始し、翌年2月まで実施した。八ヶ岳南麓地域は、冬には八ヶ岳颪が吹き荒ぶ地域である。とくに七里岩台地上は、風の通り道ともなっており一層風が強い地域でもある。加えて、南アルプスの鳳凰三山が西側に追っているために、調査の終盤では午後3時以降地面に霜柱が立ち始めるという環境下で、ガスバーナーで霜柱を溶かしながらの調査でもあった。最後は、劣悪な条件下での発掘調査ではあったが、調査に従事、ご協力いただいた方々の努力により調査を無事終了し、大きな成果を上げることが出来た。

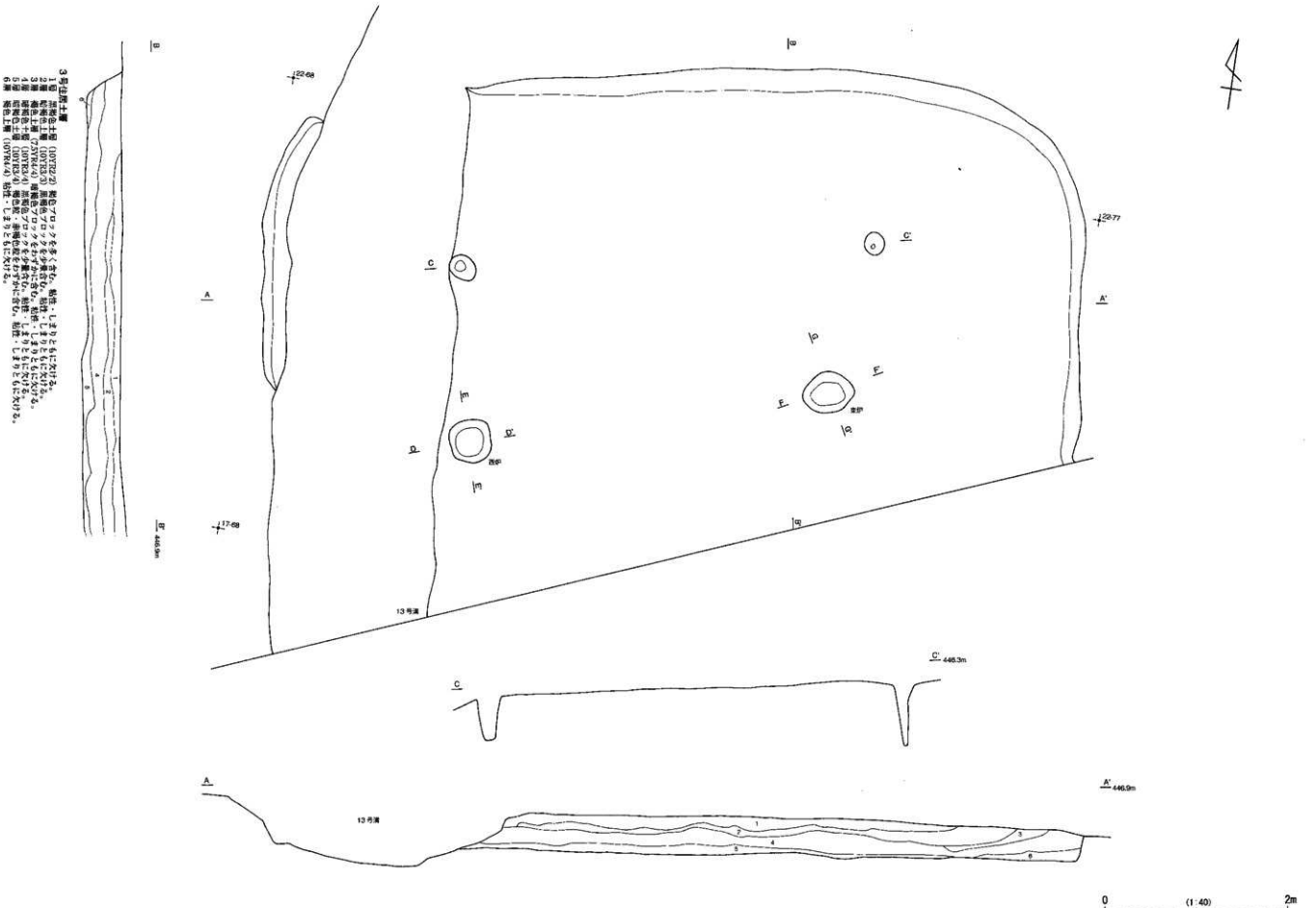
最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行にあたりご協力いただきました機関・各位、作業に従事していただいた方々に対しお礼申し上げます。



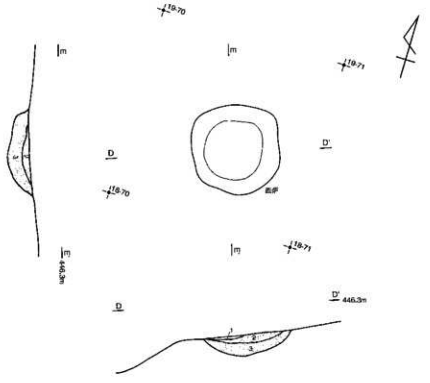
第6図　1号住居、18・19号土坑平面図



第7図 2号住居・炉平面図


3号住居土層
1層 黒褐色土層（10YR2/2）褐色ブロックを多く含む。粘性・しまりともに欠ける。
2層 黒褐色土層（10YR3/3）黒褐色ブロックを少量含む。粘性・しまりともに欠ける。
3層 褐色土層（7.5YR4/4）黒褐色ブロックをわずかに含む。粘性・しまりともに欠ける。
4層 黒褐色土層（10YR2/4）黒褐色ブロックを少量含む。粘性・しまりともに欠ける。
5層 暗褐色土層（10YR3/4）褐色粒・赤褐色粒をわずかに含む。粘性・しまりともに欠ける。
6層 褐色土層（10YR4/4）粘性・しまりともに欠ける。
B
B'
446.9m
A
A'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
13号溝
22.68
22.77
17.68
446.3m
446.9m
1
2
3
4
5
6
0
(1:40)
2m

第８図　３号住居平面図

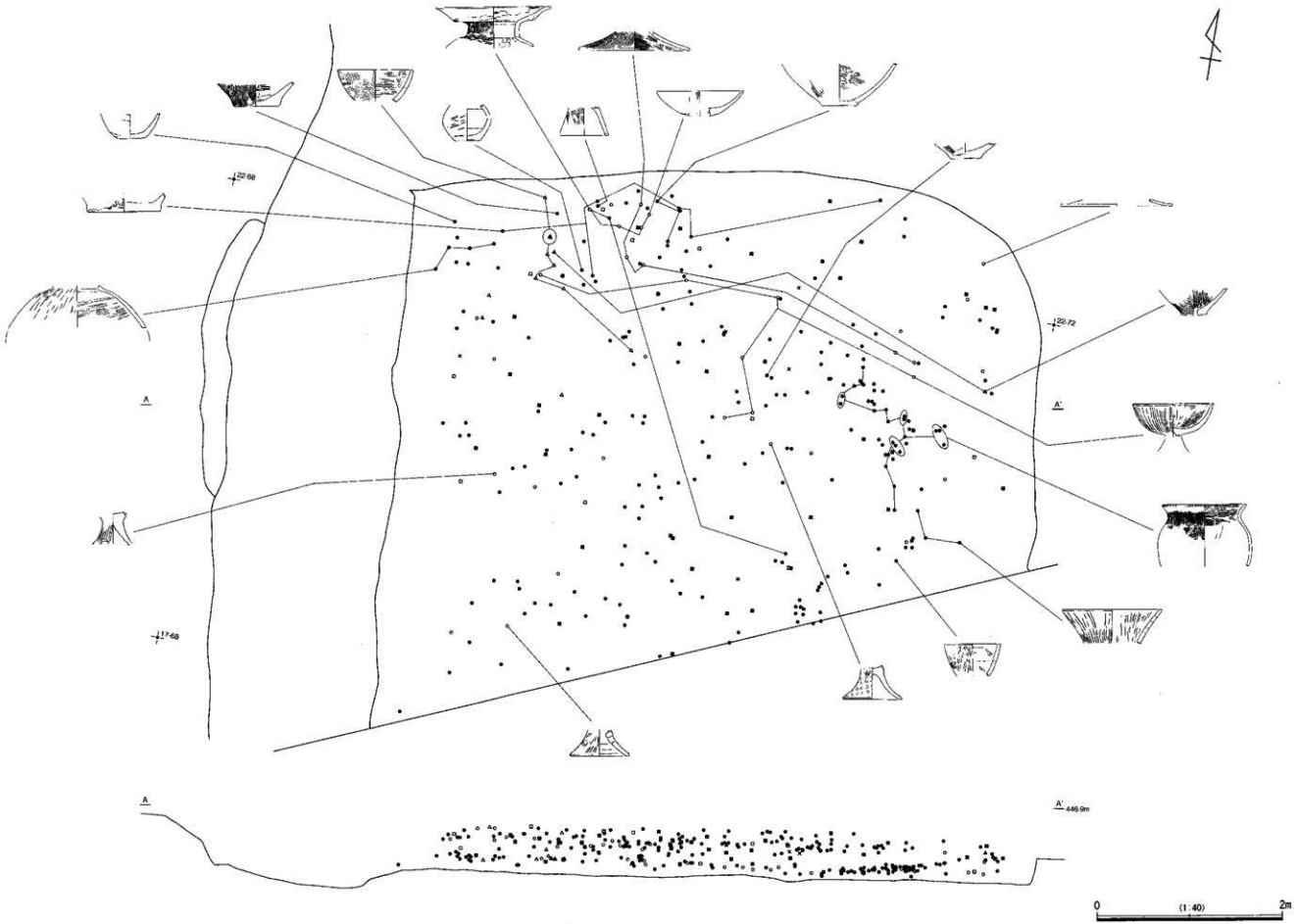


3号住居炉土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）炭化物・赤褐色粒を少量含む。粘性・しまりともに欠ける。
2層　焼土層（5YR4/8）
3層　橙色ローム攪土層（7.5YR4/4）
4層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性・しまりともに欠ける。

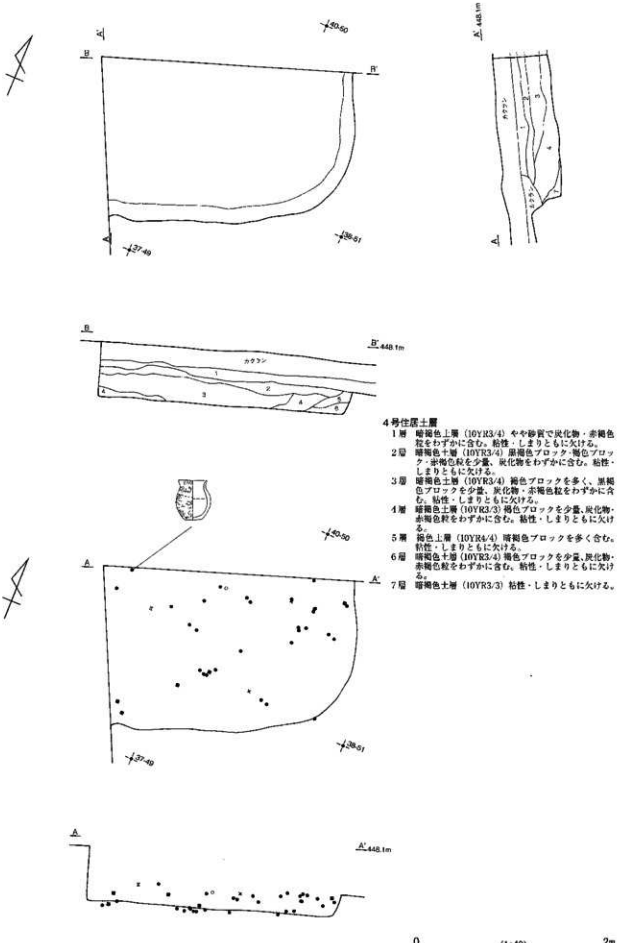
0 (1:20) 1m

0 (1:40) 2m

第９図　３号住居炉平面図・遺物分布図(1)



第10図　3号住居遺物分布図(2)



4号住居土層

1層　暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で炭化物・赤褐色粒をわずかに含む。粘性・しまりともに欠ける。

2層　暗褐色土層（10YR3/4）黒褐色ブロック・褐色ブロック・赤褐色粒を少量、炭化物をわずかに含む。粘性・しまりともに欠ける。

3層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを多く、黒褐色ブロックを少量、炭化物・赤褐色粒をわずかに含む。粘性・しまりともに欠ける。

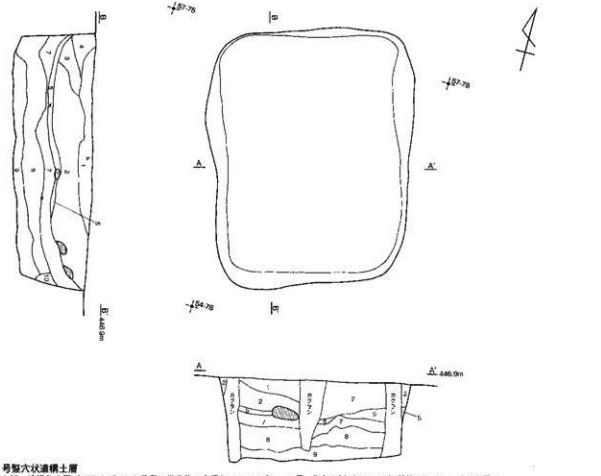
4層　暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを少量、炭化物・赤褐色粒をわずかに含む。粘性・しまりともに欠ける。

5層　褐色土層（10YR4/4）暗褐色ブロックを多く含む。粘性・しまりともに欠ける。

6層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量、炭化物・赤褐色粒をわずかに含む。粘性・しまりともに欠ける。

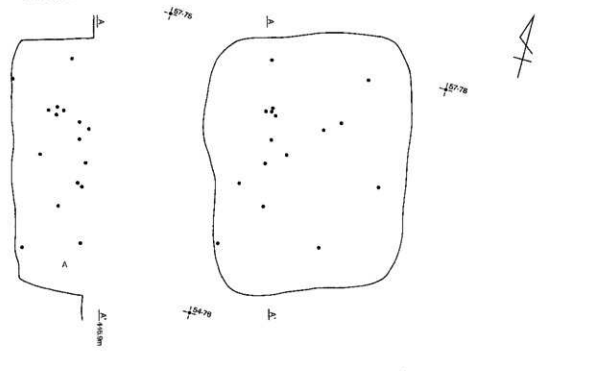
7層　暗褐色土層（10YR3/3）粘性・しまりともに欠ける。

第11図　4号住居平面図

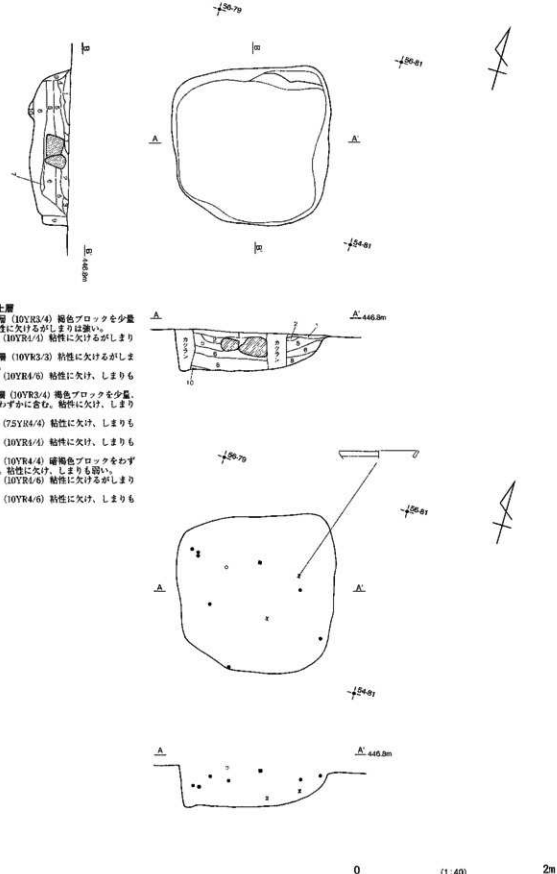


1号竪穴状遺構土層

1層 暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で炭化物・赤褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
2層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを少量、炭化物をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
3層 暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
4層 暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
5層 褐色土層（10YR4/4）粘性に欠け、しまりも弱い。
6層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを多く含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
7層 褐色土層（10YR4/4）暗褐色ブロックを少量含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
8層 褐色土層（10YR4/4）暗褐色ブロックを多く含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
9層 褐色土層（10YR4/4）粘性・しまりともに欠ける。
10層 褐色土層（10YR4/6）粘性に欠けるがしまりは強い。



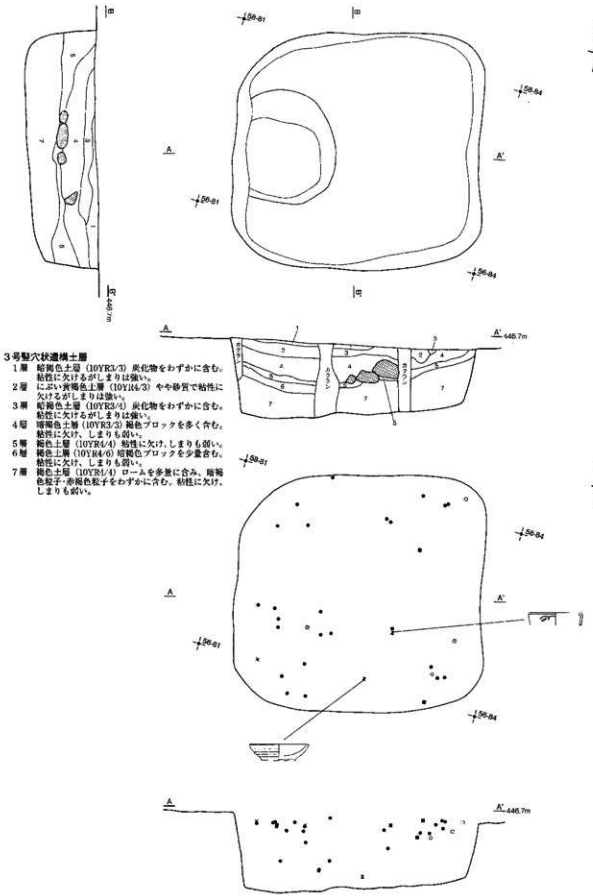
第12図 1号竪穴状遺構平面図



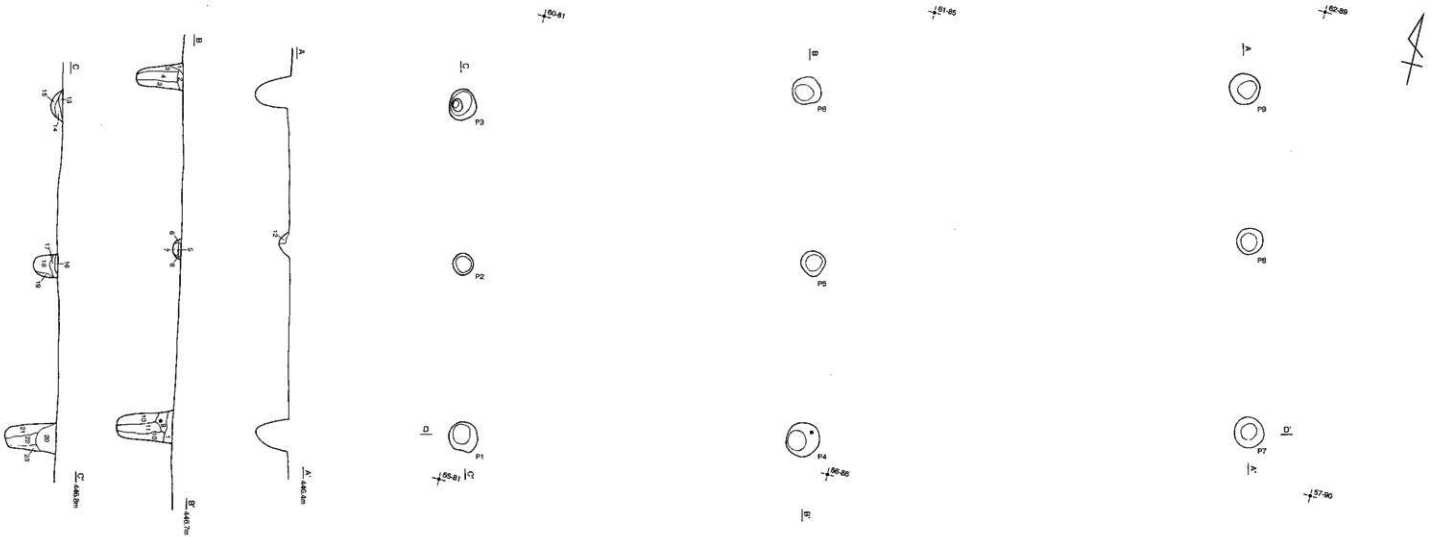
2号竪穴状遺構土層

1層 暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
2層 褐色土層（10YR4/4）粘性に欠けるがしまりは強い。
3層 明褐色土層（10YR3/3）粘性に欠けるがしまりは強い。
4層 褐色土層（10YR4/6）粘性に欠け、しまりも弱い。
5層 暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量、炭化物をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
6層 褐色土層（75YR4/4）粘性に欠け、しまりも弱い。
7層 褐色土層（10YR4/4）粘性に欠け、しまりも弱い。
8層 褐色土層（10YR4/4）暗褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
9層 褐色土層（10YR4/6）粘性に欠けるがしまりは強い。
10層 褐色土層（10YR4/6）粘性に欠け、しまりも弱い。

第13図　2号竪穴状遺構平面図



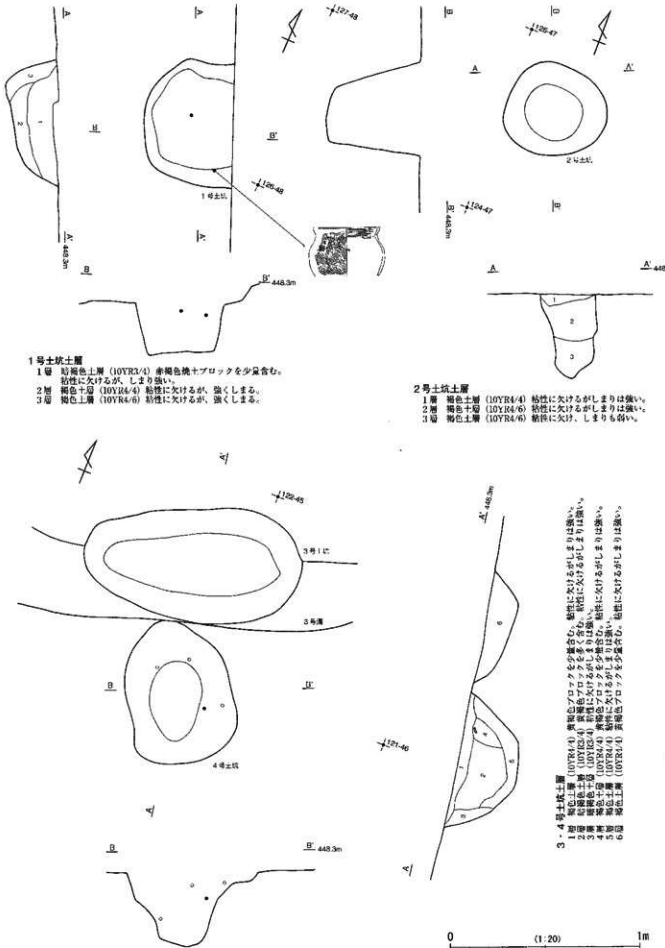
第14図　3号竪穴状遺構平面図



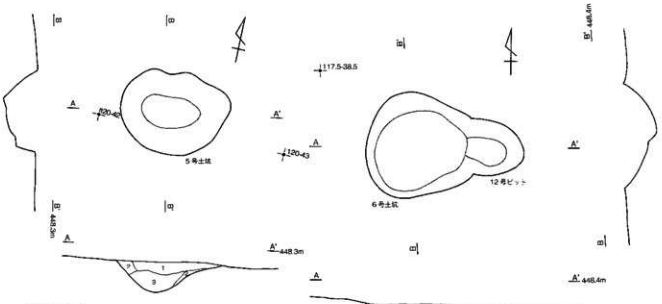
1号掘立柱建物土層

1層　褐色土層（10YR4/6）　粘性に欠けるがしまりは強い。
2層　暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを多く、炭化物をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
3層　暗褐色土層（10YR3/3）粘性に欠け、しまりも弱い。
4層　暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを少量含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
5層　暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを多く、炭化物・赤褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
6層　褐色土層（10YR4/6）　粘性に欠け、しまりも弱い。
7層　暗褐色土層（10YR3/4）炭化微粒子をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
8層　褐色土層（10YR4/6）　暗褐色ブロックを多く含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
9層　暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロック・赤褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
10層　暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
11層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性に欠け、しまりも弱い。
12層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性・しまりともに欠ける。
13層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性に欠けるがしまりは強い。
14層　褐色土層（10YR4/4）　炭化物・赤褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
15層　褐色十層（10YR4/4）　粘性に欠けるがしまりは強い。
16層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを多く、炭化物をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
17層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを多く含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
18層　褐色十層（10YR4/4）　暗褐色ブロックを少量含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
19層　褐色土層（10YR4/4）　粘性に欠け、しまりも弱い。
20層　暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを多く、炭化物・赤褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
21層　褐暗色十層（10YR3/3）粘性・しまりともに欠ける。
22層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量含む。粘性・しまりともに欠ける。
23層　暗褐色土層（10YR3/3）粘性・しまりともに欠ける。

第15図　1号掘立柱建物平面図

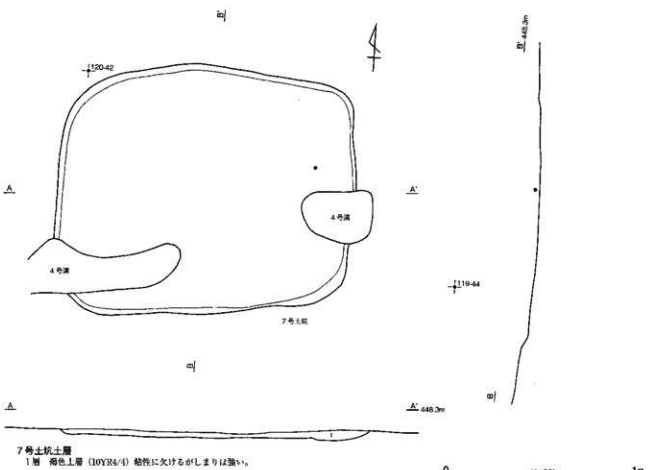


第16図　土坑・ピット平面図(1)



5号土坑土層
1層　褐色土層（10YR4/6）粘性に欠けるがしまりは強い。
2層　褐色土層（10YR4/4）粘性に欠けるがしまりは強い。
3層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性に欠けるがしまりは強い。

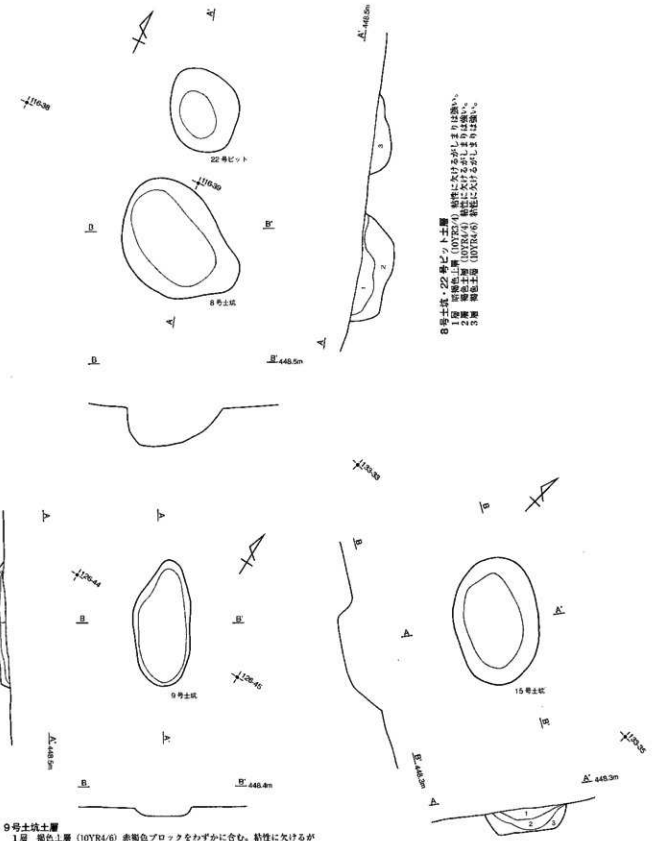
6号土坑・12号ピット土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性に欠けるがしまりは強い。
2層　褐色土層（10YR4/4）粘性に欠けるがしまりは強い。
3層　褐色土層（10YR4/6）粘性に欠けるがしまりは強い。
4層　褐色土層（7.5YR4/6）粘性に欠けるがしまりは強い。
5層　暗色土層（7.5YR4/4）粘性に欠けるがしまりは強い。



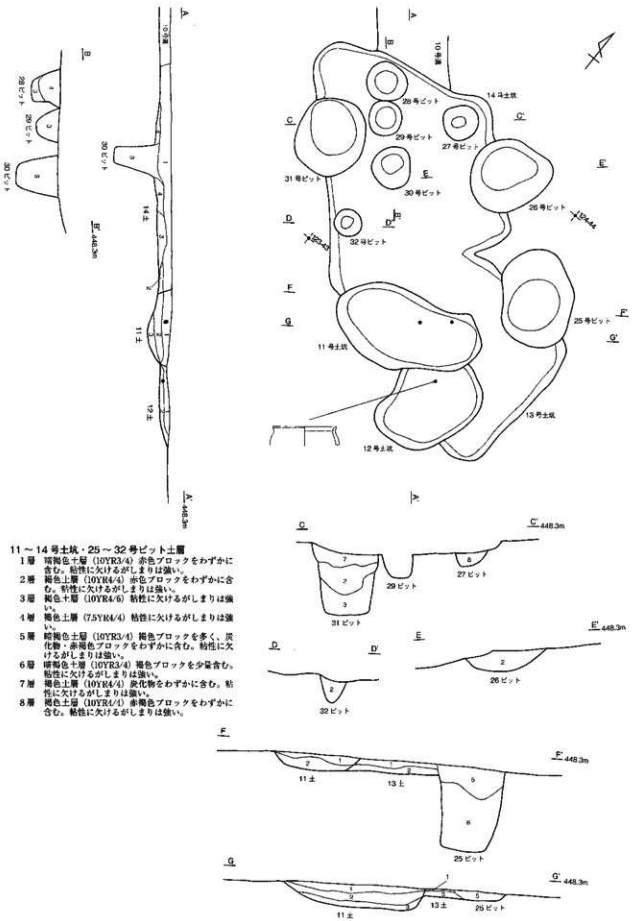
7号土坑土層
1層　褐色土層（10YR4/4）粘性に欠けるがしまりは強い。

0　(1:20)　1m

第17図　土坑・ピット平面図(2)



第18図　土坑・ピット平面図(3)

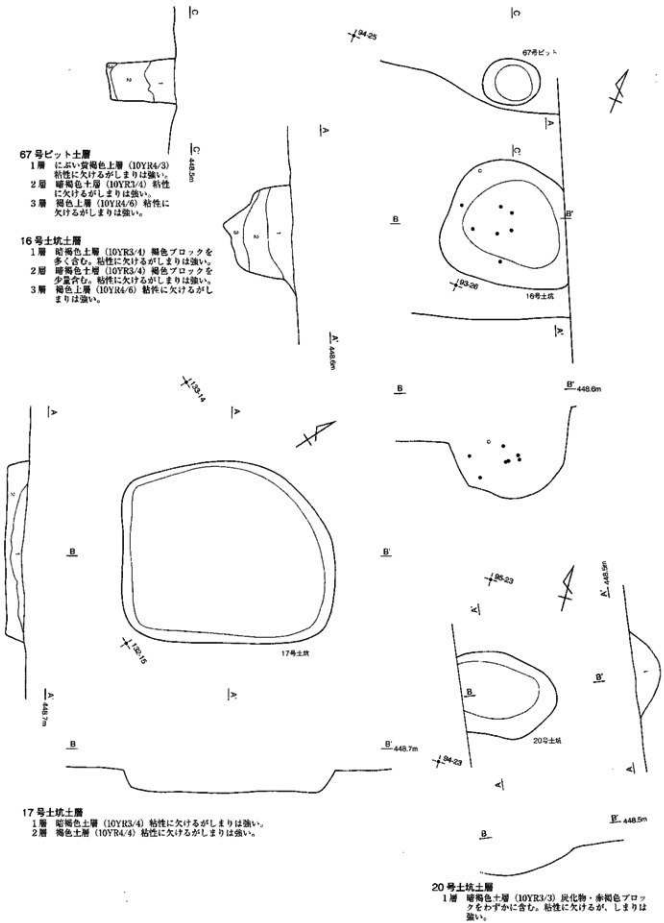


11～14号土坑・25～32号ピット土層

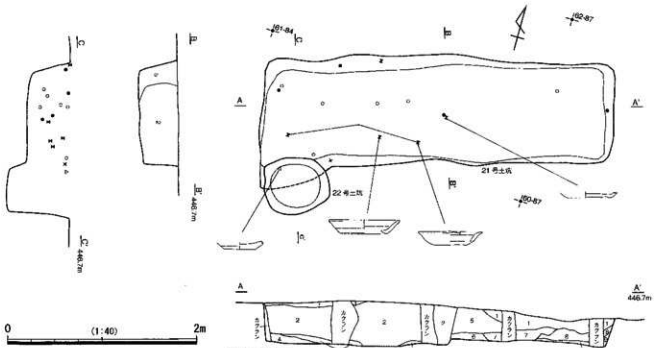
1層　暗褐色土層（10YR3/4）赤色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
2層　褐色土層（10YR4/4）赤色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
3層　褐色土層（10YR4/6）粘性に欠けるがしまりは強い。
4層　褐色土層（7.5YR4/4）粘性に欠けるがしまりは強い。
5層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを多く、炭化物・赤褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
6層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
7層　褐色土層（10YR4/4）炭化物をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
8層　褐色土層（10YR4/4）赤褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。

0　(1:20)　1m

第19図　土坑・ピット平面図(4)

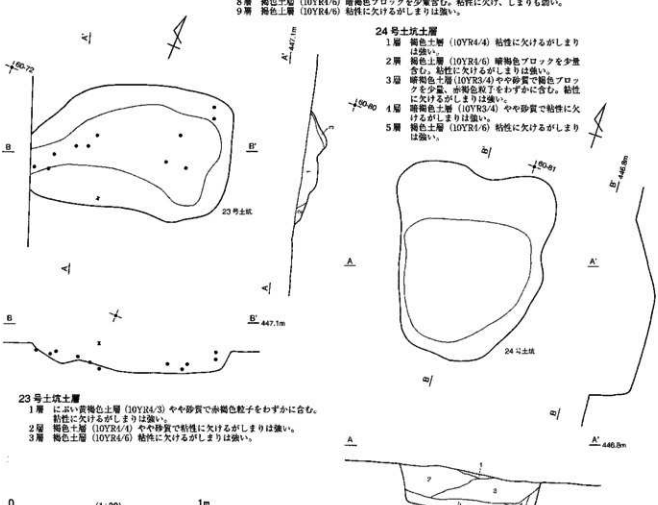


第20図 土坑・ピット平面図(5)



21号土坑土層

1層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性に欠け、しまりも弱い。
2層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量、炭化物をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
3層　褐色土層（10YR4/4）粘性、しまりともに欠ける。
4層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックをわずかに含む。粘性・しまりともに欠ける。
5層　褐色土層（7.5YR4/4）粘性に欠け、しまりも弱い。
6層　褐色土層（10YR4/6）粘性に欠け、しまりも弱い。
7層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色土を縞状に含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
8層　褐色土層（10YR4/6）暗褐色ブロックを少量含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
9層　褐色土層（10YR4/6）粘性に欠けるがしまりは強い。



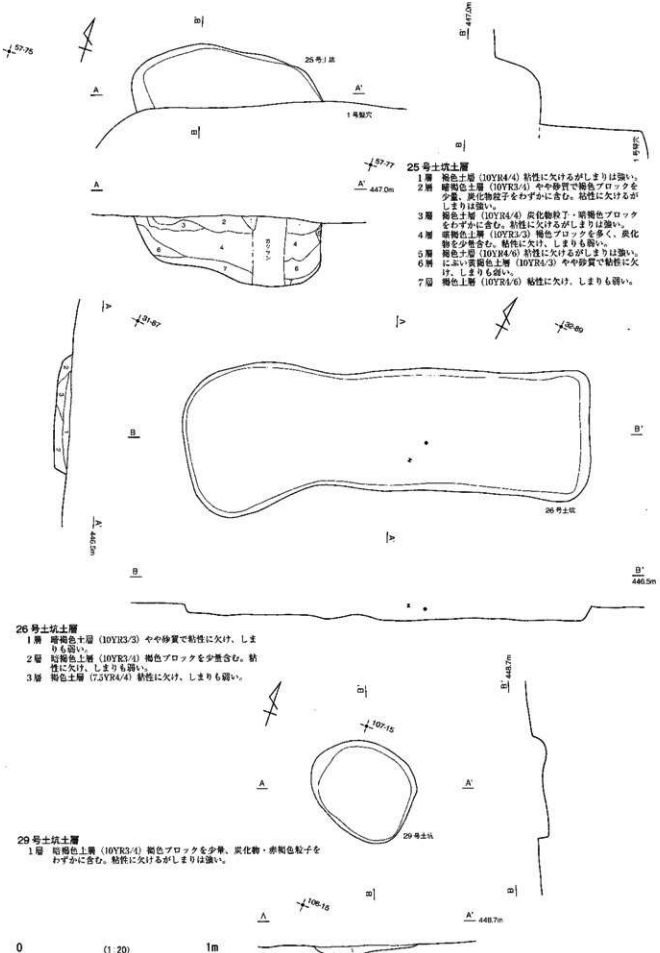
24号土坑土層

1層　褐色土層（10YR4/4）粘性に欠けるがしまりは強い。
2層　褐色土層（10YR4/6）暗褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
3層　暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で褐色ブロックを少量、赤褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
4層　暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で粘性に欠けるがしまりは強い。
5層　褐色土層（10YR4/6）粘性に欠けるがしまりは強い。

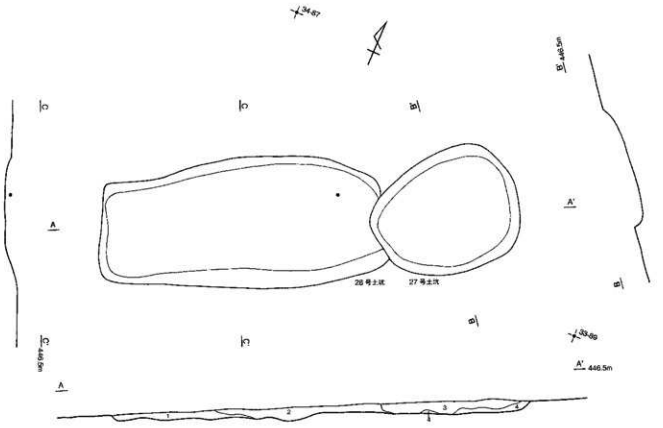
23号土坑土層

1層　にぶい黄褐色土層（10YR4/3）やや砂質で赤褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
2層　褐色土層（10YR4/4）やや砂質で粘性に欠けるがしまりは強い。
3層　褐色土層（10YR4/6）粘性に欠けるがしまりは強い。

第21図　土坑・ピット平面図(6)

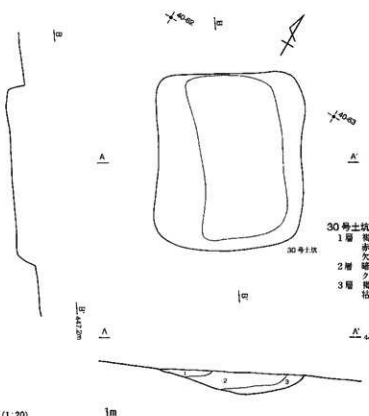


第22図 土坑・ピット平面図(7)



27・28 号土坑土層

1 層　暗褐色土層（10YR3/3）炭化物粒子をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
2 層　暗褐色土層（10YR3/3）やや砂質で褐色ブロックを少量、炭化物粒子・赤褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
3 層　暗褐色土層（10YR3/3）やや砂質で炭化物粒子・赤褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
4 層　褐色土層（10YR4/4）炭化物粒子・赤褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。

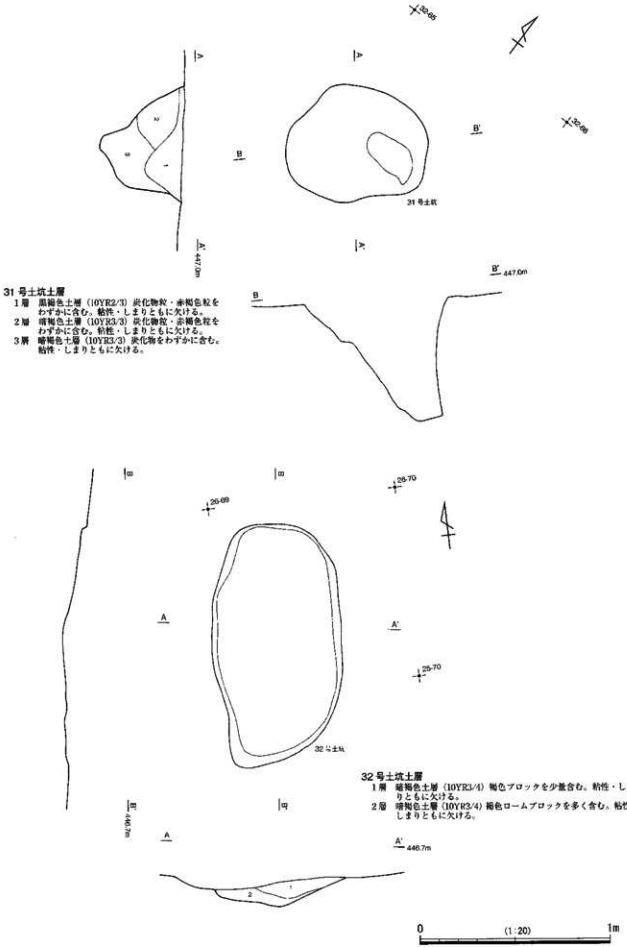


30 号土坑土層

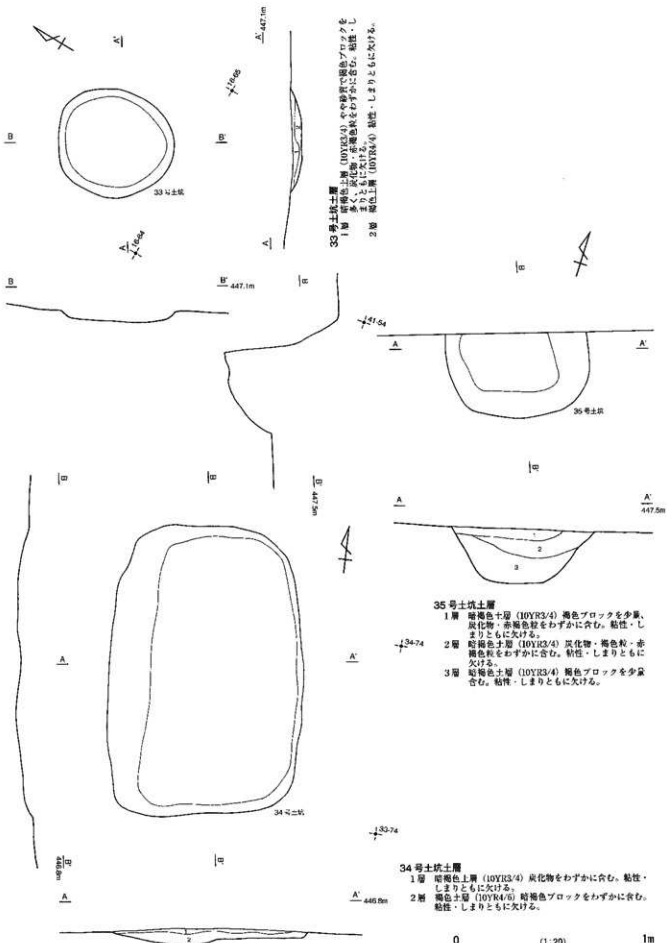
1 層　褐色土層（10YR4/4）炭化物ブロックを少量、赤褐色粒をわずかに含む。粘性・しまりともに欠ける。
2 層　暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で炭化物ブロックを少量含む。粘性・しまりともに欠ける。
3 層　褐色土層（10YR4/4）層状に暗褐色土を含む。粘性・しまりともに欠ける。

0　(1:20)　1m

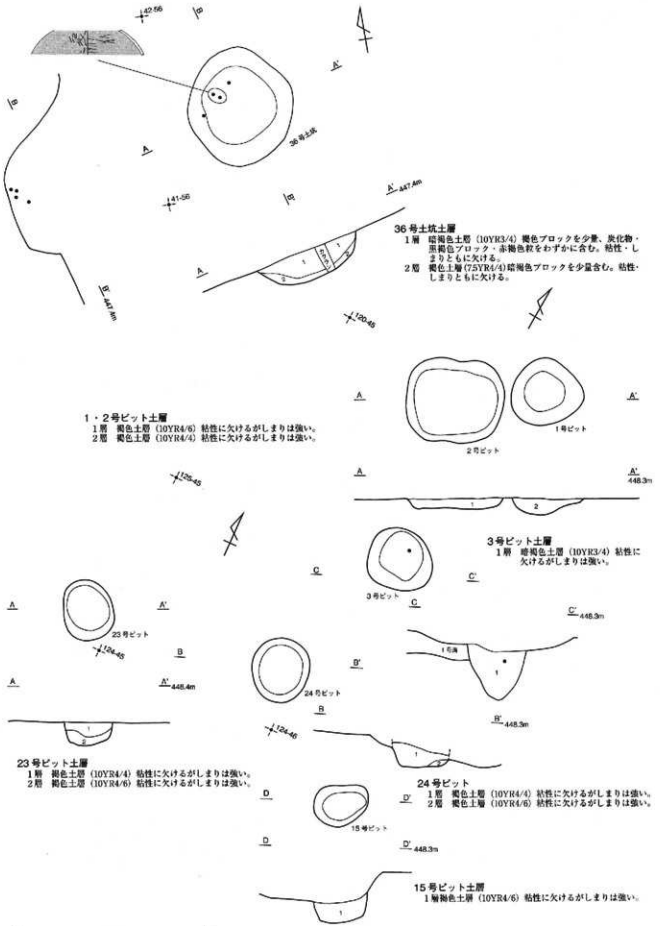
第 23 図　土坑・ピット平面図(8)



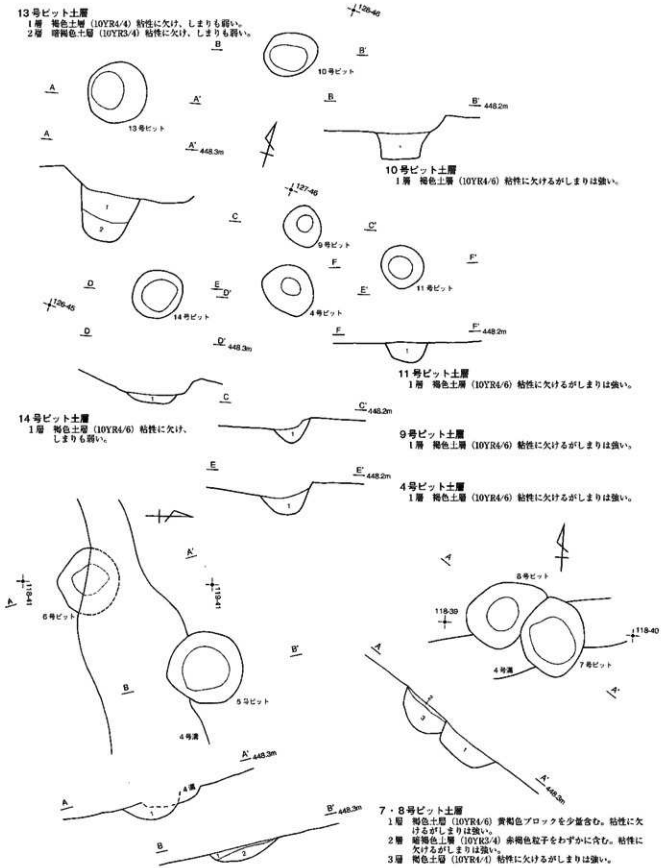
第 24 図　土坑・ピット平面図(9)



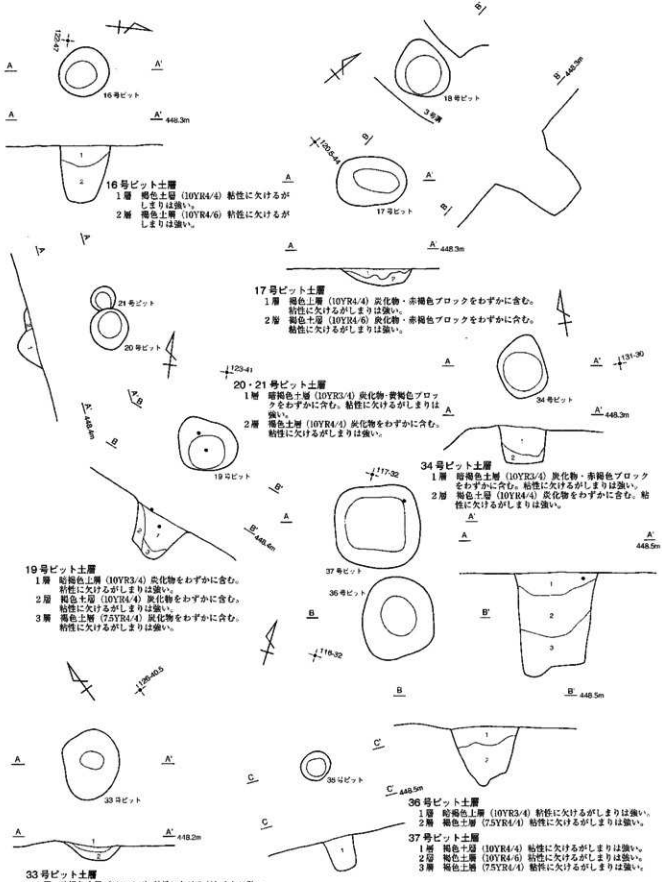
第25図　土坑・ピット平面図(10)



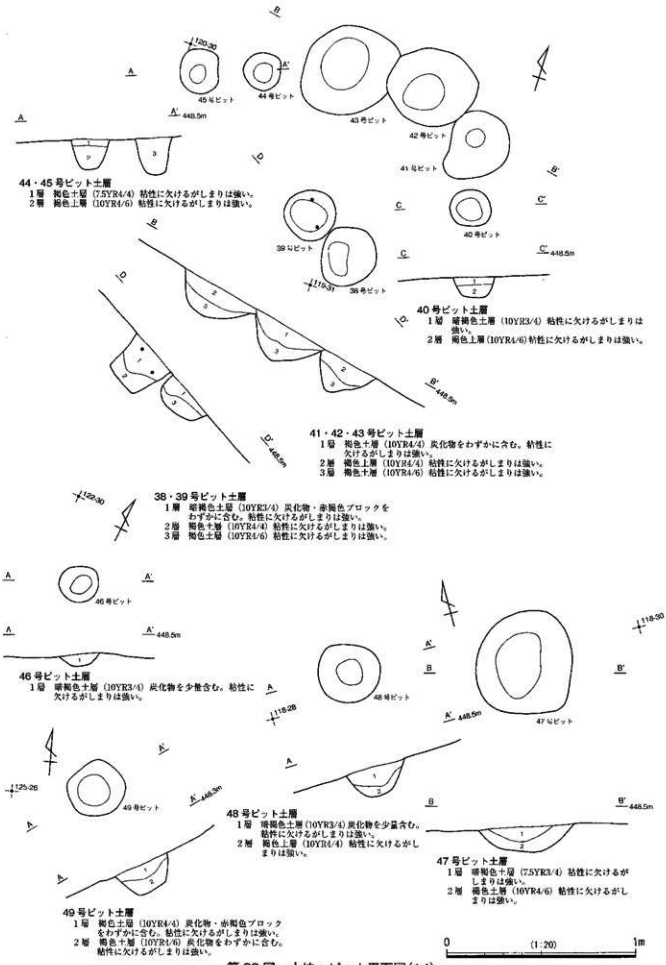
第26図 土坑・ピット平面図(11)



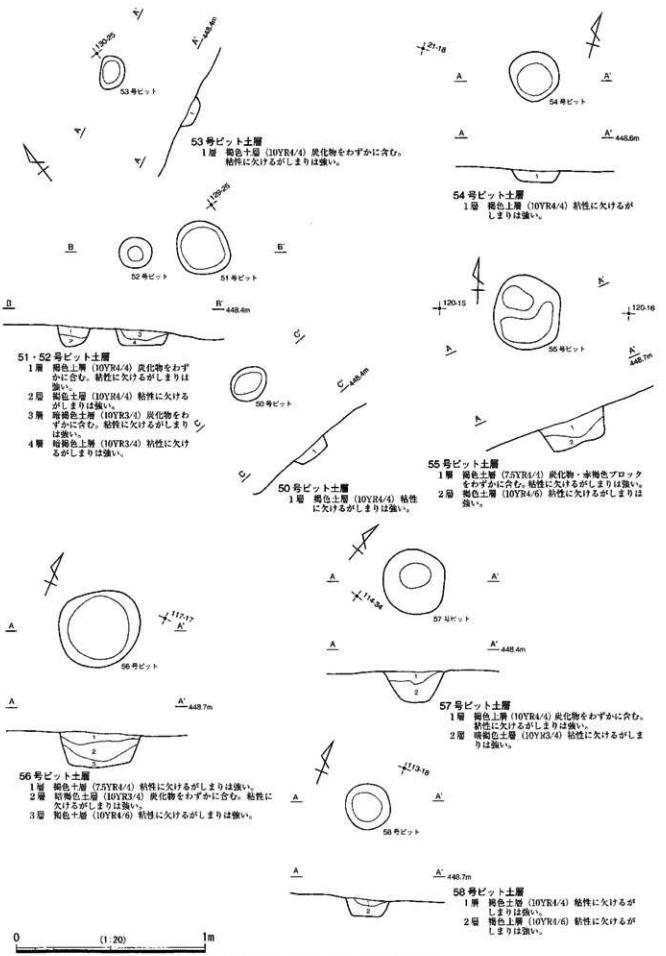
第27図 土坑・ピット平面図(12)



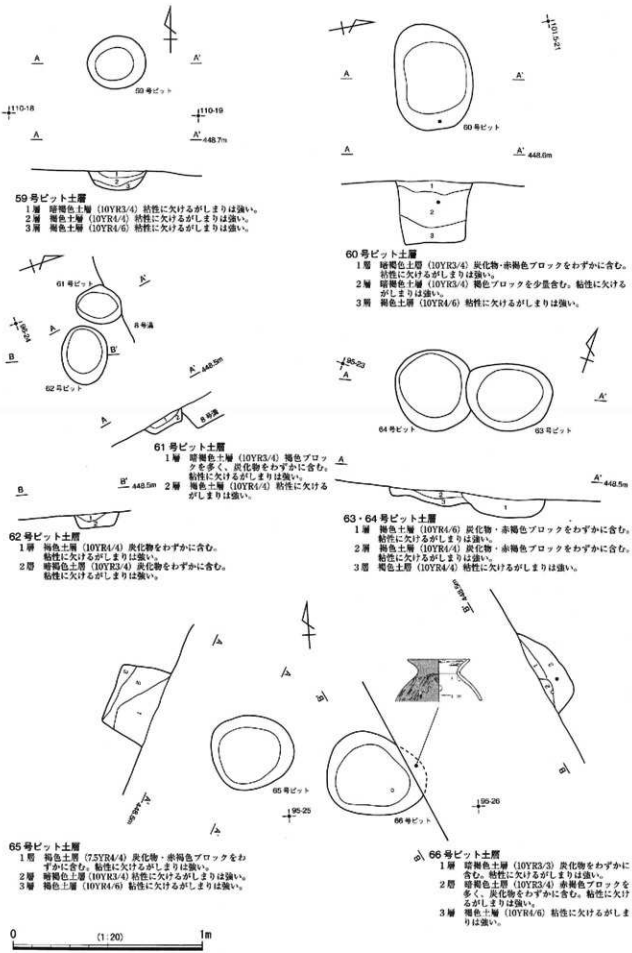
第28図　土坑・ピット平面図(13)



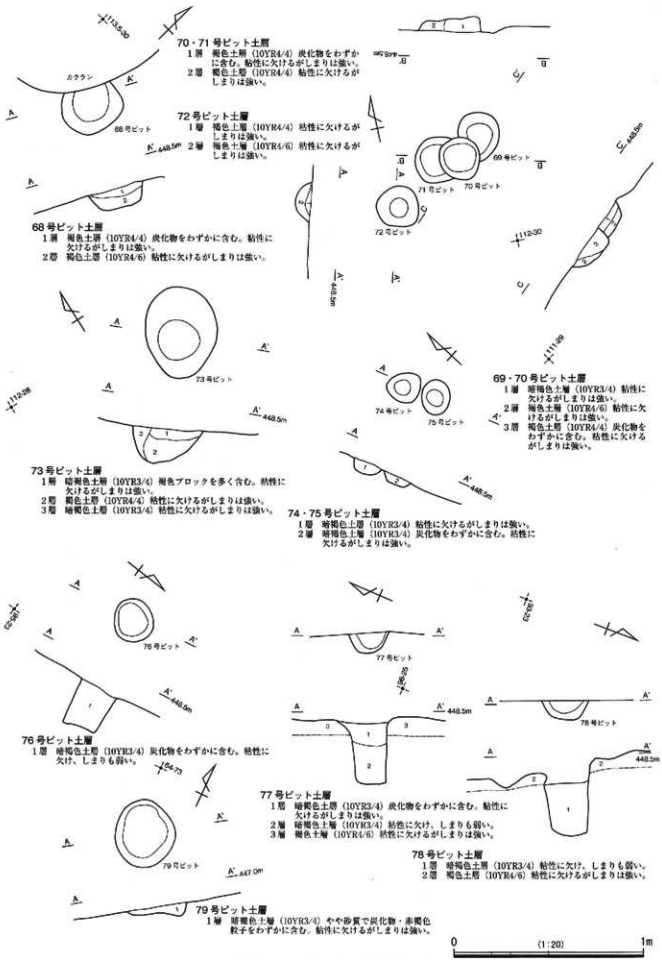
第 29 図　土坑・ピット平面図(14)



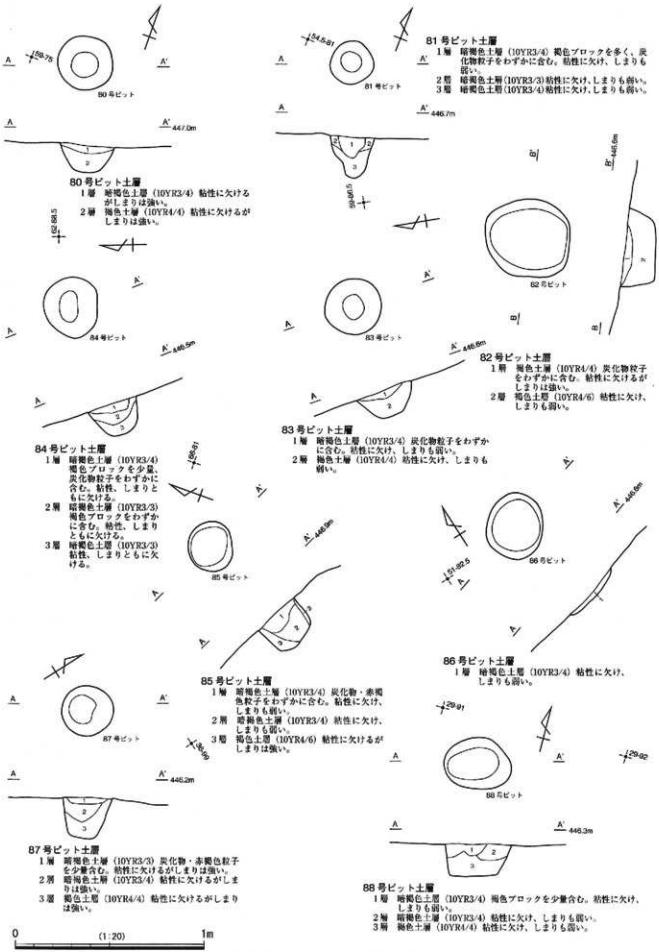
第 30 図　土坑・ピット平面図(15)



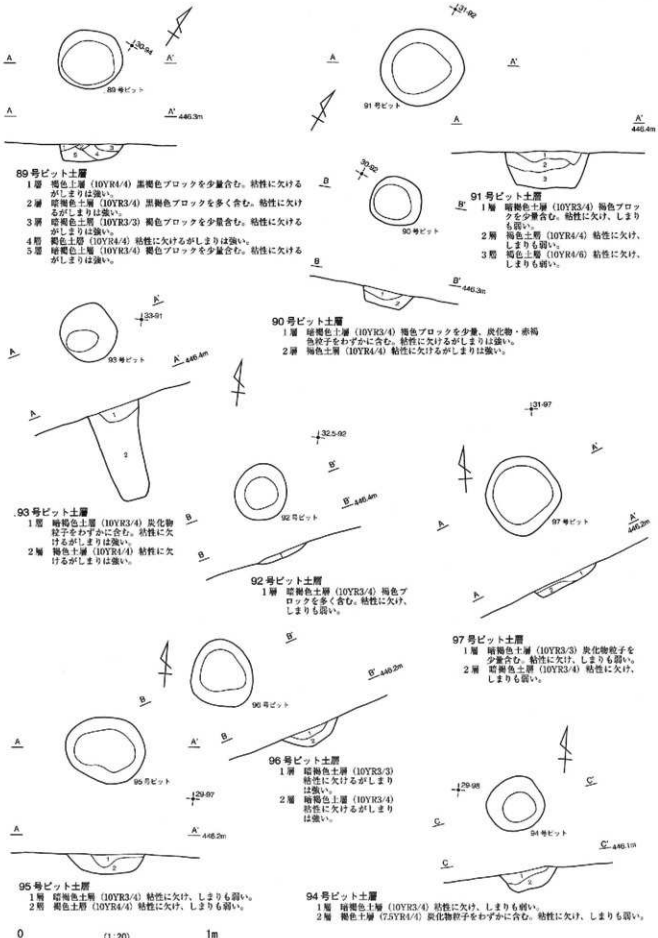
第 31 図　土坑・ピット平面図(16)



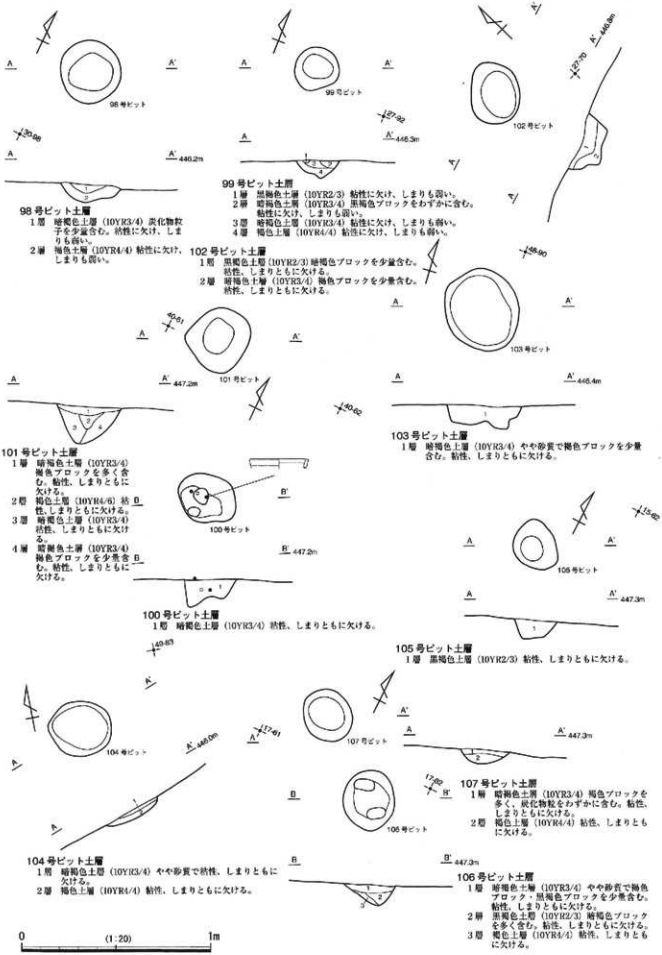
第 32 図　土坑・ピット平面図(17)



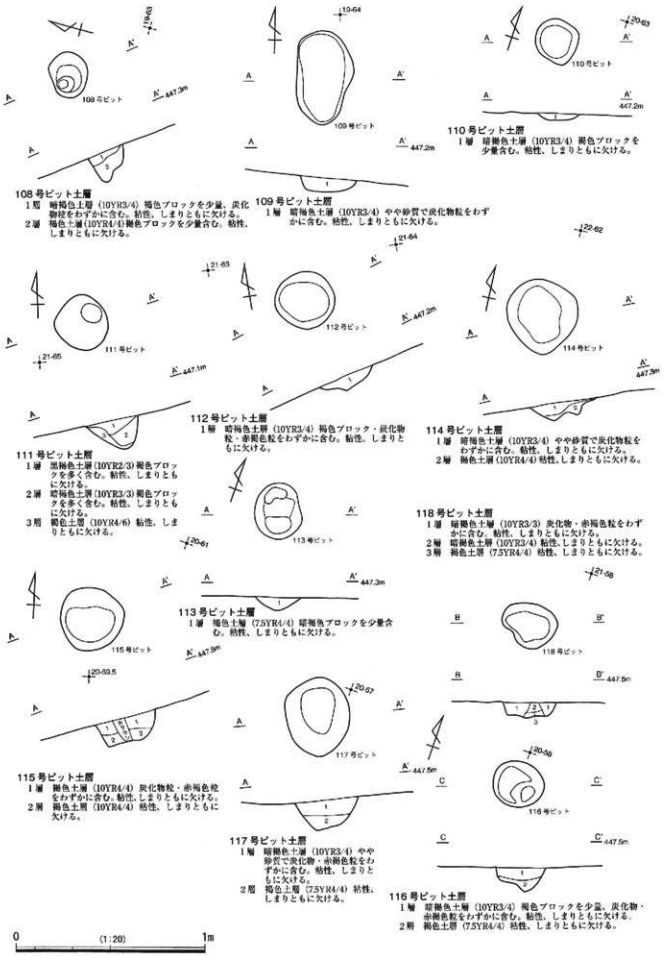
第 33 図　土坑・ピット平面図(18)



第 34 図　土坑・ピット平面図(19)



第 35 図　土坑・ピット平面図(20)



108号ピット土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量、炭化物粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　褐色土層（10YR4/4）褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。

109号ピット土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で炭化物粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。

110号ピット土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。

111号ピット土層
1層　黒褐色土層（10YR2/3）褐色ブロックを多く含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを多く含む。粘性、しまりともに欠ける。
3層　褐色土層（10YR4/6）粘性、しまりともに欠ける。

112号ピット土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロック・炭化物粒・赤褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。

113号ピット土層
1層　褐色土層（7.5YR4/4）暗褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。

114号ピット土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で炭化物粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　褐色土層（10YR4/4）粘性、しまりともに欠ける。

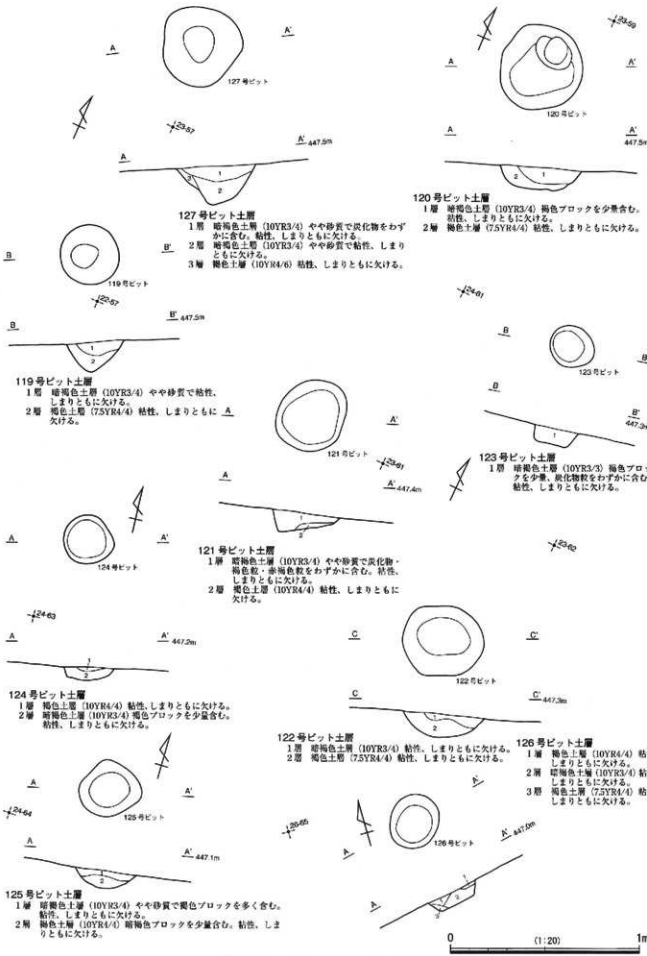
115号ピット土層
1層　褐色土層（10YR4/4）炭化物粒・赤褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　褐色土層（10YR4/4）粘性、しまりともに欠ける。

116号ピット土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量、炭化物・赤褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　褐色土層（7.5YR4/4）粘性、しまりともに欠ける。

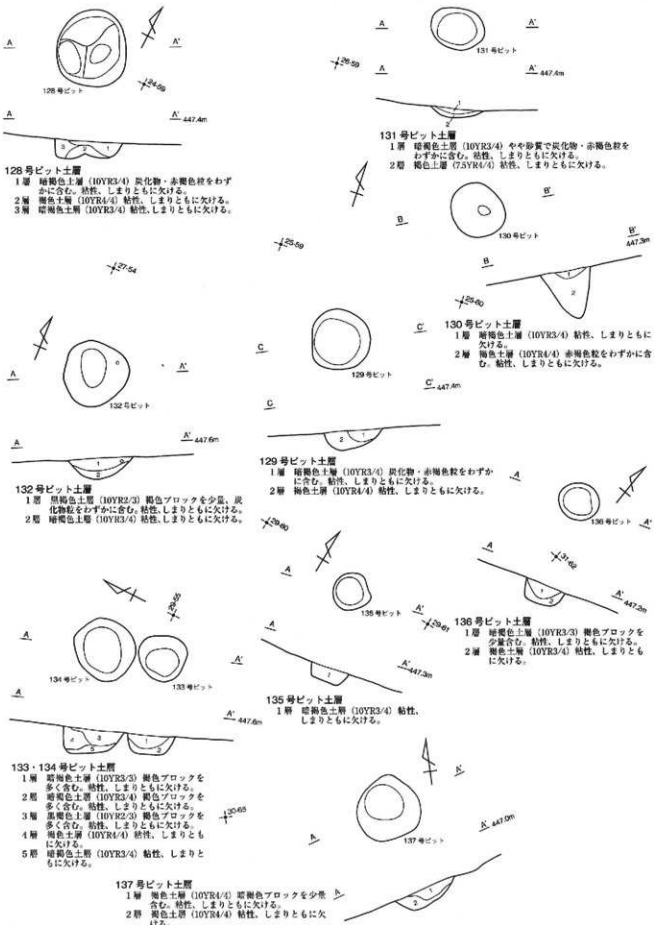
117号ピット土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で炭化物・赤褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　褐色土層（7.5YR4/4）粘性、しまりともに欠ける。

118号ピット土層
1層　暗褐色土層（10YR3/3）炭化物・赤褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性、しまりともに欠ける。
3層　褐色土層（7.5YR4/4）粘性、しまりともに欠ける。

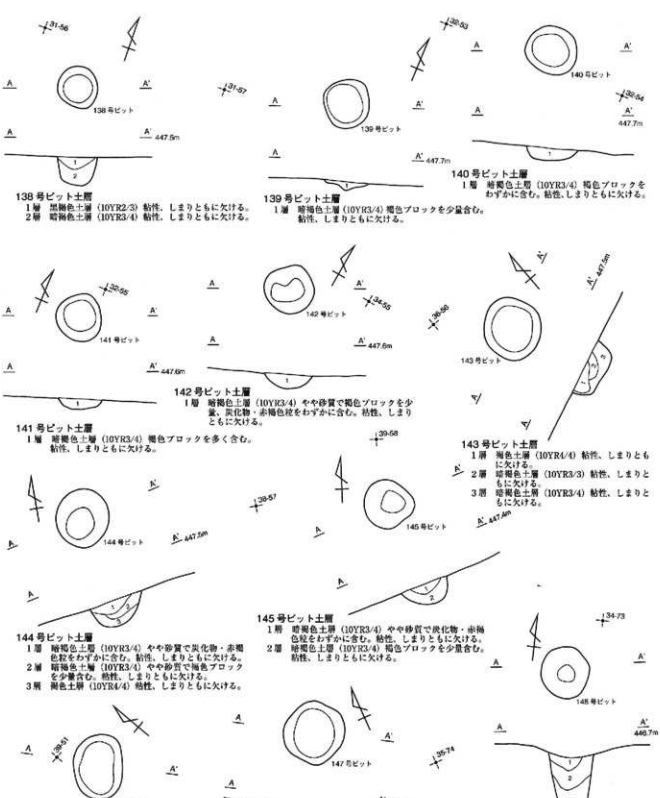
第36図　土坑・ピット平面図(21)



第 37 図　土坑・ピット平面図(22)



第 38 図　土坑・ピット平面図(23)



138 号ピット土層
1 層　黒褐色土層（10YR2/3）粘性、しまりともに欠ける。
2 層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性、しまりともに欠ける。

139 号ピット土層
1 層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。

140 号ピット土層
1 層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。

141 号ピット土層
1 層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを多く含む。粘性、しまりともに欠ける。

142 号ピット土層
1 層　暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で褐色ブロックを少量、炭化物・赤褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。

143 号ピット土層
1 層　褐色土層（10YR4/4）粘性、しまりともに欠ける。
2 層　暗褐色土層（10YR3/3）粘性、しまりともに欠ける。
3 層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性、しまりともに欠ける。

144 号ピット土層
1 層　暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で炭化物・赤褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2 層　暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
3 層　褐色土層（10YR4/4）粘性、しまりともに欠ける。

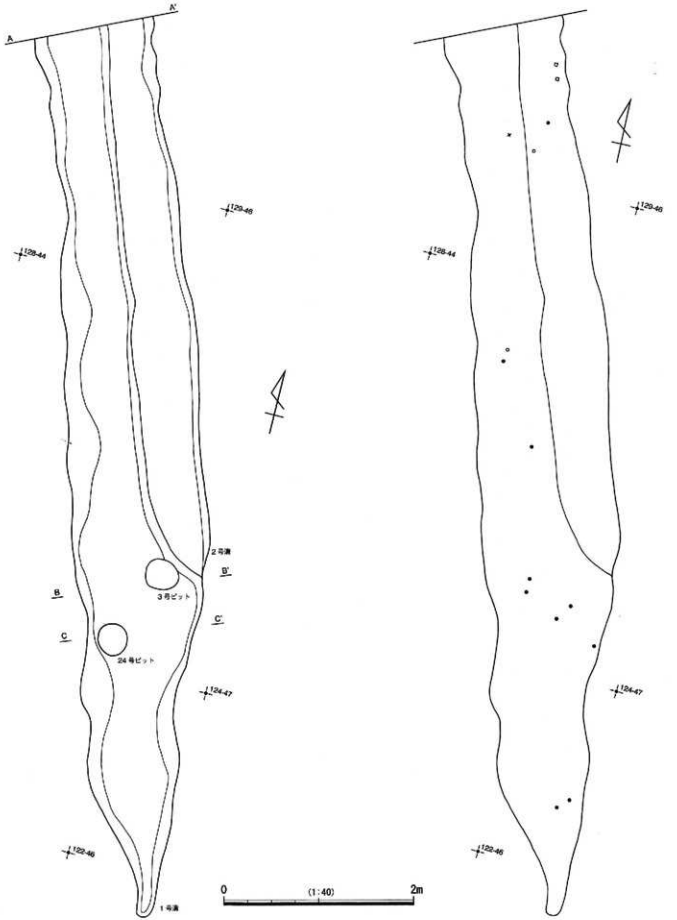
145 号ピット土層
1 層　暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で炭化物・赤褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2 層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。

146 号ピット土層
1 層　黒褐色土層（10YR2/3）褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
2 層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを多く含む。粘性、しまりともに欠ける。
3 層　褐色土層（7.5YR4/4）粘性、しまりともに欠ける。

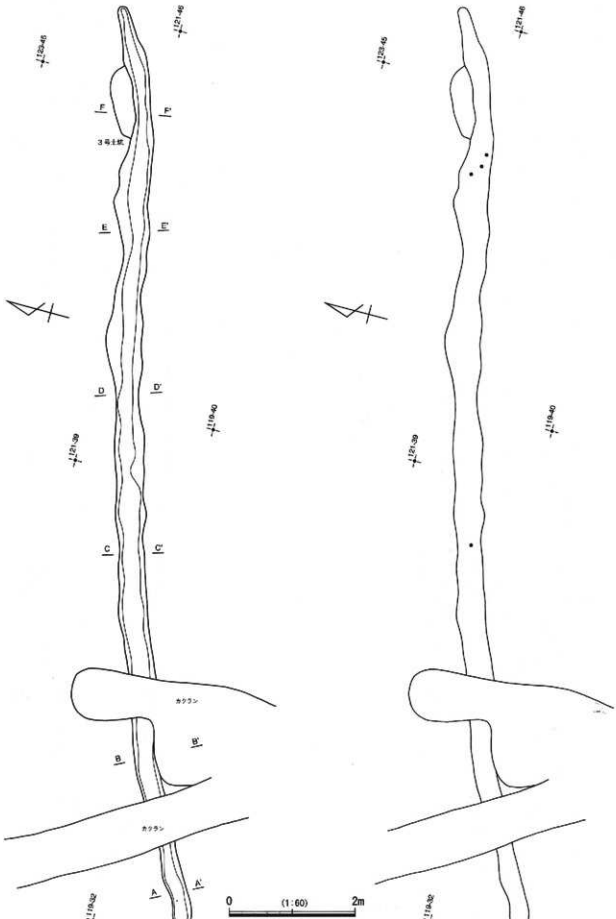
147 号ピット土層
1 層　暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを少量、炭化物・赤褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2 層　褐色土層（10YR4/4）褐色ブロックを多く含む。粘性、しまりともに欠ける。

148 号ピット土層
1 層　褐色土層（10YR4/4）黒褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2 層　褐色土層（7.5YR4/4）粘性、しまりともに欠ける。
3 層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性、しまりともに欠ける。

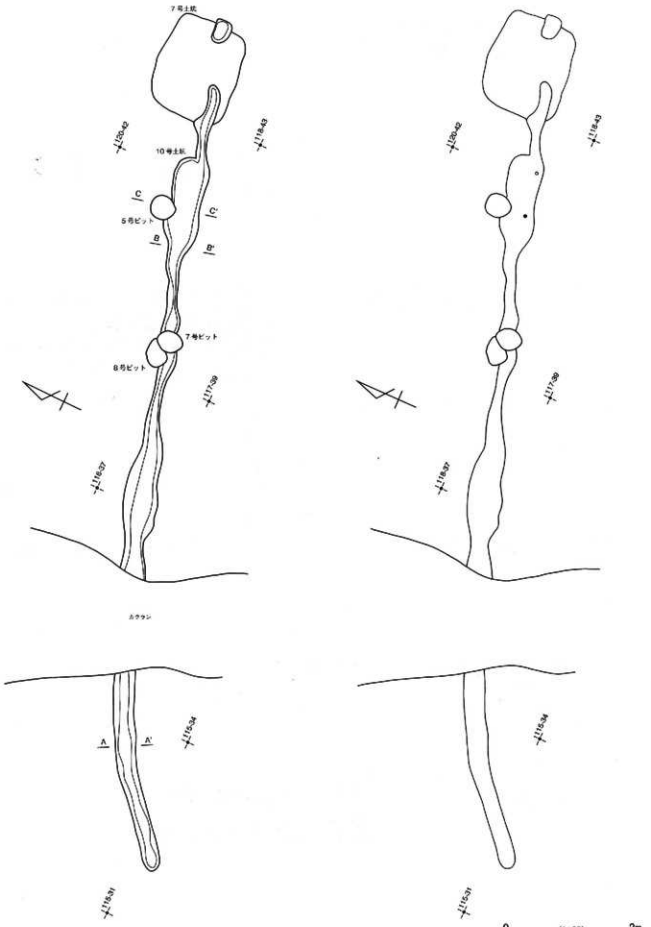
第 39 図　土坑・ピット平面図(24)



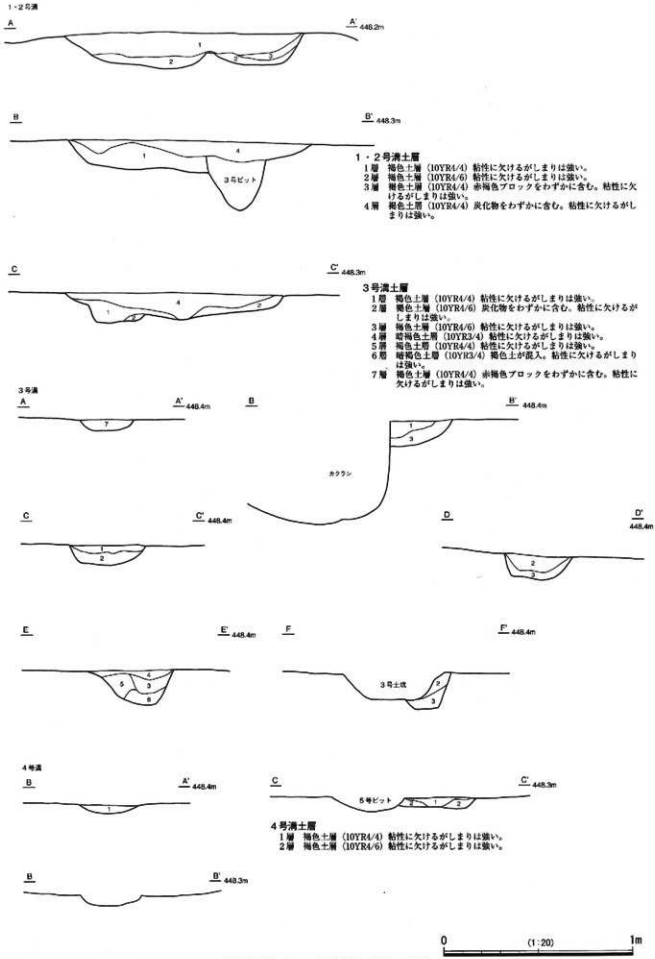
第40図　1・2号溝平面図


121.46
123.45
F
F'
3号土坑
E
E'
D
D'
119.40
121.39
C
C'
カクラン
B
B'
カクラン
A
A'
119.32
0
(1:60)
2m

第 41 図　3 号溝平面図



第 42 図　10 号土坑・4 号溝平面図



1・2号溝土層

1層　褐色土層（10YR4/4）粘性に欠けるがしまりは強い。
2層　褐色土層（10YR4/6）粘性に欠けるがしまりは強い。
3層　褐色土層（10YR4/4）赤褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
4層　褐色土層（10YR2/4）炭化物をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。

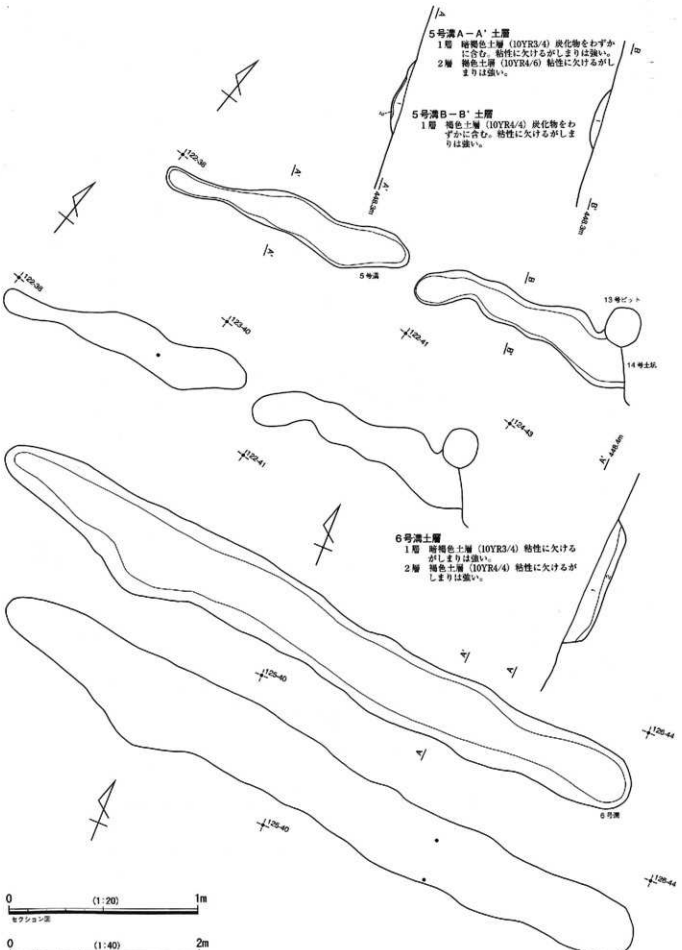
3号溝土層

1層　褐色土層（10YR4/4）粘性に欠けるがしまりは強い。
2層　褐色土層（10YR4/6）炭化物をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
3層　褐色土層（10YR4/6）粘性に欠けるがしまりは強い。
4層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性に欠けるがしまりは強い。
5層　褐色土層（10YR4/4）粘性に欠けるがしまりは強い。
6層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色土が混入。粘性に欠けるがしまりは強い。
7層　褐色土層（10YR4/4）赤褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。

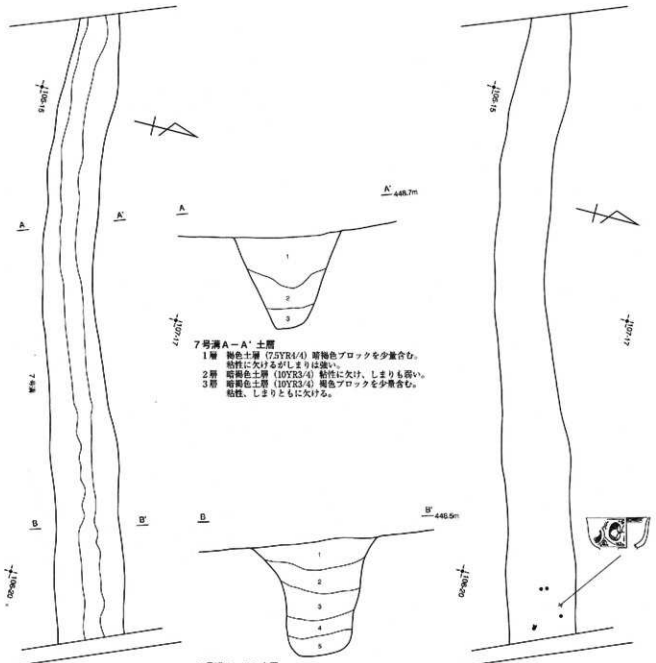
4号溝土層

1層　褐色土層（10YR4/4）粘性に欠けるがしまりは強い。
2層　褐色土層（10YR4/6）粘性に欠けるがしまりは強い。

第43図　1～4号溝セクション図



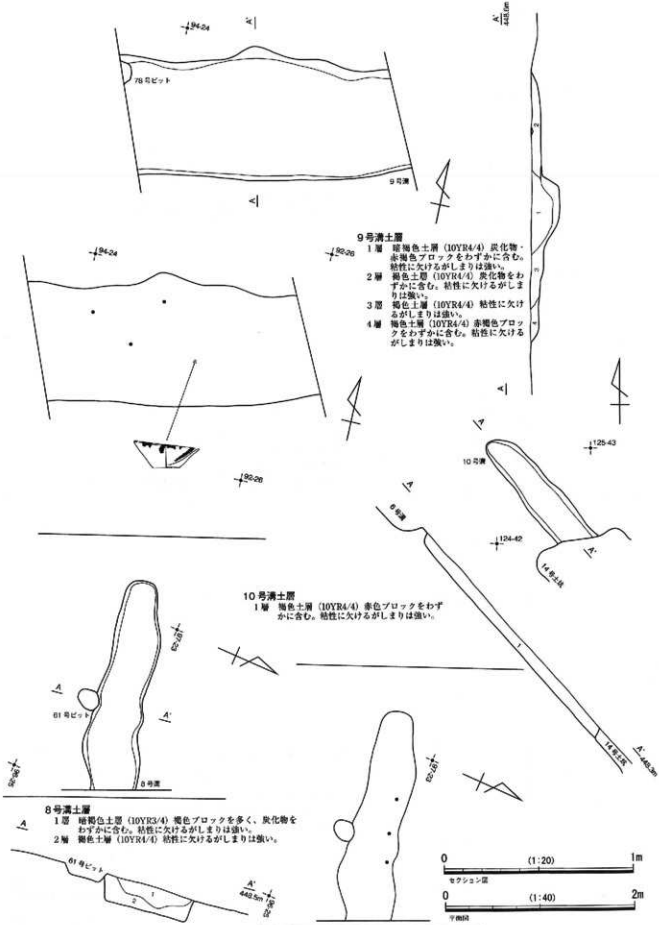
第44図　5・6号溝平面図



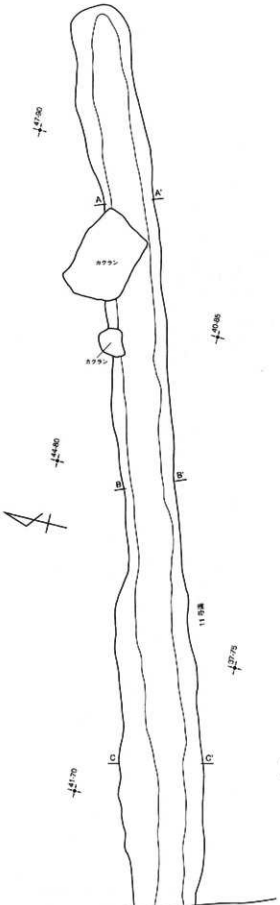
7号溝A－A'土層
1層　褐色土層（7.5YR4/4）暗褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
2層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性に欠け、しまりも弱い。
3層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。

7号溝B－B'土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量、炭化物をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりは強い。
2層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性に欠け、しまりも弱い。
3層　暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
4層　暗褐色土層（10YR3/4）粘性、しまりともに欠ける。
5層　褐色土層（10YR4/6）粘性、しまりともに欠ける。

第45図　7号溝平面図



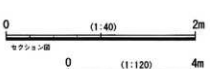
第46図　8・9・10号溝平面図



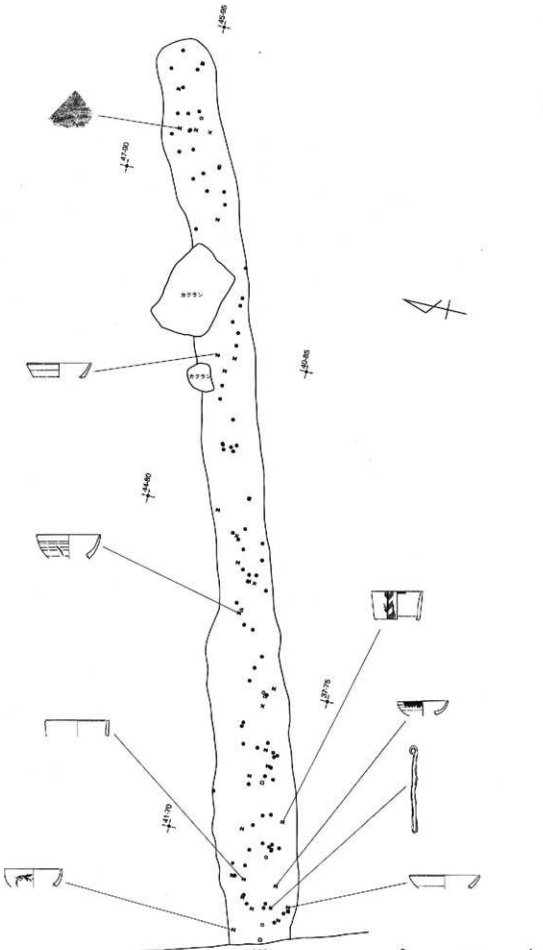
11号溝A－A'土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）やや砂質で炭化物粒・赤褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。

11号溝B－B'土層
1層　暗褐色土層（10YR3/3）やや砂質で炭化物粒・赤褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。

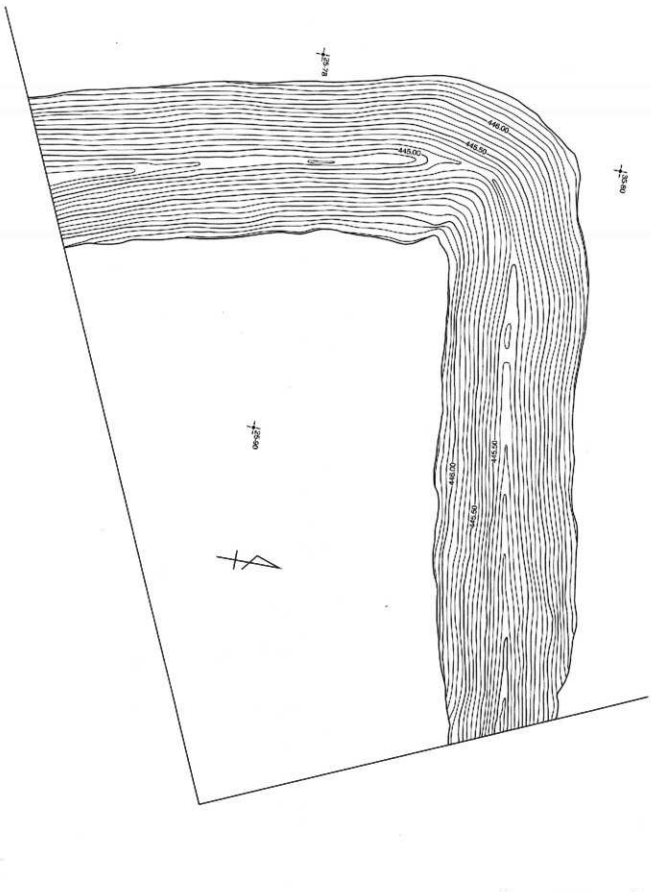
11号溝C－C'土層
1層　暗褐色土層（10YR3/3）やや砂質で炭化物粒・赤褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　にぶい黄褐色土層（10YR4/3）褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。



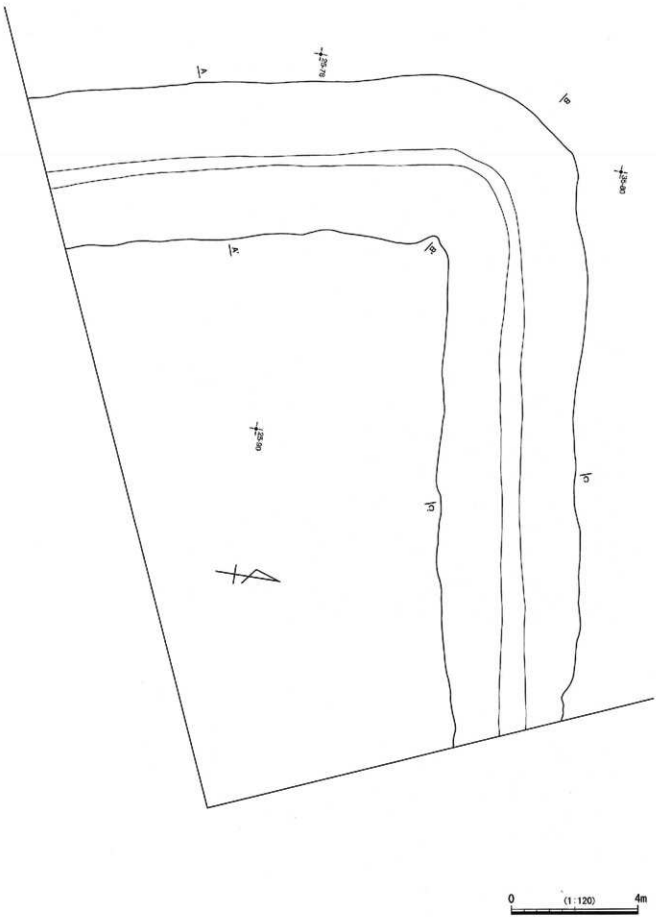
第47図　11号溝平面図



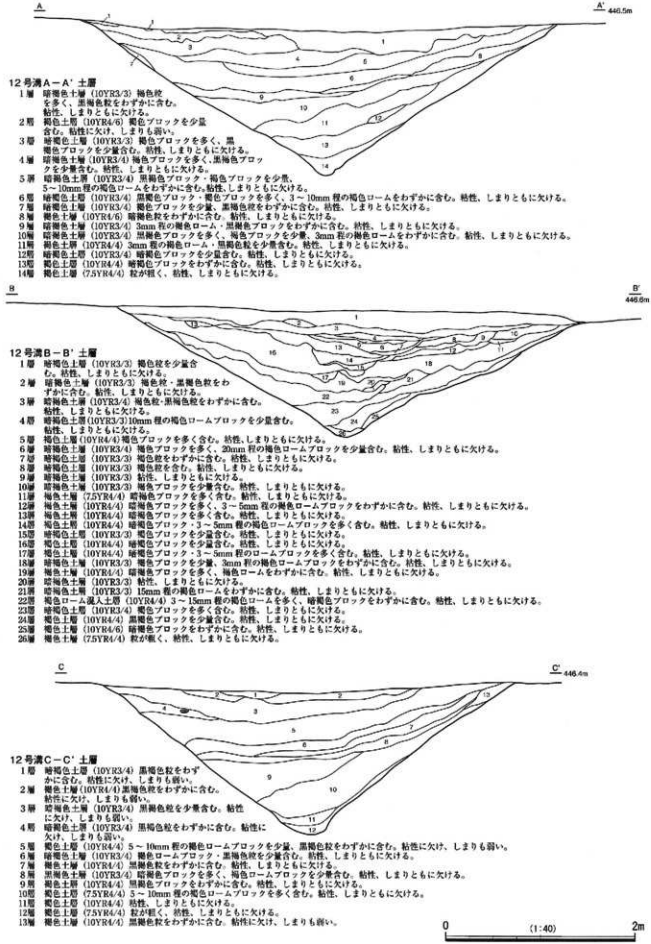
第 48 図　11 号溝遺物分布図



第49図　12号溝平面図（1）



第50図　12号溝平面図（2）



12号溝A－A' 土層

1層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色粒を多く、黒褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにやや強い。
2層 褐色土層（10YR4/6）褐色ブロックを少量含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
3層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを多く、黒褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
4層 暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを多く、黒褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
5層 暗褐色土層（10YR3/4）黒褐色ブロック・褐色ブロックを少量、5～10mm程の褐色ロームをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
6層 暗褐色土層（10YR3/4）黒褐色ブロック・褐色ブロックを多く、3～10mm程の褐色ロームをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
7層 暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを少量、黒褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
8層 褐色土層（10YR4/6）暗褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
9層 暗褐色土層（10YR3/4）3mm程の褐色ローム・黒褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
10層 暗褐色土層（10YR3/4）黒褐色ブロックを多く、褐色ブロックを少量、3mm程の褐色ロームをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
11層 褐色土層（10YR4/4）3mm程の褐色ローム・黒褐色粒を少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
12層 暗褐色土層（10YR3/4）暗褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
13層 褐色土層（10YR4/4）暗褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
14層 褐色土層（7.5YR4/4）粒が粗く、粘性、しまりともに欠ける。

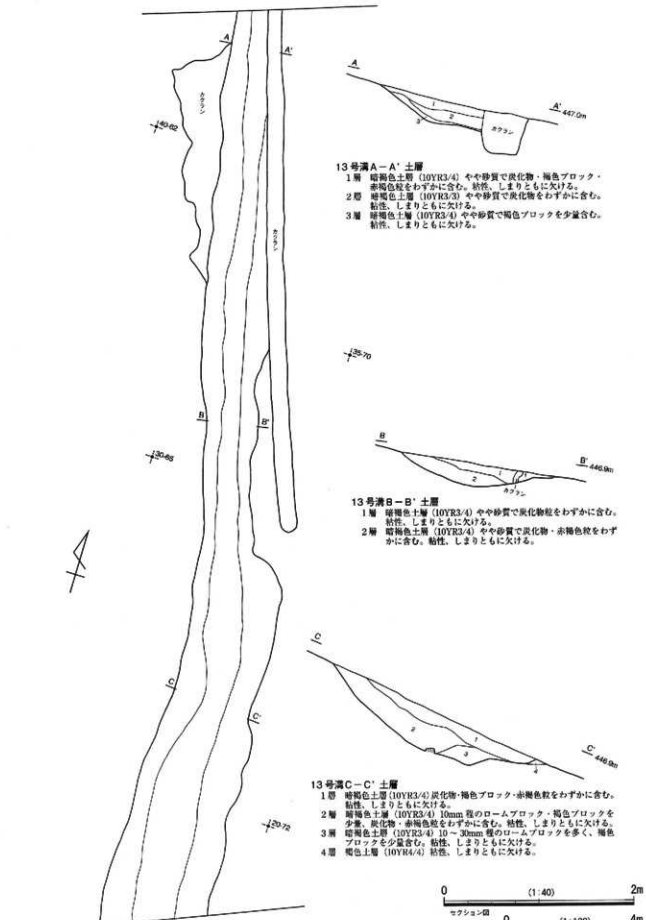
12号溝B－B' 土層

1層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色粒を少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色粒・黒褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
3層 暗褐色土層（10YR3/4）褐色粒・黒褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
4層 暗褐色土層（10YR3/3）10mm程の褐色ロームブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
5層 褐色土層（10YR4/4）褐色ブロックを多く含む。粘性、しまりともに欠ける。
6層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを多く、20mm程の褐色ロームブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
7層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
8層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色粒を含む。粘性、しまりともに欠ける。
9層 暗褐色土層（10YR3/3）粘性、しまりともに欠ける。
10層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
11層 褐色土層（7.5YR4/4）暗褐色ブロックを多く含む。粘性、しまりともに欠ける。
12層 褐色土層（10YR4/4）暗褐色ブロックを多く、3～5mm程の褐色ロームブロックをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
13層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
14層 褐色土層（10YR4/4）暗褐色ブロック・3～5mm程の褐色ロームブロックを多く含む。粘性、しまりともに欠ける。
15層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
16層 褐色土層（10YR4/4）暗褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
17層 褐色土層（10YR4/4）暗褐色ブロック・3～5mm程のロームブロックを多く含む。粘性、しまりともに欠ける。
18層 暗褐色土層（10YR3/3）褐色ブロックを少量、3cm程の褐色ロームブロックをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
19層 褐色土層（10YR4/4）暗褐色ブロックを多く、褐色ロームをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
20層 暗褐色土層（10YR3/3）粘性、しまりともに欠ける。
21層 暗褐色土層（10YR3/3）15mm程の褐色ロームをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
22層 褐色ローム混入土層（10YR4/4）3～15mm程の褐色ロームを多く、暗褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
23層 暗褐色土層（10YR3/4）褐色ブロックを多く含む。粘性、しまりともに欠ける。
24層 褐色土層（10YR4/4）黒褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
25層 褐色土層（10YR4/6）暗褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
26層 褐色土層（7.5YR4/4）粒が粗く、粘性、しまりともに欠ける。

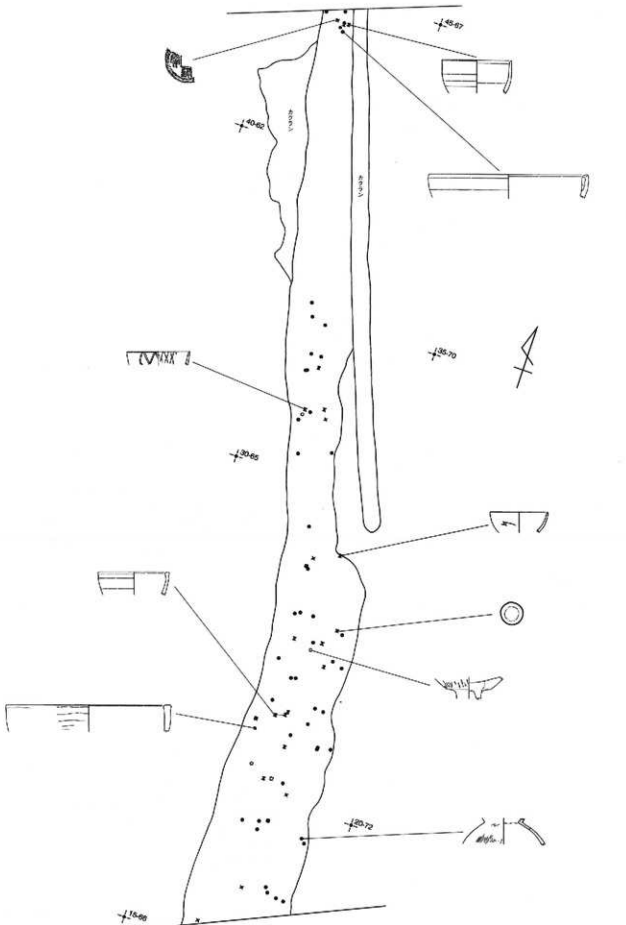
12号溝C－C' 土層

1層 暗褐色土層（10YR3/4）黒褐色粒をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
2層 褐色土層（10YR4/4）黒褐色粒をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
3層 暗褐色土層（10YR3/4）黒褐色粒を少量含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
4層 暗褐色土層（10YR3/4）黒褐色粒をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
5層 褐色土層（10YR4/4）5～10mm程の褐色ロームブロックを少量、黒褐色粒をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。
6層 暗褐色土層（10YR3/4）褐色ロームブロック・黒褐色粒を少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
7層 褐色土層（10YR4/4）黒褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
8層 黒褐色土層（10YR3/4）暗褐色ブロックを多く、褐色ロームブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
9層 褐色土層（10YR4/4）黒褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
10層 褐色土層（7.5YR4/4）5～10mm程の褐色ロームブロックを多く含む。粘性、しまりともに欠ける。
11層 褐色土層（10YR4/4）粘性、しまりともに欠ける。
12層 褐色土層（7.5YR4/4）粒が粗く、粘性、しまりともに欠ける。
13層 褐色土層（10YR4/4）黒褐色粒をわずかに含む。粘性に欠け、しまりも弱い。

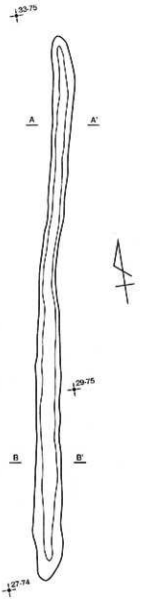
第51図 12号溝セクション図

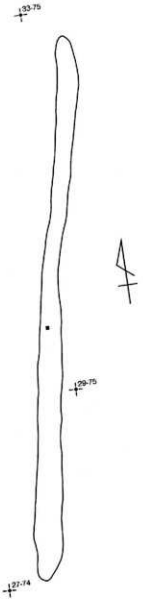


第 52 図　13 号溝平面図



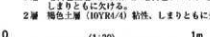
第 53 図　13 号溝遺物分布図



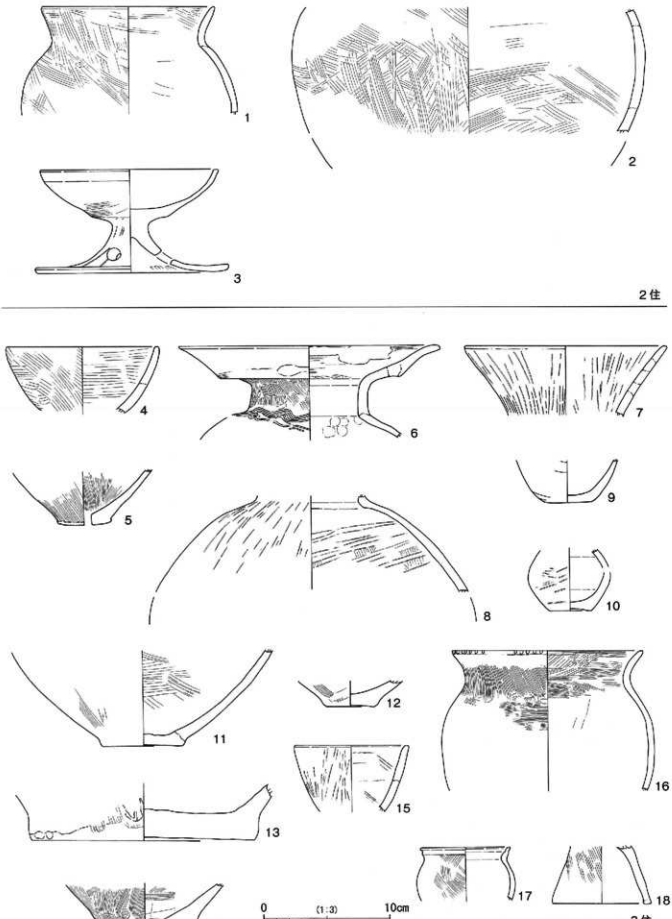


15号溝A－A'土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）黒褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。

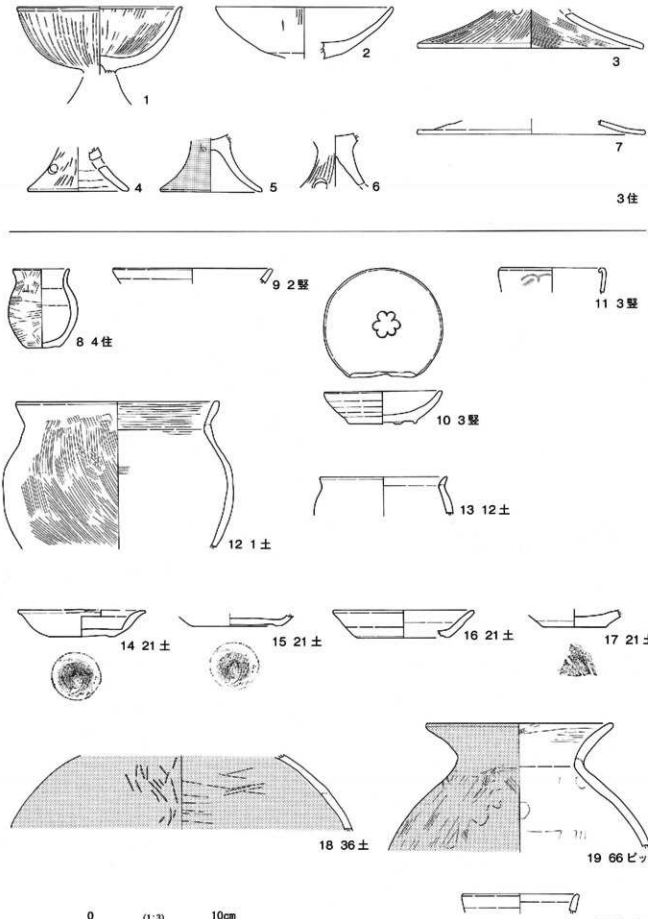
15号溝B－B'土層
1層　暗褐色土層（10YR3/4）暗褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　褐色土層（10YR4/4）粘性、しまりともに欠ける。



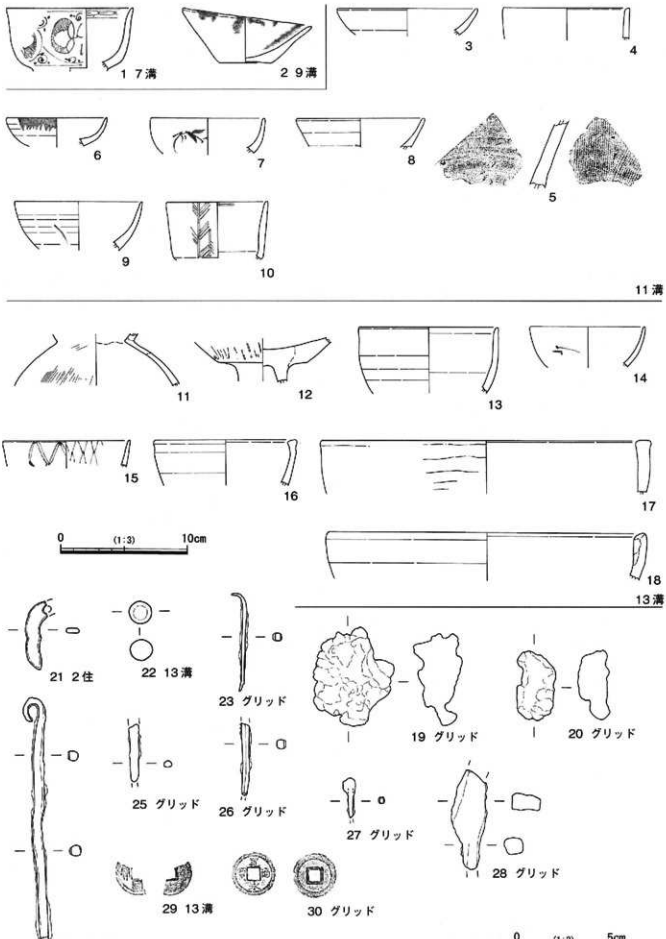
第54図　15号溝平面図



第55図　出土遺物（1）


1
2
3
4
5
6
7
3住
8 4住
9 2竪
10 3竪
11 3竪
12 1土
13 12土
14 21土
15 21土
16 21土
17 21土
18 36土
19 66ピット
20 100ピット
0 (1:3) 10cm

第56図　出土遺物（2）


1 7溝
2 9溝
3
4
6
7
8
5
9
10
11溝
11
12
13
14
15
16
17
0 (1:3) 10cm
18
13溝
21 2住
22 13溝
23 グリッド
19 グリッド
20 グリッド
25 グリッド
26 グリッド
27 グリッド
28 グリッド
29 13溝
30 グリッド
24 11溝
0 (1:2) 5cm

第57図　出土遺物（3）

1　1号住居

2　同遺物出土状況（1）

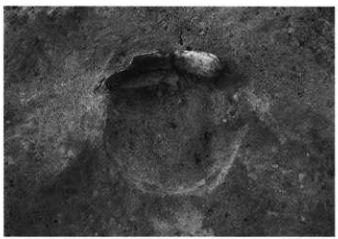
3　同（2）

4　2号住居

5　同遺物出土状況（1）

6　同（2）

7　同（3）



8　同炉

図版２

1　３号住居

2　同遺物出土状況（1）

3　同（2）

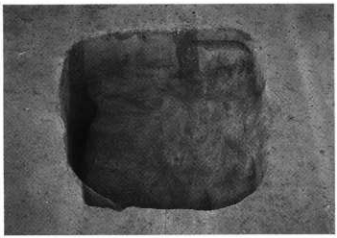
4　同（3）

5　４号住居

6　同遺物出土状況（1）

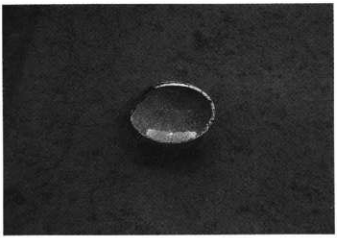
7　同（2）

8　１号竪穴状遺構

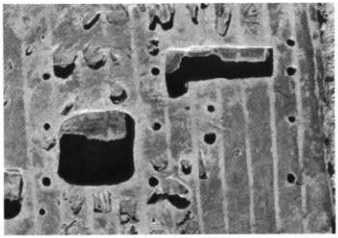


1　２号竪穴状遺構

2　３号竪穴状遺構

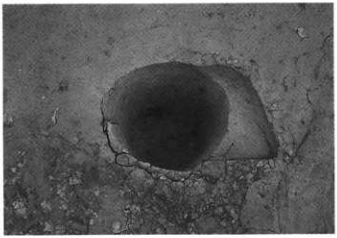


3　同遺物出土状況



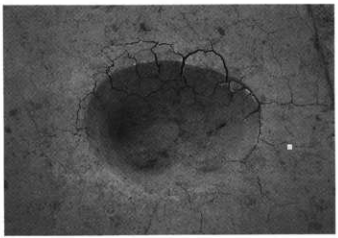
4　１号掘立柱建物

5　１号土坑



6　２号土坑

7　３・４号土坑

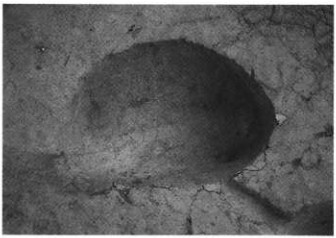


8　５号土坑

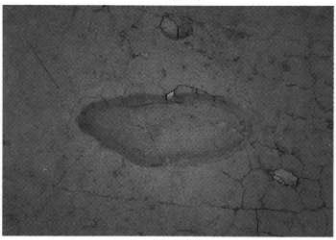
図版4

1　6号土坑

2　7号土坑

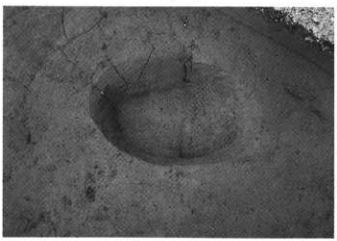


3　8号土坑



4　9号土坑

5　10号土坑



6　15号土坑

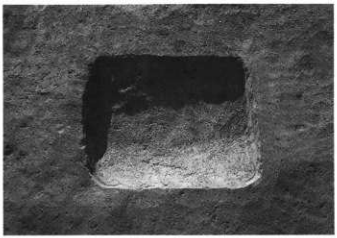
7　16号土坑

8　17号土坑

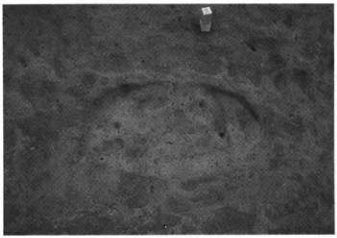
1　20号土坑

2　21・22号土坑

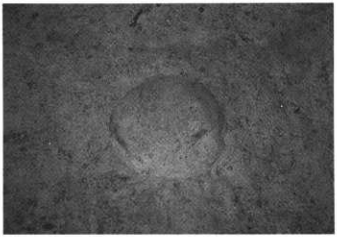
3　27・28号土坑



4　30号土坑



5　32号土坑



6　33号土坑

7　34号土坑

8　36号土坑

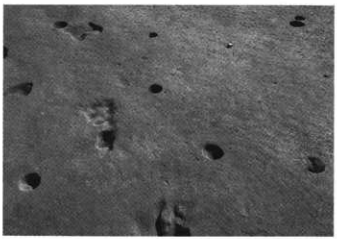
図版6

1　1・2号ピット

2　6号ピット

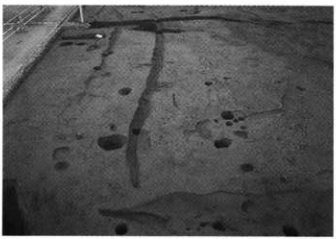
3　88・93～99号ピット

4　94～98号ピット



5　138～142号ピット

6　1・2号溝



7　3～5号溝

8　7号溝

1　8・9号溝

2　11号溝

3　12号溝(1)

4　同(2)

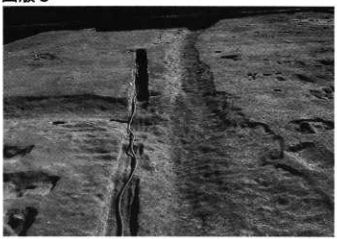
5　同(3)

6　同(4)

7　同セクション(1)

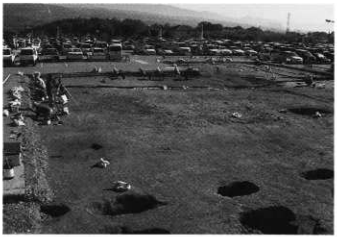
8　同(2)

図版8



1　13号溝

2　15号溝



3　A区調査風景

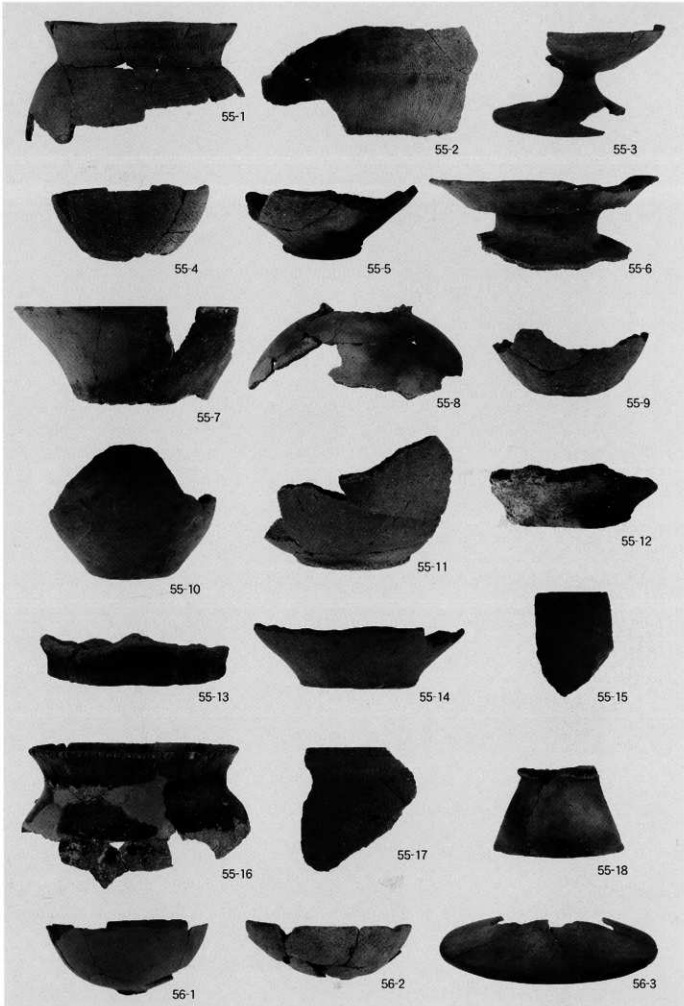
4　B区北側調査風景（1）

5　同（2）

6　B区南側調査風景

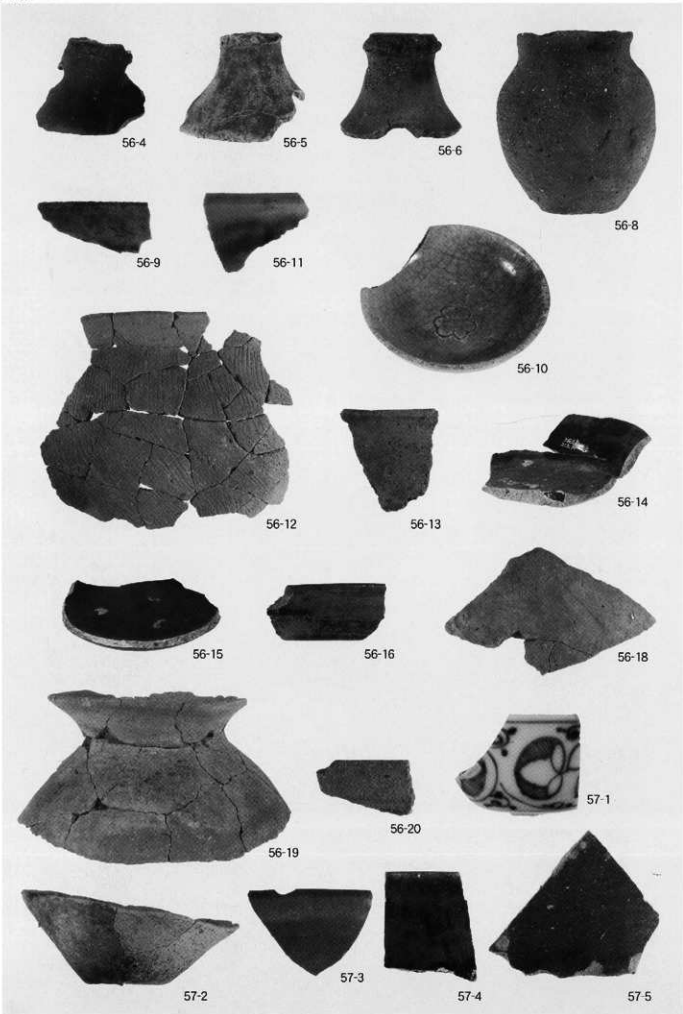
7　12号溝調査風景（1）

8　同（2）

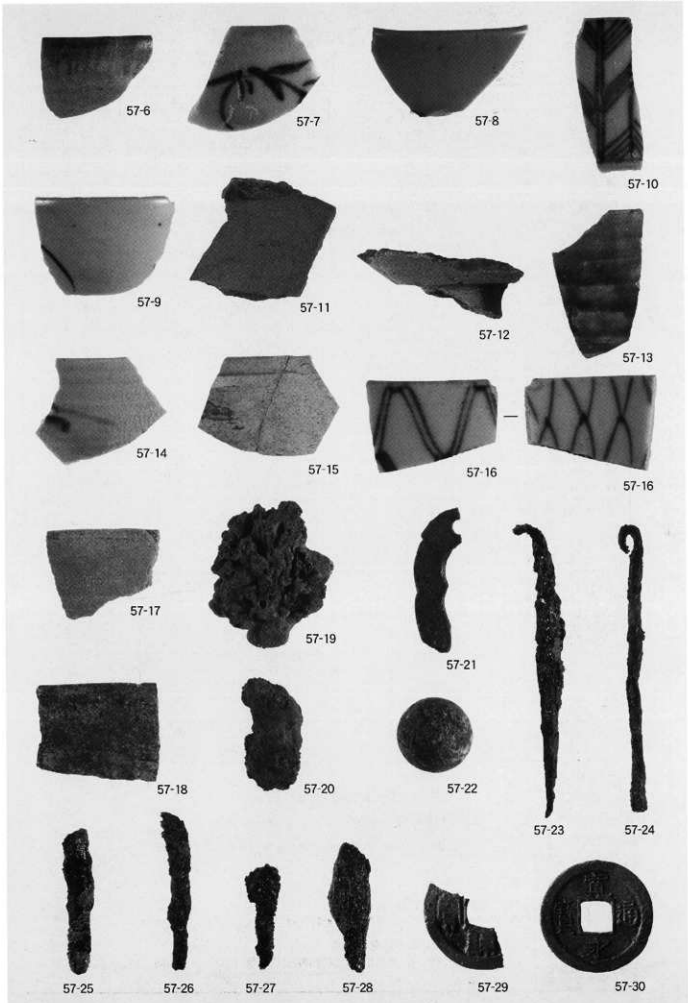

55-1
55-2
55-3
55-4
55-5
55-6
55-7
55-8
55-9
55-10
55-11
55-12
55-13
55-14
55-15
55-16
55-17
55-18
56-1
56-2
56-3

出土遺物(1)

図版 10


56-4
56-5
56-6
56-8
56-9
56-11
56-10
56-12
56-13
56-14
56-15
56-16
56-18
56-19
56-20
57-1
57-2
57-3
57-4
57-5

出土遺物(2)


57-6
57-7
57-8
57-10
57-9
57-11
57-12
57-13
57-14
57-15
57-16
57-16
57-17
57-19
57-21
57-18
57-20
57-22
57-23
57-24
57-25
57-26
57-27
57-28
57-29
57-30

出土遺物（3）

坂井南遺跡報告書抄録

ふりがな		さかいみなみいせきⅣ
書名		坂井南遺跡Ⅳ
副書名		藤井町北下条字大原2381番地の1地点 工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
著者名		宮澤公雄
発行者		韮崎市教育委員会
編集機関		財団法人山梨文化財研究所
住所・電話		〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 TEL 055-263-6441
印刷日		2007年9月20日
発行日		2007年9月30日
所在地		山梨県韮崎市藤井町
地図名		25,000分の1地形図　韮崎
位置		北緯35度43分27秒、東経138度26分07秒
標高		447m
市町村コード		19207
調査原因		工場建設
調査期間		2005年10月11日～2006年2月7日
調査面積		2,487㎡
遺跡概要	主な時代	古墳時代・中世
	主な遺構	古墳時代前期の竪穴住居跡、中世の竪穴状遺構・堀
	主な遺物	古墳時代前期の土師器、中世陶器

坂井南遺跡Ⅳ

藤井町北下条字大原2381番地の1地点

工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成19年9月30日　発行

編集・発行　韮崎市教育委員会
〒407-8501 山梨県韮崎市水神1-3-1　TEL 0551－22－1111

財団法人山梨文化財研究所
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566　TEL 055－263－6441